

7. 地域活動・町会自治会

7-1 近所づきあいの状況

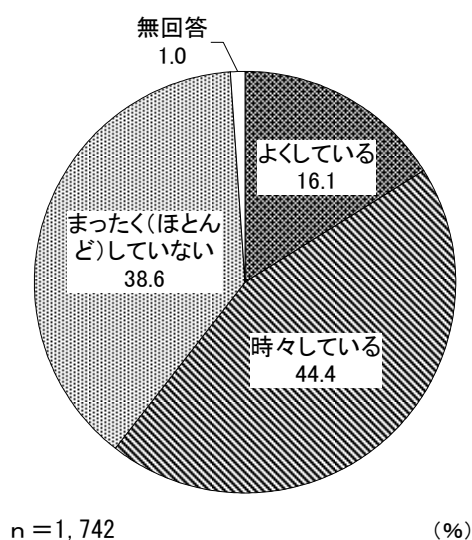
問14 あなた（またはあなたの世帯）は、ご近所づきあいをしていますか。（○は1つ）

- ・「よくしている」と「時々している」を合わせた『している』はほぼ6割を占めている。
- ・『している』は居住年数が長いほど割合が高い傾向にあり、特に20年以上で高くなっている。また、三世代家族と二世世代家族、就学前の乳幼児がいる人、65歳以上の方がいる人、小・中学生がいる人、一戸建持家と一戸建借家で高くなっている。

(1) 全体

- ・「よくしている」16.1%と「時々している」44.4%を合わせた『している』は60.5%となっている。一方、「まったく（ほとんど）していない」は38.6%となっている。

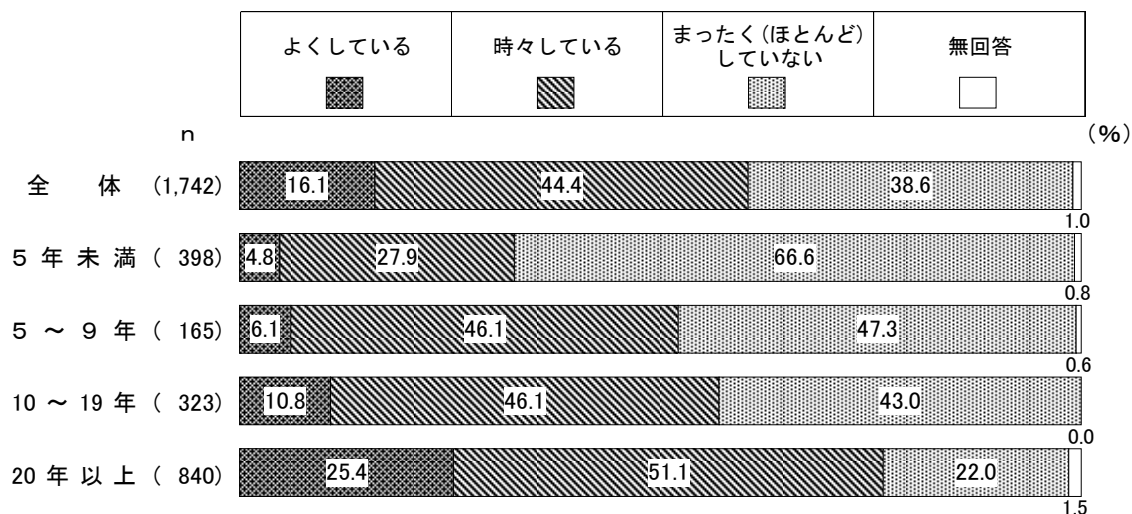
図7-1-1 近所づきあいの状況（全体）



(2) 居住年数別

- ・『している』は居住年数が長いほど割合が高い傾向にあり、特に20年以上（76.5%）で高くなっている。

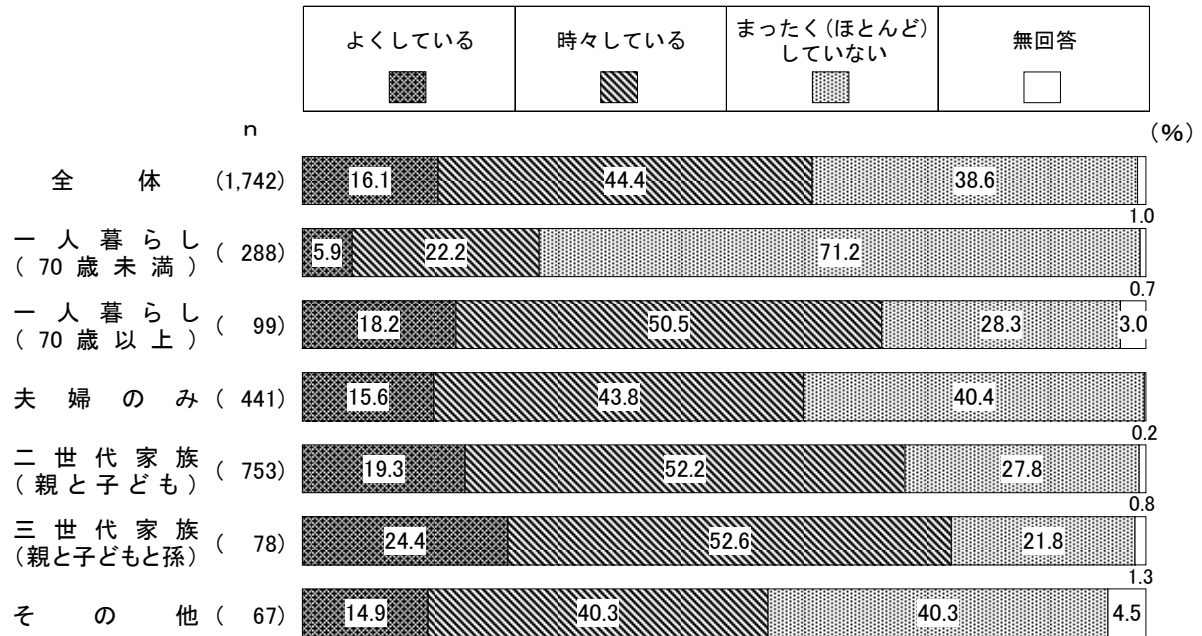
図7-1-2 近所づきあいの状況（居住年数別）



(3) 世帯構成別

- ・『している』は三世代家族（77.0%）と二世代家族（71.5%）で高くなっている。
- ・「まったく（ほとんど）していない」は一人暮らし（70歳未満）（71.2%）で高くなっている。

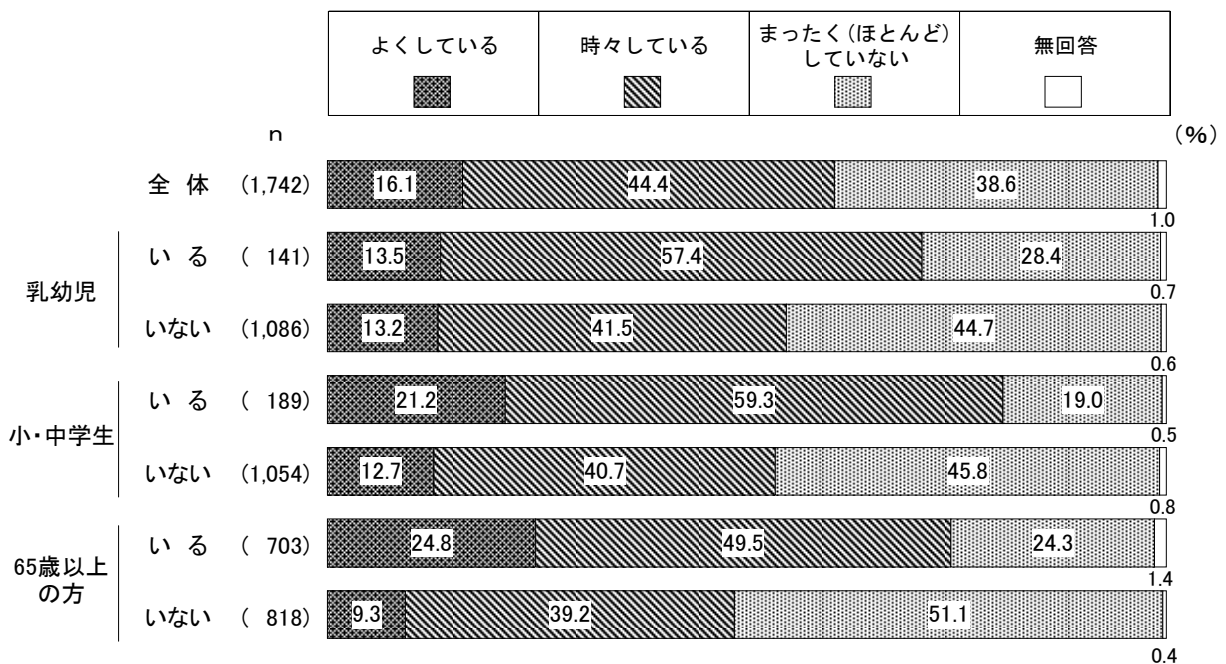
図7-1-3 近所づきあいの状況（世帯構成別）



(4) 家族構成別

- ・『している』は小・中学生がいる人（80.5%）で高く、小・中学生がいない人（53.4%）より27.1ポイント高くなっている。また、65歳以上の方がいる人（74.3%）と就学前の乳幼児がいる人（70.9%）で高くなっている。

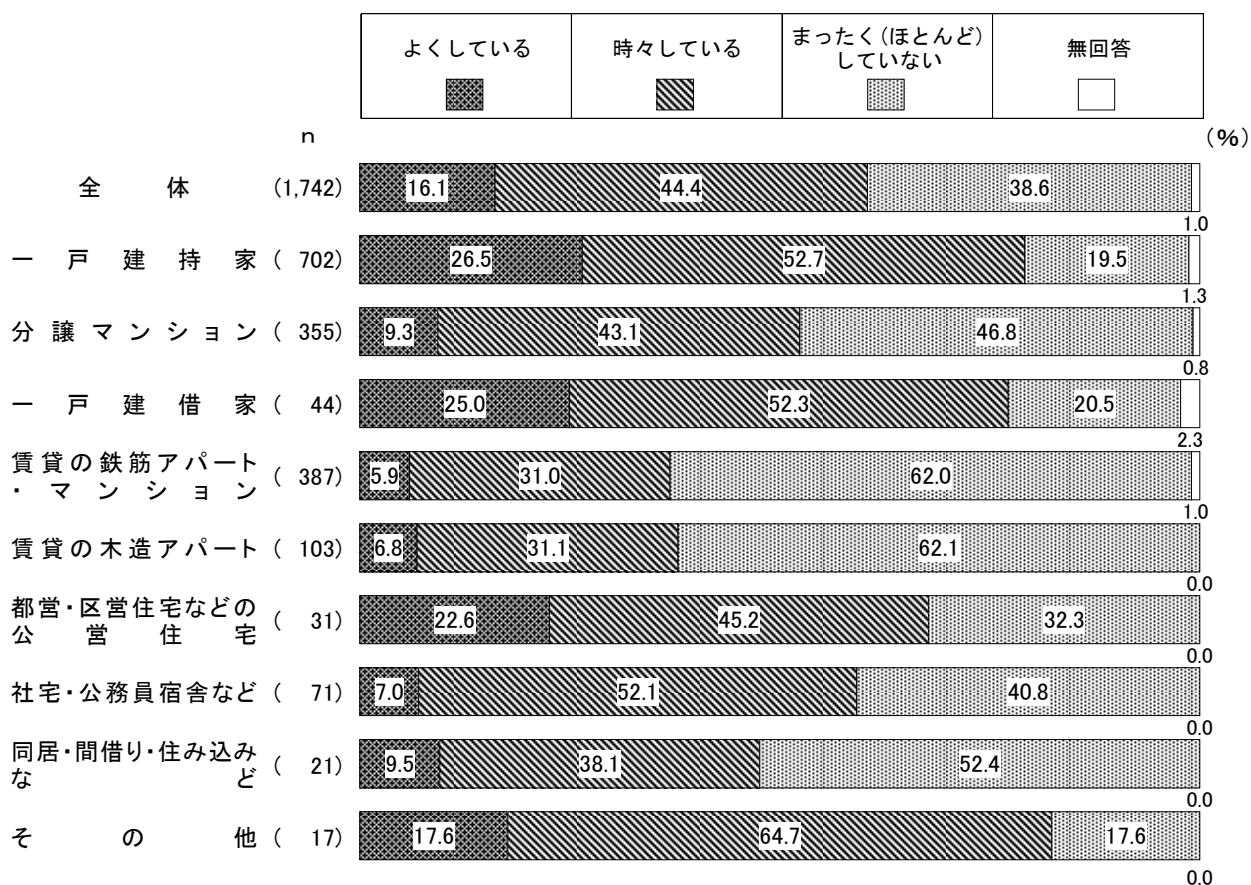
図7-1-4 近所づきあいの状況（家族構成別）



(5) 居住形態別

- ・『している』は一戸建持家 (79.2%) と一戸建借家 (77.3%) で高くなっている。
- ・「まったく (ほとんど) していない」は賃貸の木造アパート (62.1%) と賃貸の鉄筋アパート・マンション (62.0%) で高くなっている。

図7-1-5 近所づきあいの状況 (居住形態別)



7-2 地域活動への参加状況

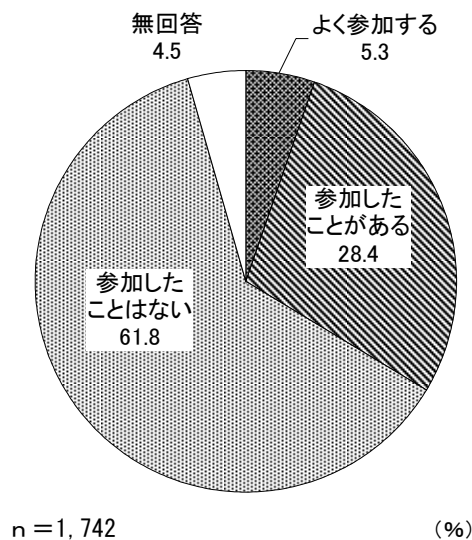
問15 あなた（またはあなたの世帯）は、地域活動に参加したことがありますか。（○は1つ）

- ・「よく参加する」と「参加したことがある」を合わせた『参加したことがある』は3割を超えている。
- ・『参加したことがある』は居住年数が長いほど割合が高い傾向にあり、特に20年以上で高くなっている。また、三世代家族と二世世代家族、小・中学生がいる人、就学前の乳幼児がいる人、65歳以上の方がいる人、一戸建持家と一戸建借家で高くなっている。

(1) 全体

- ・「よく参加する」5.3%と「参加したことがある」28.4%を合わせた『参加したことがある』は33.7%となっている。一方、「参加したことはない」は61.8%となっている。

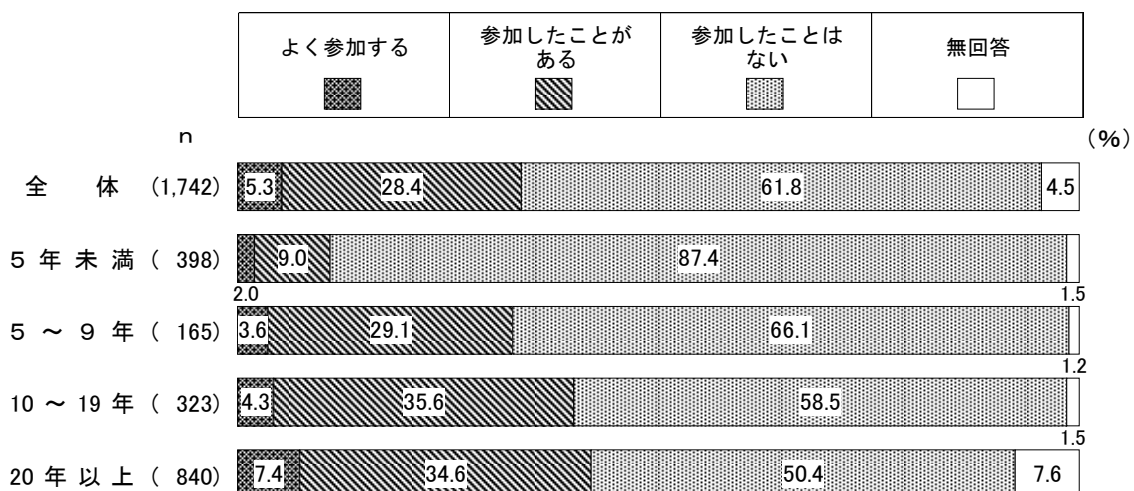
図7-2-1 地域活動への参加状況（全体）



(2) 居住年数別

- ・「よく参加する」と「参加したことがある」を合わせた『参加したことがある』は居住年数が長いほど割合が高い傾向にあり、特に20年以上（42.0%）で高くなっている。

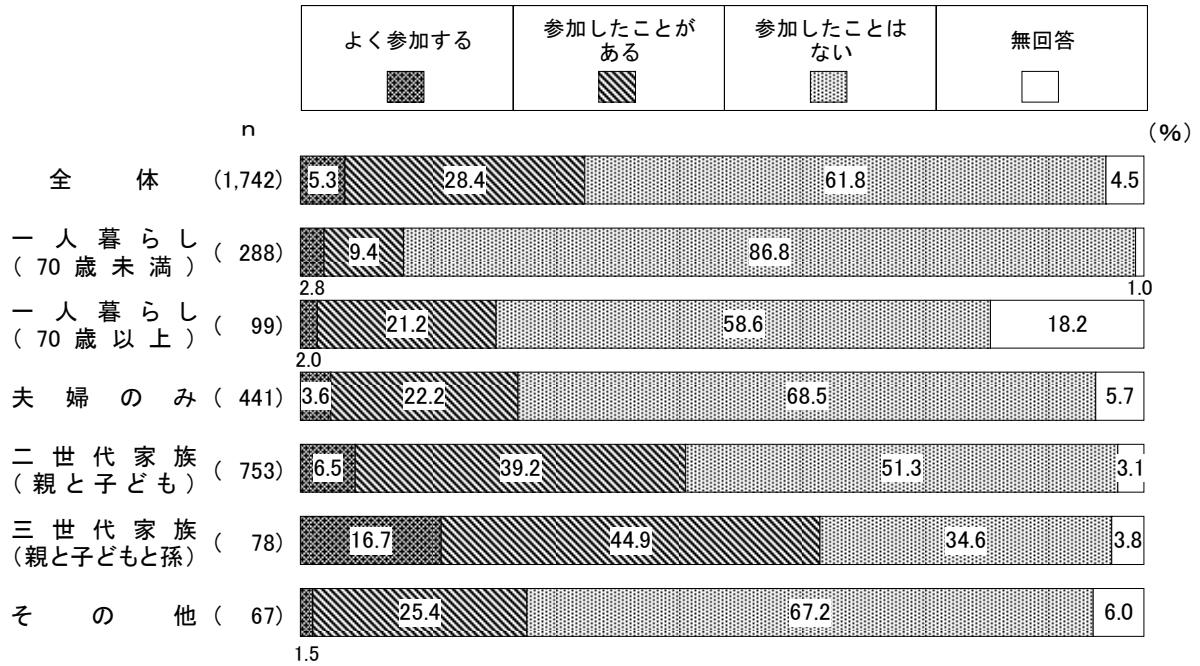
図7-2-2 地域活動への参加状況（居住年数別）



(3) 世帯構成別

- ・「よく参加する」と「参加したことがある」を合わせた『参加したことがある』は三世代家族(61.6%)と二世世代家族(45.7%)で高くなっている。
- ・「参加したことはない」は一人暮らし(70歳未満)(86.8%)で高くなっている。

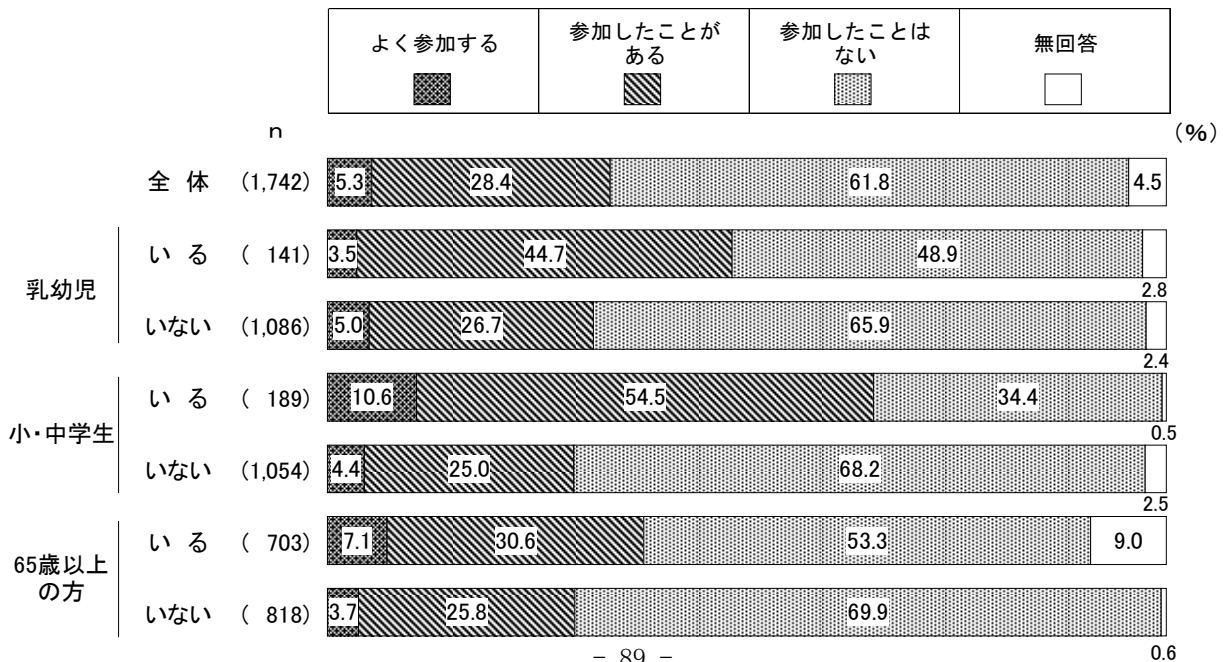
図7-2-3 地域活動への参加状況(世帯構成別)



(4) 家族構成別

- ・「よく参加する」と「参加したことがある」を合わせた『参加したことがある』は小・中学生がいる人(65.1%)で高く、小・中学生がいない人(29.4%)より35.7ポイント高くなっている。また、就学前の乳幼児がいる人(48.2%)と65歳以上の方がいる人(37.7%)で高くなっている。

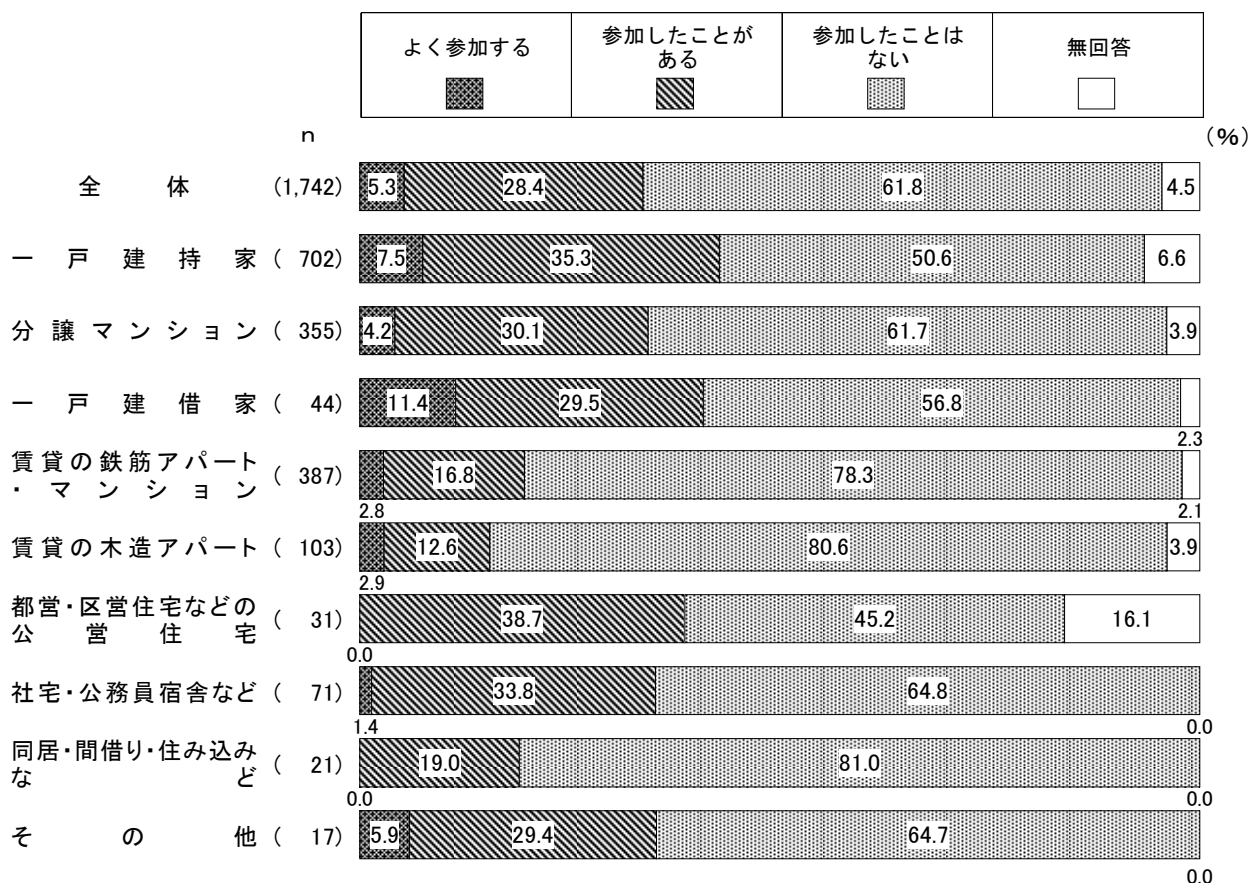
図7-2-4 地域活動への参加状況(家族構成別)



(5) 居住形態別

- ・「よく参加する」と「参加したことがある」を合わせた『参加したことがある』は一戸建持家(42.8%)と一戸建借家(40.9%)で高くなっている。
- ・「参加したことはない」は同居・間借り・住み込みなど(81.0%)、賃貸の木造アパート(80.6%)、賃貸の鉄筋アパート・マンション(78.3%)で高くなっている。

図7-2-5 地域活動への参加状況(居住形態別)



7-3 参加した地域活動

(問15で、地域活動に「よく参加する」「参加したことがある」のいずれかに回答した方にお尋ねします)

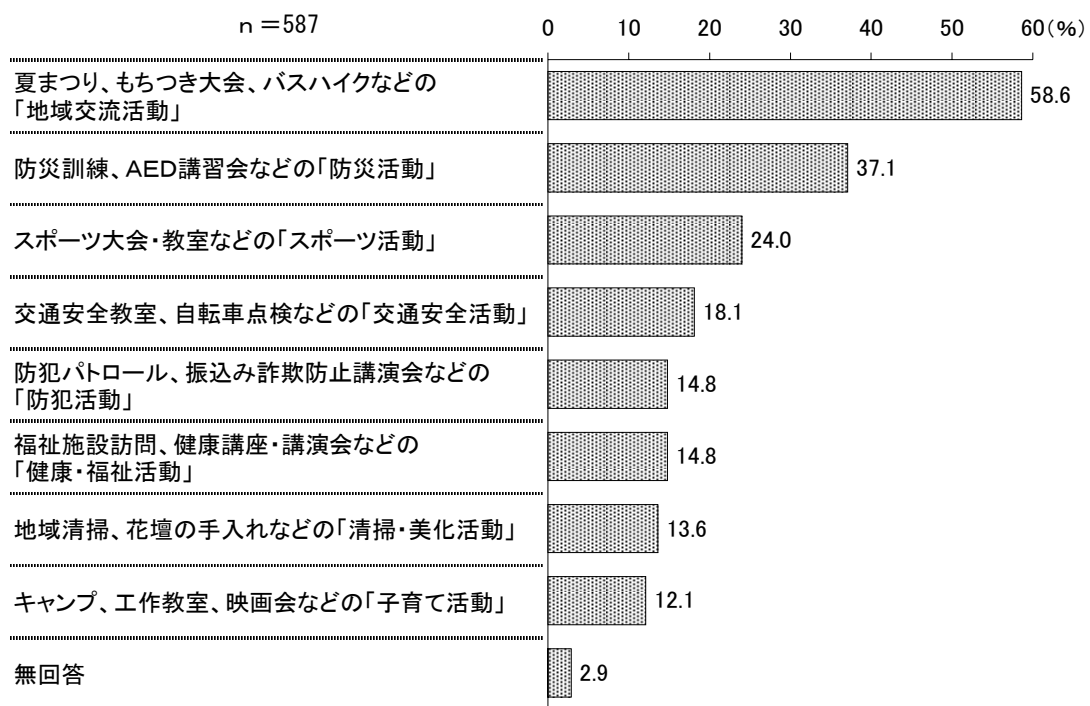
問15-1 参加した活動の種類を教えてください。(〇はいくつでも)

- ・「夏まつり、もちつき大会、バスハイクなどの『地域交流活動』」が6割近くで最も高く、次いで「防災訓練、AED講習会などの『防災活動』」が4割近く、「スポーツ大会・教室などの『スポーツ活動』」が2割半ばとなっている。

(1) 全体

- ・「夏まつり、もちつき大会、バスハイクなどの『地域交流活動』」が58.6%で最も高く、次いで「防災訓練、AED講習会などの『防災活動』」37.1%、「スポーツ大会・教室などの『スポーツ活動』」24.0%、「交通安全教室、自転車点検などの『交通安全活動』」18.1%の順となっている。

図7-3-1 参加した地域活動(全体)



7-4 地域活動に参加したかたの年齢

(問15で、地域活動に「よく参加する」「参加したことがある」のいずれかに回答した方にお尋ねします)

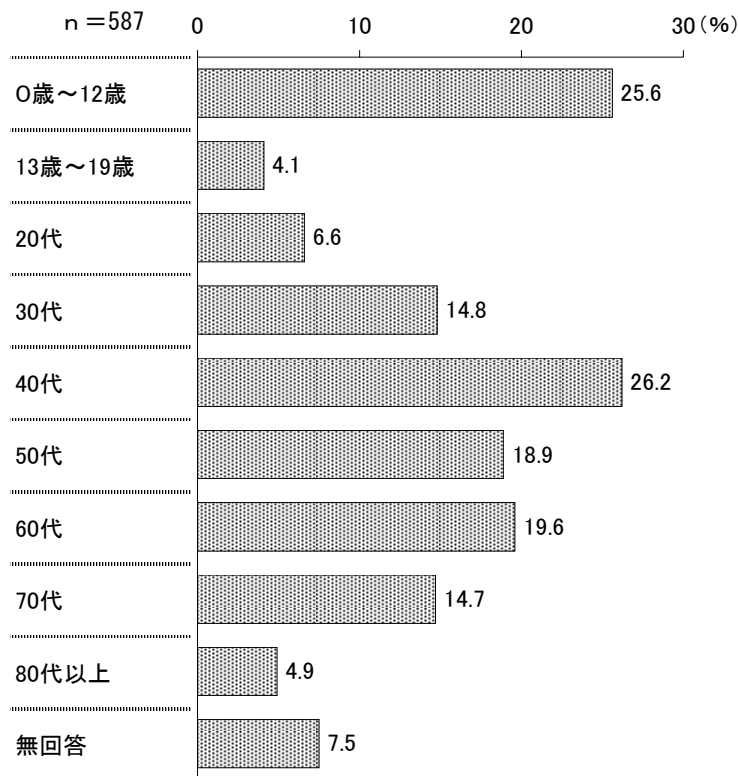
問15-2 参加した世帯のかたの年齢を教えてください。(〇はいくつでも)

- ・「0歳～12歳」と「40代」が2割半ば、「60代」が2割、「50代」が2割近くとなっている。

(1) 全体

- ・「40代」が26.2%で最も高く、次いで「0歳～12歳」25.6%、「60代」19.6%、「50代」18.9%の順となっている。

図7-4-1 地域活動に参加したかたの年齢(全体)



7-5 地域活動に参加したことがない理由

(問 15 で、地域活動に「参加したことはない」と回答した方にお尋ねします)

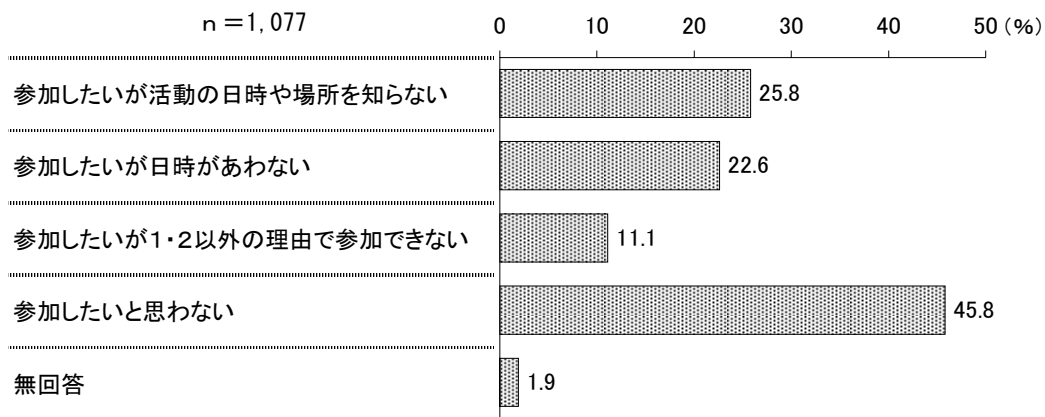
問15-3 参加したことがない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

- ・『参加したい』は合わせて6割となっており、「参加したいと思わない」は4割半ばとなっている。参加意思がある人の中では「参加したいが活動の日時や場所を知らない」が2割半ばで最も高く、次いで「参加したいが日時があわない」が2割を超えている。

(1) 全体

- ・『参加したい』は合わせて59.5%、「参加したいと思わない」は45.8%となっている。参加意思のある人の中では「参加したいが活動の日時や場所を知らない」が25.8%で最も高く、次いで「参加したいが日時があわない」22.6%、「参加したいが1・2以外の理由で参加できない」11.1%の順となっている。

図7-5-1 地域活動に参加したことがない理由(全体)



※選択肢「参加したいが1・2以外の理由で参加できない」の1は「参加したいが活動の日時や場所を知らない」、2は「参加したいが日時があわない」を示している。

7-6 住区住民会議が行っている地域活動の認知状況

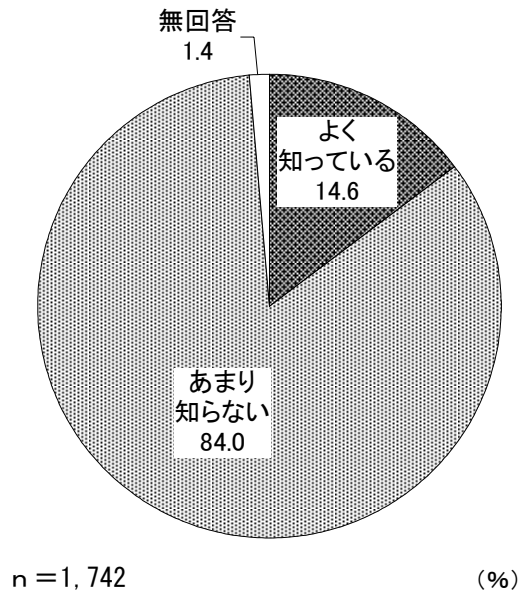
問16 住区住民会議が行っている地域活動を知っていますか。(○は1つ)

- ・「よく知っている」が1割半ば、「あまり知らない」が8割半ばとなっている。
- ・「よく知っている」は小・中学生がいる人と65歳以上の方がいる人で高くなっている。また、三世代家族で高くなっている。
- ・「あまり知らない」は就学前の乳幼児がいる人で高くなっている。また、一人暮らし(70歳未満)で高くなっている。

(1) 全体

- ・「よく知っている」が14.6%、「あまり知らない」が84.0%となっている。

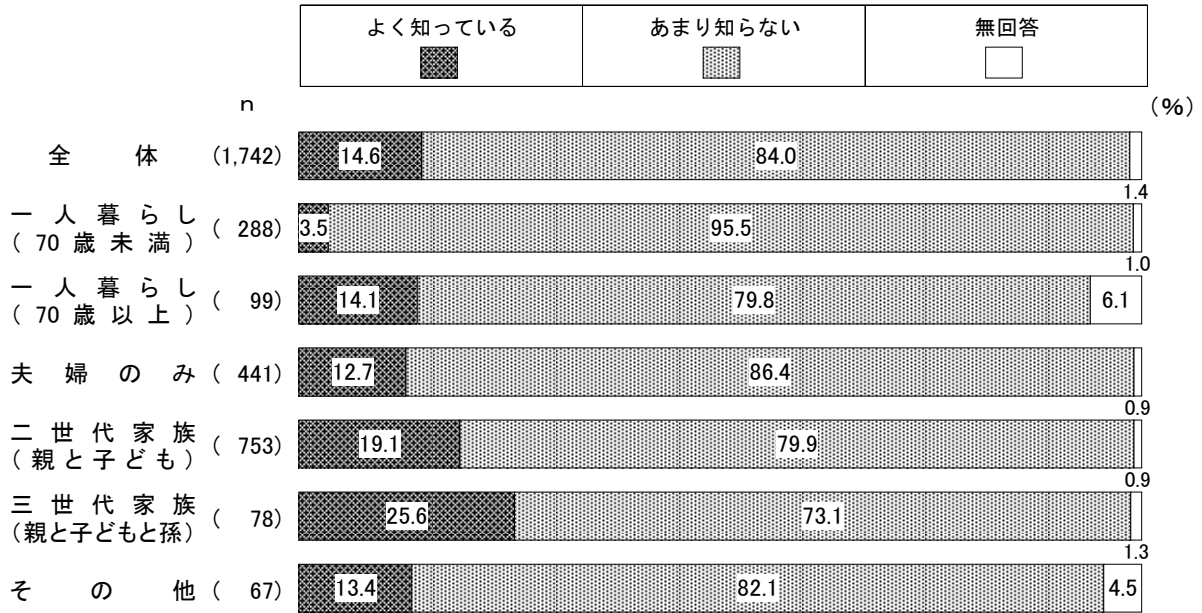
図7-6-1 住区住民会議が行っている地域活動の認知状況(全体)



(2) 世帯構成別

- ・「よく知っている」は三世代家族（25.6%）で高くなっている。
- ・「あまり知らない」は一人暮らし（70歳未満）（95.5%）で高くなっている。

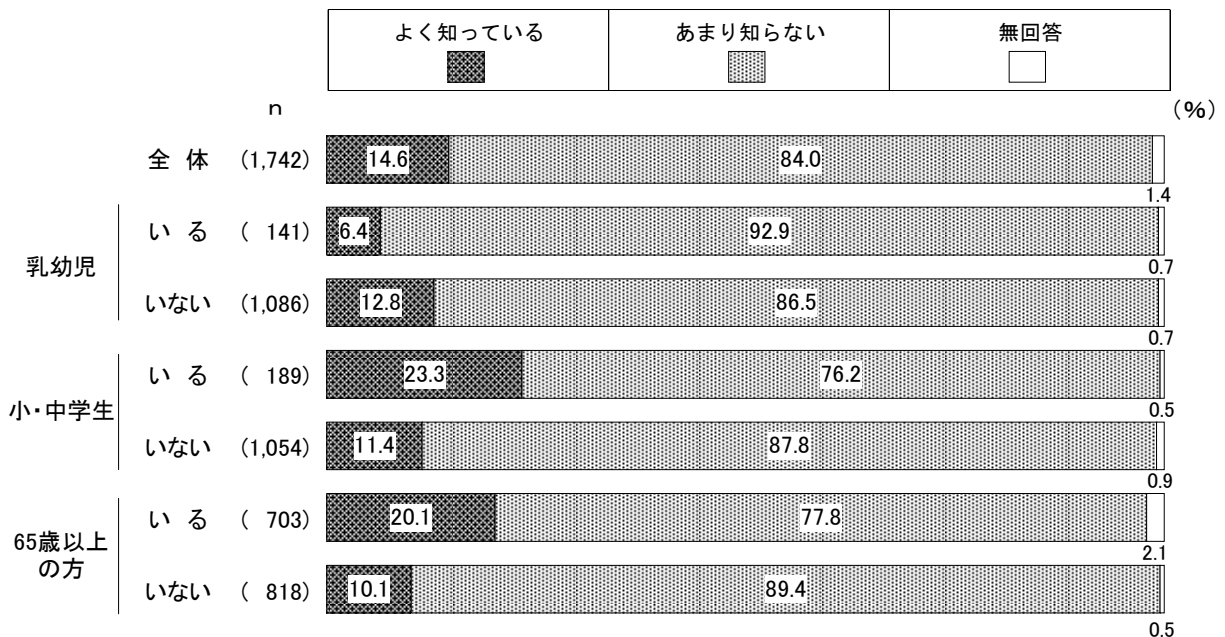
図7-6-2 住区住民会議が行っている地域活動の認知状況（世帯構成別）



(3) 家族構成別

- ・「よく知っている」は小・中学生がいる人（23.3%）で高く、小・中学生がいない人（11.4%）より11.9ポイント高くなっている。また、65歳以上の方がいる人（20.1%）で高くなっている。
- ・「あまり知らない」は就学前の乳幼児がいる人（92.9%）で高くなっている。

図7-6-3 住区住民会議が行っている地域活動の認知状況（家族構成別）



7-7 町会・自治会が行っている地域活動の認知状況

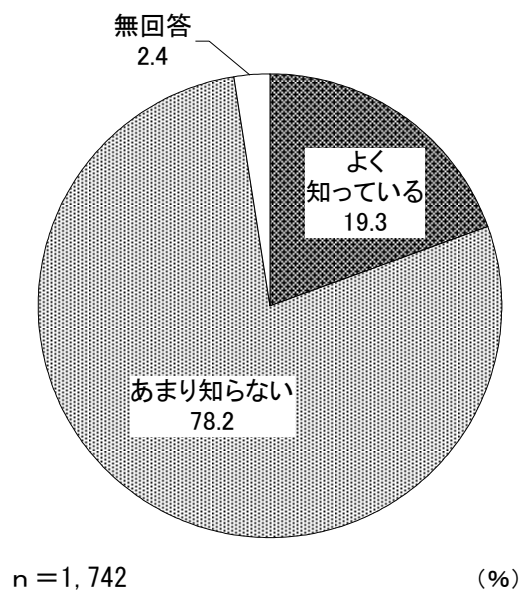
問17 お住まいの地域の町会・自治会が行っている地域活動を知っていますか。(○は1つ)

- ・「よく知っている」がほぼ2割、「あまり知らない」が8割近くとなっている。
- ・「よく知っている」は65歳以上の方がいる人と小・中学生がいる人で高くなっている。また、三世帯家族で高くなっている。
- ・「あまり知らない」は就学前の乳幼児がいる人で高くなっている。また、一人暮らし(70歳未満)で高くなっている。

(1) 全体

- ・「よく知っている」が19.3%、「あまり知らない」が78.2%となっている。

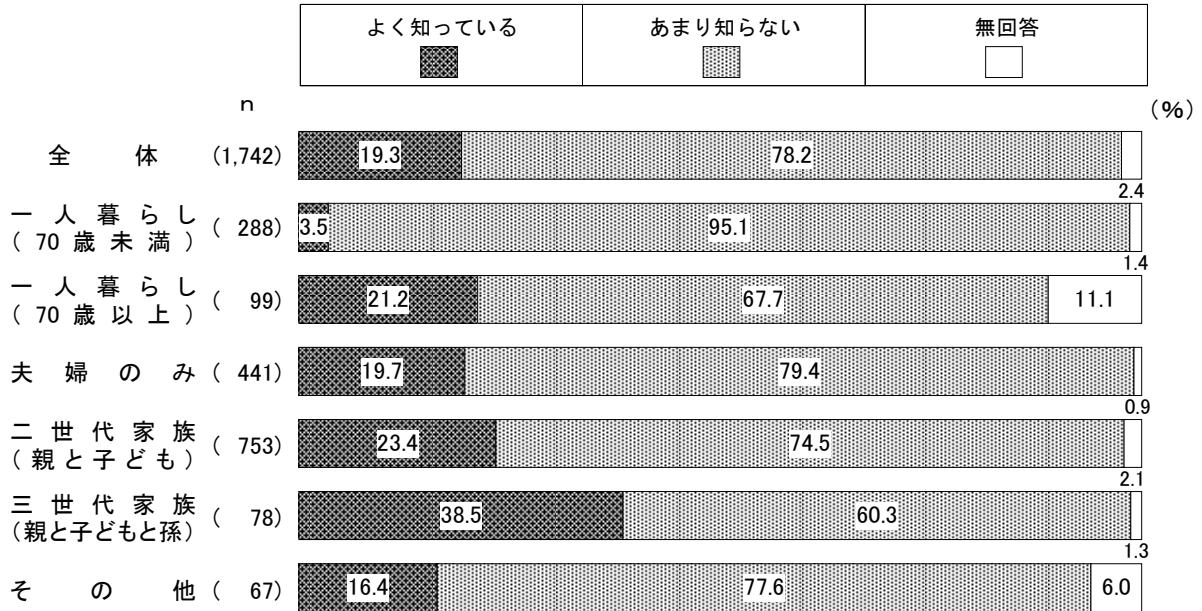
図7-7-1 町会・自治会が行っている地域活動の認知状況(全体)



(2) 世帯構成別

- ・「よく知っている」は三世代家族（38.5%）で高くなっている。
- ・「あまり知らない」は一人暮らし（70歳未満）（95.1%）で高くなっている。

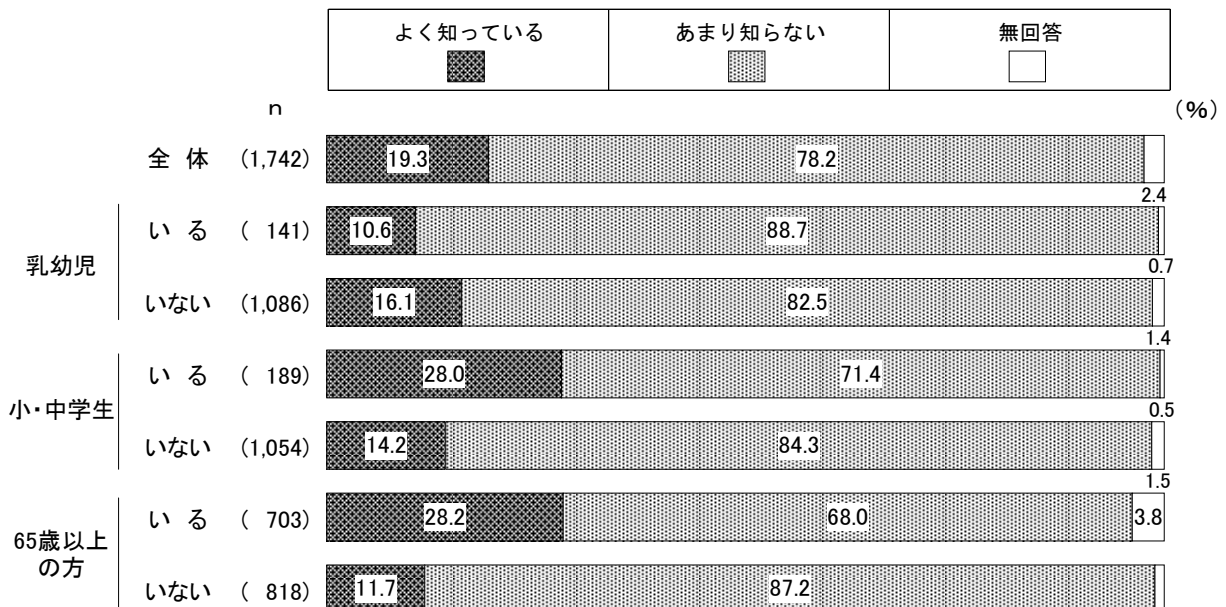
図7-7-2 町会・自治会が行っている地域活動の認知状況（世帯構成別）



(3) 家族構成別

- ・「よく知っている」は65歳以上の方がいる人（28.2%）で高く、65歳以上の方がいない人（11.7%）より16.5ポイント高くなっている。また、小・中学生がいる人（28.0%）で高く、小・中学生がいない人（14.2%）より13.8ポイント高くなっている。
- ・「あまり知らない」は就学前の乳幼児がいる人（88.7%）で高くなっている。

図7-7-3 町会・自治会が行っている地域活動の認知状況（家族構成別）



7-8 町会・自治会への加入状況

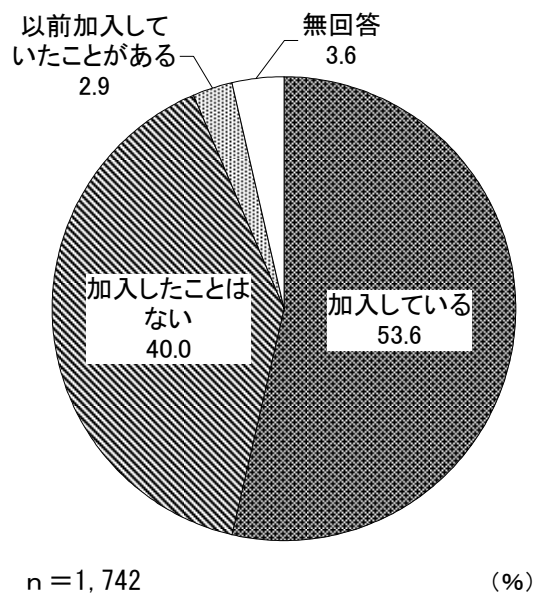
問18 あなた（またはあなたの世帯）は、町会・自治会に加入していますか。（○は1つ）

- ・「加入している」が5割を超え、「加入したことはない」が4割となっている。
- ・「加入している」は65歳以上の方がいる人と小・中学生がいる人で高くなっている。また、三世代家族と二世代家族で高くなっている。
- ・「加入したことはない」は65歳以上の方がいない人で高くなっている。また、一人暮らし（70歳未満）で高くなっている。

(1) 全体

- ・「加入している」が53.6%、「加入したことはない」が40.0%、「以前加入していたことがある」が2.9%となっている。

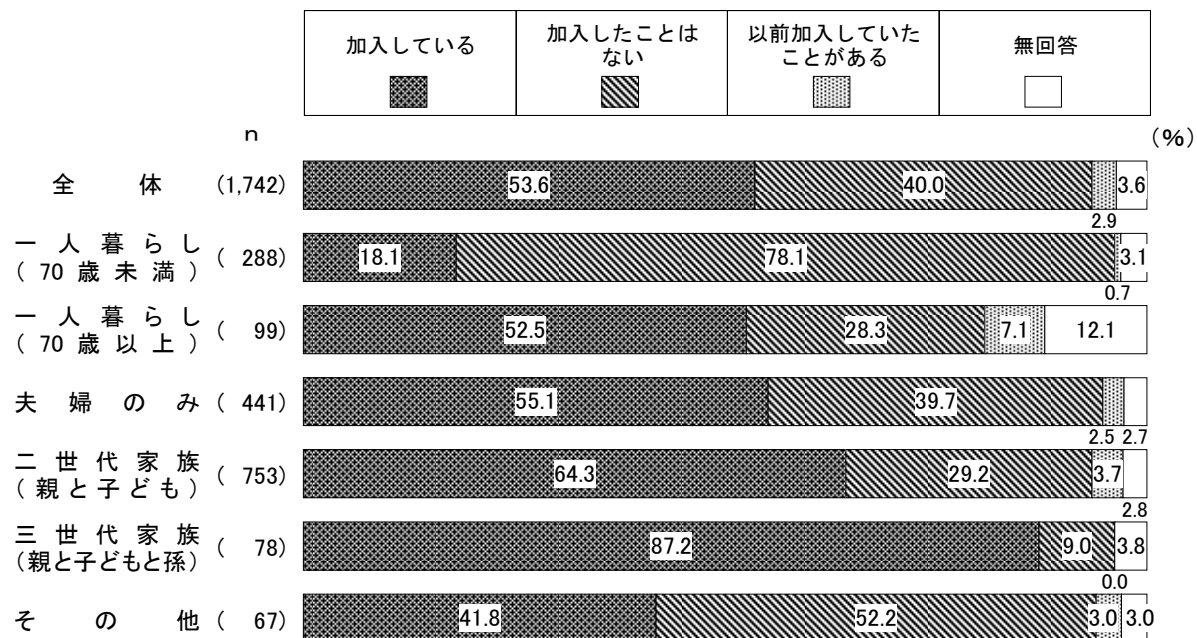
図7-8-1 町会・自治会への加入状況（全体）



(2) 世帯構成別

- ・「加入している」は三世代家族（87.2%）と二世代家族（64.3%）で高くなっている。
- ・「加入したことはない」は一人暮らし（70歳未満）（78.1%）で高くなっている。

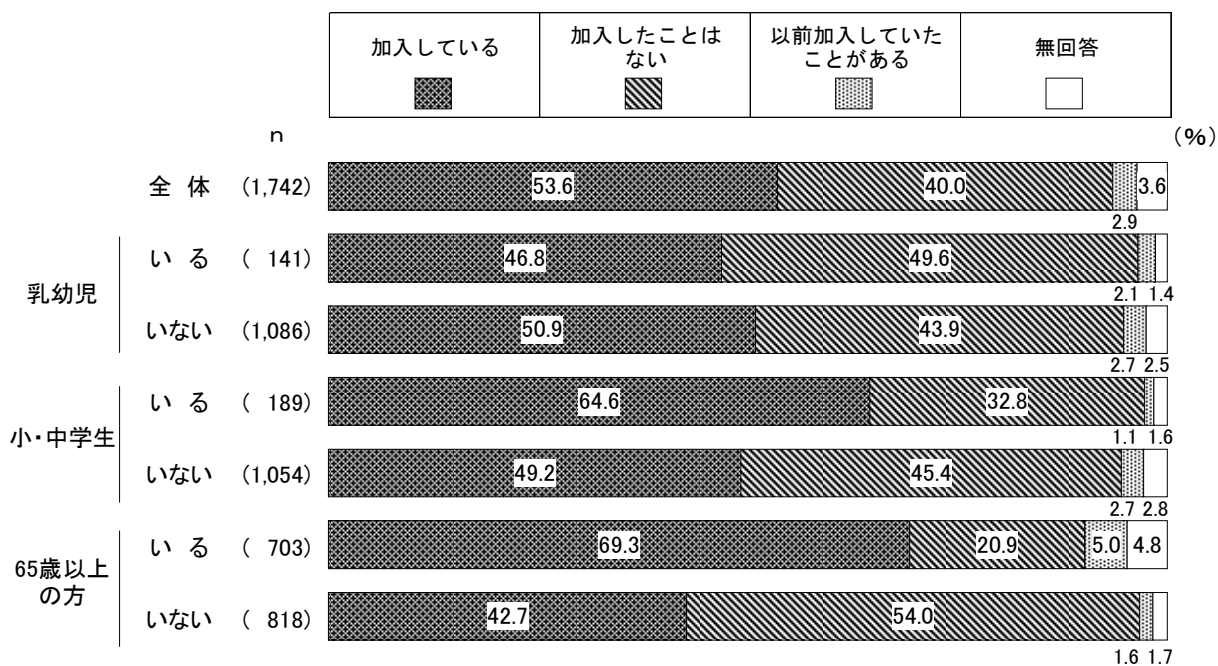
図7-8-2 町会・自治会への加入状況（世帯構成別）



(3) 家族構成別

- ・「加入している」は65歳以上の方がいる人（69.3%）で高く、65歳以上の方がいない人（42.7%）より26.6ポイント高くなっている。また、小・中学生がいる人（64.6%）で高くなっている。
- ・「加入したことはない」は65歳以上の方がいない人（54.0%）で高くなっている。

図7-8-3 町会・自治会への加入状況（家族構成別）



7-9 町会・自治会へ加入していない理由

(問18で、町会・自治会に「加入したことはない」「以前加入していたことがある」のいずれかに回答した方にお尋ねします)

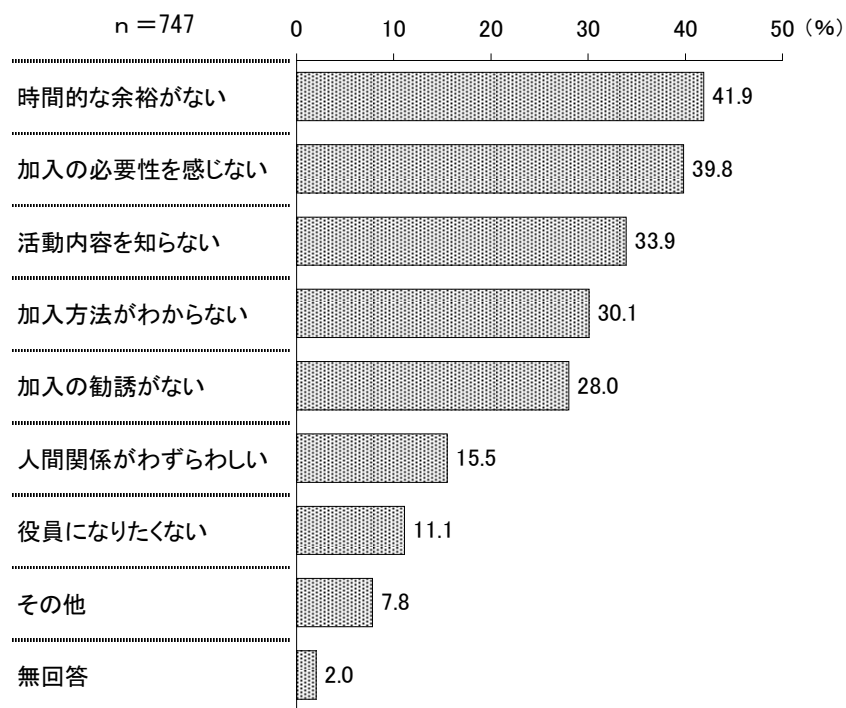
問18-1 町会・自治会へ加入していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

- ・「時間的な余裕がない」が4割を超えて最も高く、次いで「加入の必要性を感じない」が4割、「活動内容を知らない」が3割を超え、「加入方法がわからない」が3割となっている。

(1) 全体

- ・「時間的な余裕がない」が41.9%で最も高く、次いで「加入の必要性を感じない」39.8%、「活動内容を知らない」33.9%、「加入方法がわからない」30.1%の順となっている。

図7-9-1 町会・自治会へ加入していない理由(全体)



8. 地球温暖化対策

8-1 地球温暖化問題への意識

問19 あなたは、生活の中で地球温暖化の問題を意識していますか。（○は1つ）

- ・「大いに意識している」と「意識している」を合わせた『意識している』は7割を占めており、男性の60代と70代、女性60代で高くなっている。
- ・「あまり意識していない」と「まったく意識していない」を合わせた『意識していない』は2割半ばとなっており、男性、女性ともにおおむね低い年代ほど割合が高い傾向にあり、特に20代で高くなっている。

(1) 全体

- ・「大いに意識している」15.2%と「意識している」54.8%を合わせた『意識している』は70.0%となっている。一方、「あまり意識していない」22.6%と「まったく意識していない」3.2%を合わせた『意識していない』は25.8%となっている。
- ・地球温暖化問題への意識の推移をみると、『意識している』は前回（平成23年）より13.7ポイント減少している。

図8-1-1 地球温暖化問題への意識（全体）

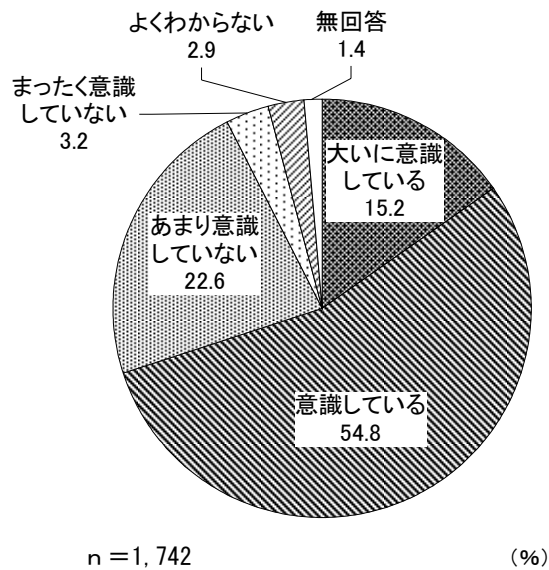
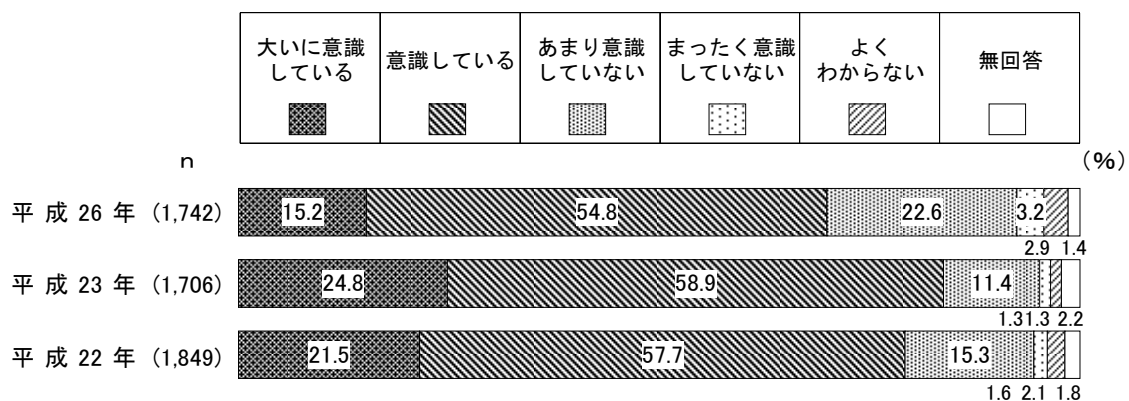


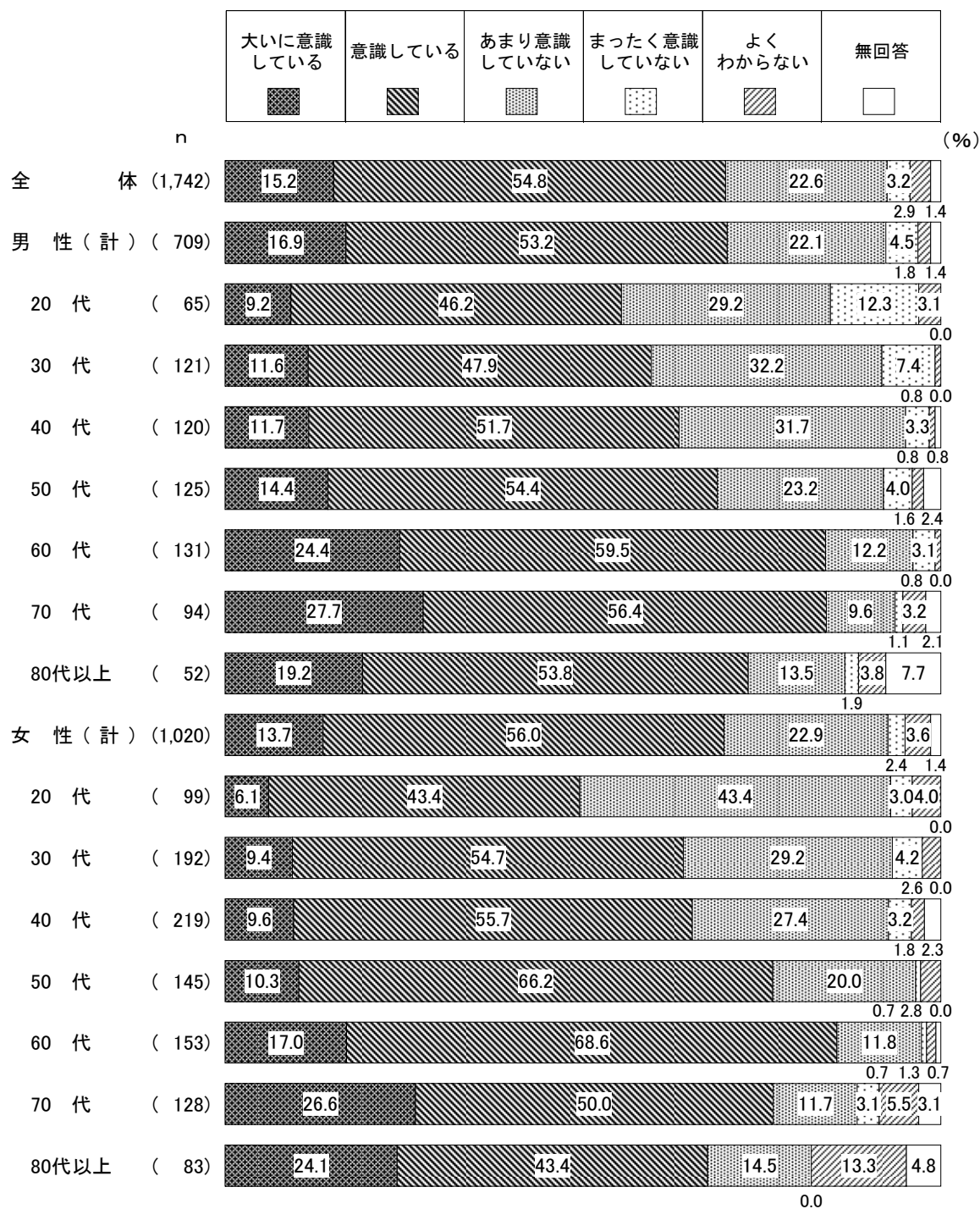
図8-1-2 地球温暖化問題への意識の推移（全体）



(2) 性・年代別

- ・『意識している』は男性の60代(83.9%)と70代(84.1%)、女性60代(85.6%)で高くなっている。
- ・『意識していない』は男性、女性ともにおおむね低い年代ほど割合が高い傾向にあり、特に20代(男性41.5%、女性46.4%)で高くなっている。

図8-1-3 地球温暖化問題への意識(性・年代別)



8-2 地球温暖化防止のために優先すること

問20 あなたは、地球温暖化を防止するために、今後何を優先して行いたいと思いますか。

(○は3つまで)

- ・「節電・節水などの省エネルギー行動」が7割で最も高く、次いで「ごみの減量・リサイクル」が6割を超え、「環境に配慮した製品（省エネ家電など）の購入」が5割近くとなっている。
- ・「ごみの減量・リサイクル」と「節電・節水などの省エネルギー行動」は女性が男性より高くなっている。一方、「自動車・自動二輪車の使用抑制」は男性が女性より高くなっている。
- ・「節電・節水などの省エネルギー行動」は女性の20代から70代で高く、「ごみの減量・リサイクル」は女性の60代と70代で高くなっている。

(1) 全体

- ・「節電・節水などの省エネルギー行動」が69.7%で最も高く、次いで「ごみの減量・リサイクル」62.3%、「環境に配慮した製品（省エネ家電など）の購入」48.3%の順となっている。
- ・地球温暖化防止のために優先することの推移をみると、「環境に配慮した製品（省エネ家電など）の購入」は前回（平成23年）より6.4ポイント増加、「節電・節水などの省エネルギー行動」は前回（平成23年）より6.3ポイント減少している。また、「ごみの減量・リサイクル」は減少傾向がみられる。

図8-2-1 地球温暖化防止のために優先すること（全体）

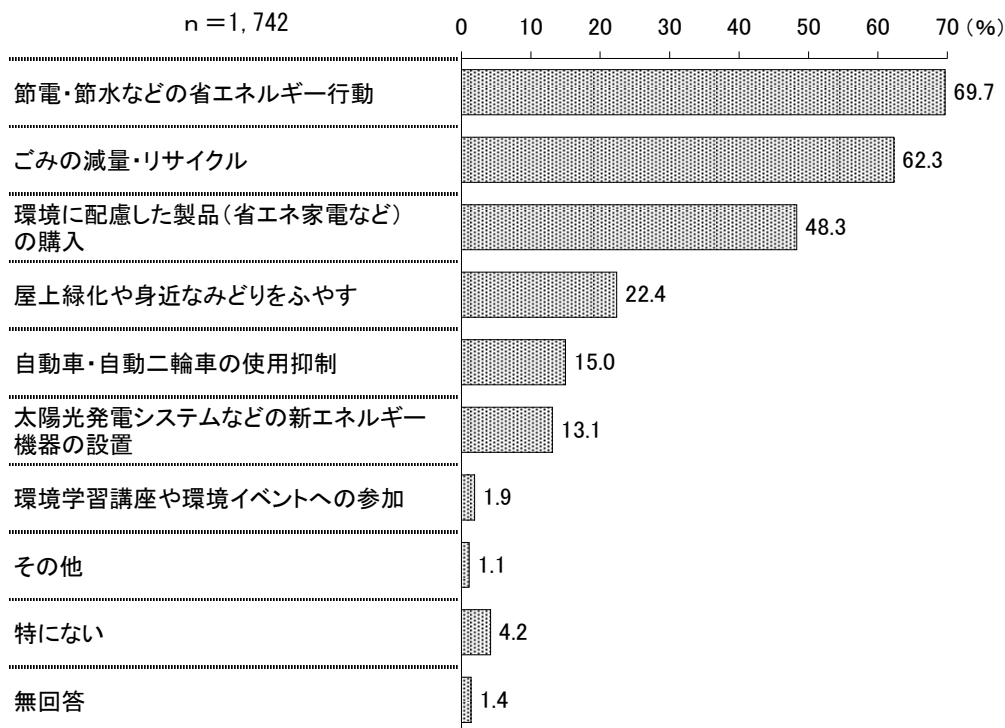
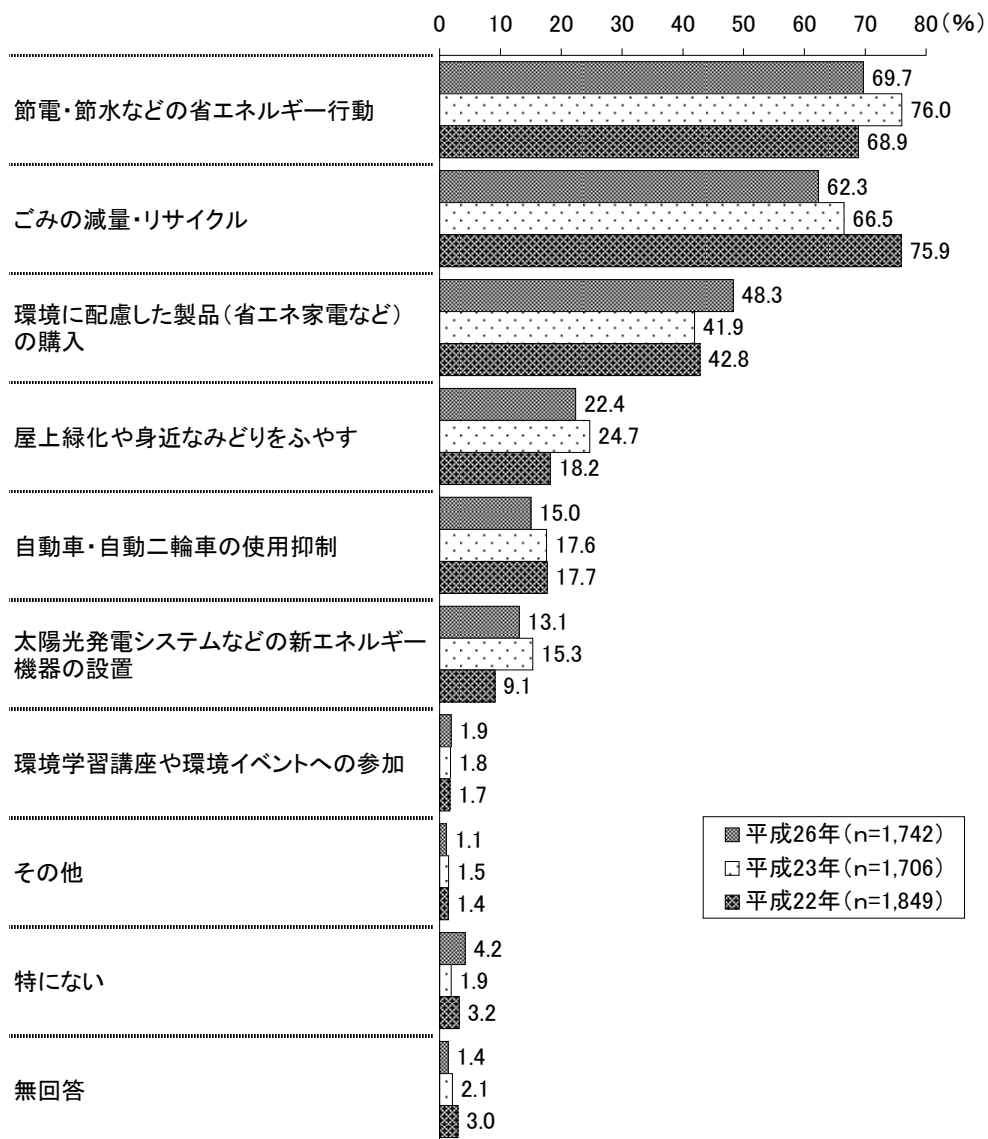


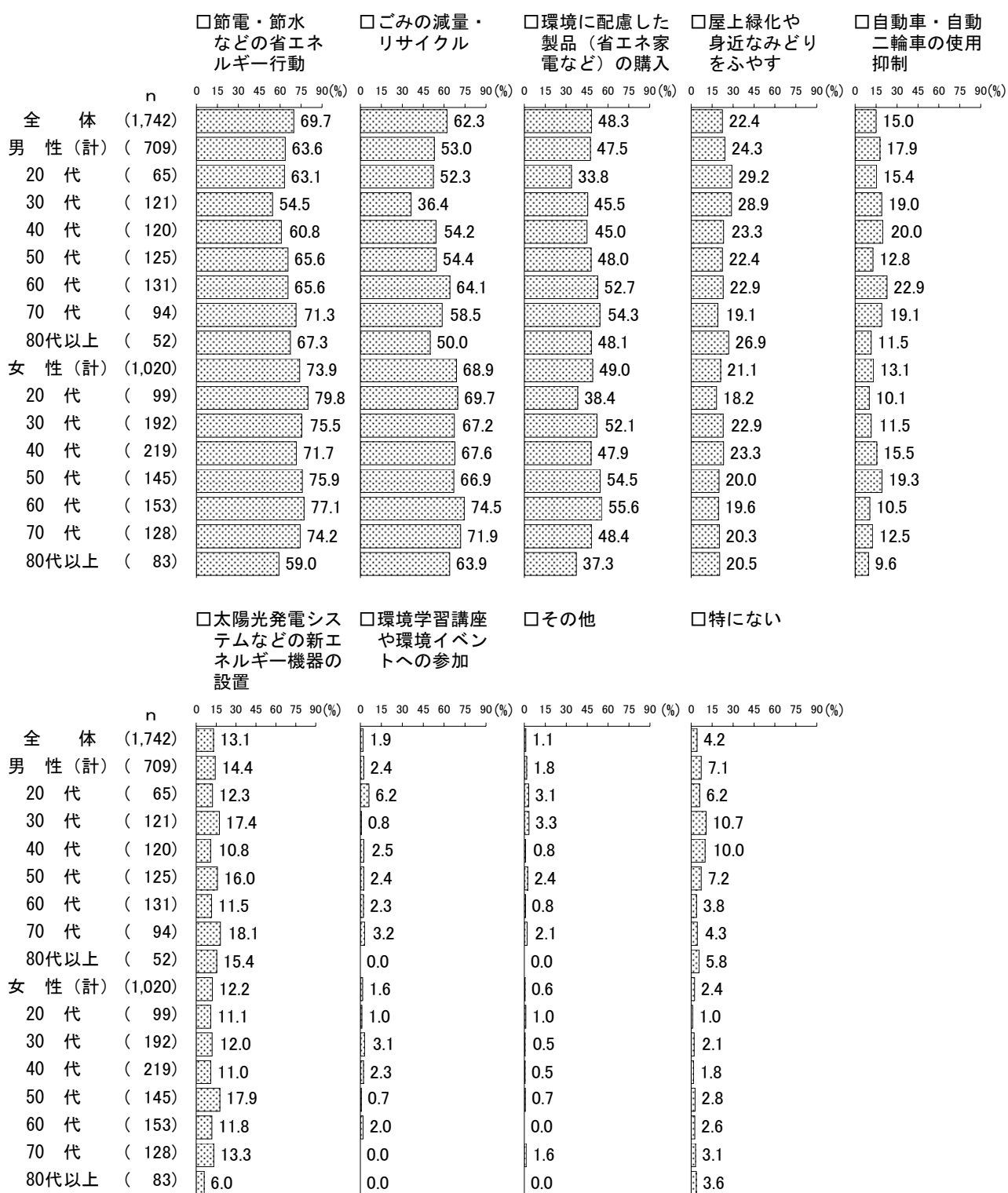
図 8-2-2 地球温暖化防止のために優先することの推移（全体）



(2) 性・年代別

- ・「ごみの減量・リサイクル」は女性（68.9%）が男性（53.0%）より 15.9 ポイント高く、「節電・節水などの省エネルギー行動」は女性（73.9%）が男性（63.6%）より 10.3 ポイント高くなっている。一方、「自動車・自動二輪車の使用抑制」は男性（17.9%）が女性（13.1%）より 4.8 ポイント高くなっている。
- ・「節電・節水などの省エネルギー行動」は女性の 20 代（79.8%）、30 代（75.5%）、40 代（71.7%）、50 代（75.9%）、60 代（77.1%）、70 代（74.2%）で高く、「ごみの減量・リサイクル」は女性の 60 代（74.5%）と 70 代（71.9%）で高くなっている。

図 8-2-3 地球温暖化防止のために優先すること（性・年代別）



8-3 地球温暖化防止のために区に取り組んでほしいこと

問21 地球温暖化を防止するために、区に特に力を入れて取り組んでほしいと思うことは何ですか。（〇は3つまで）

- ・「みどりの保全・創出への取組み」が4割で最も高く、次いで「新エネルギー・省エネルギー機器の導入にかかる助成」が3割半ば、「屋上緑化や壁面緑化等の導入にかかる助成」と「日常生活や事業活動における省エネルギーに関する情報提供」が3割を超えている。
- ・「日常生活や事業活動における省エネルギーに関する情報提供」は女性が男性より高くなっている。
- ・「みどりの保全・創出への取組み」は男性の30代と80代以上で高く、「新エネルギー・省エネルギー機器の導入にかかる助成」は女性50代で高くなっている。

(1) 全体

- ・「みどりの保全・創出への取組み」が39.7%で最も高く、次いで「新エネルギー・省エネルギー機器の導入にかかる助成」36.3%、「屋上緑化や壁面緑化等の導入にかかる助成」32.1%、「日常生活や事業活動における省エネルギーに関する情報提供」32.0%の順となっている。
- ・地球温暖化防止のために区に取り組んでほしいことの推移をみると、「日常生活や事業活動における省エネルギーに関する情報提供」は前回（平成23年）より5.8ポイント減少している。また、「みどりの保全・創出への取組み」は増加傾向、「屋上緑化や壁面緑化等の導入にかかる助成」は減少傾向がみられる。

図8-3-1 地球温暖化防止のために区に取り組んでほしいこと（全体）

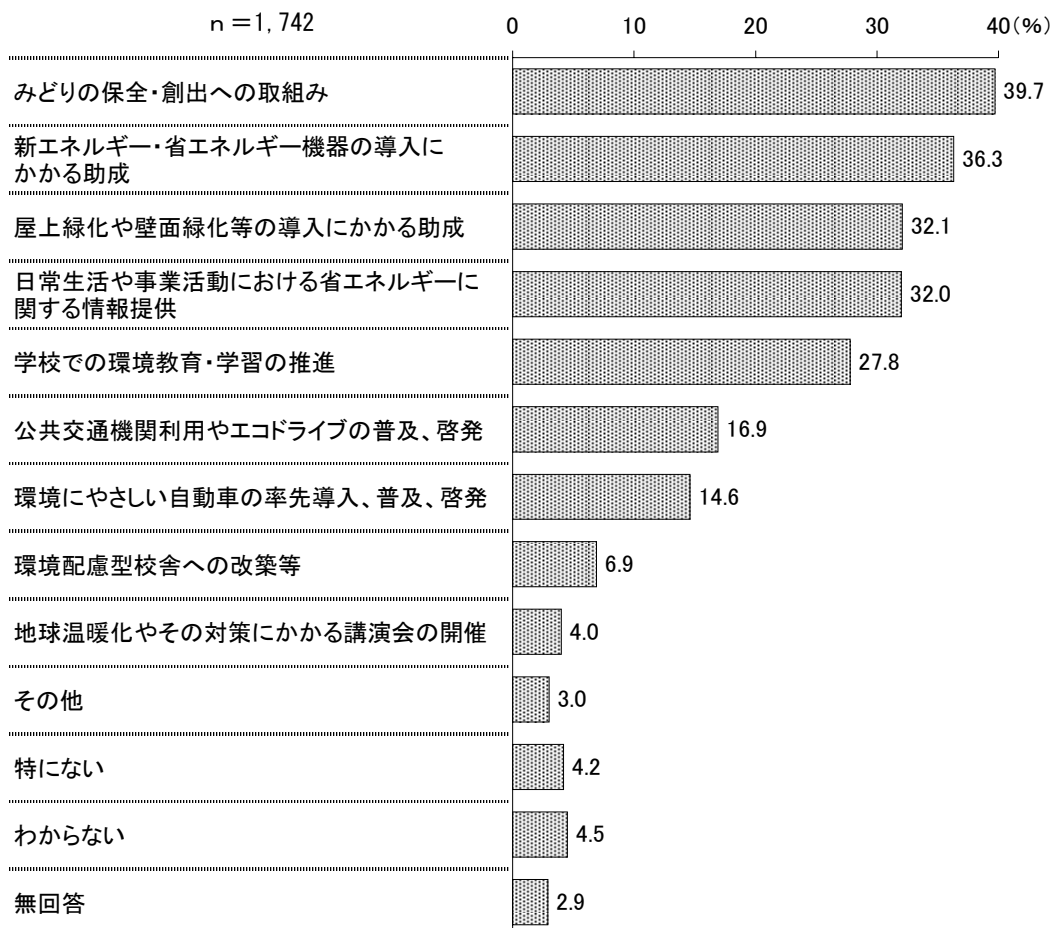
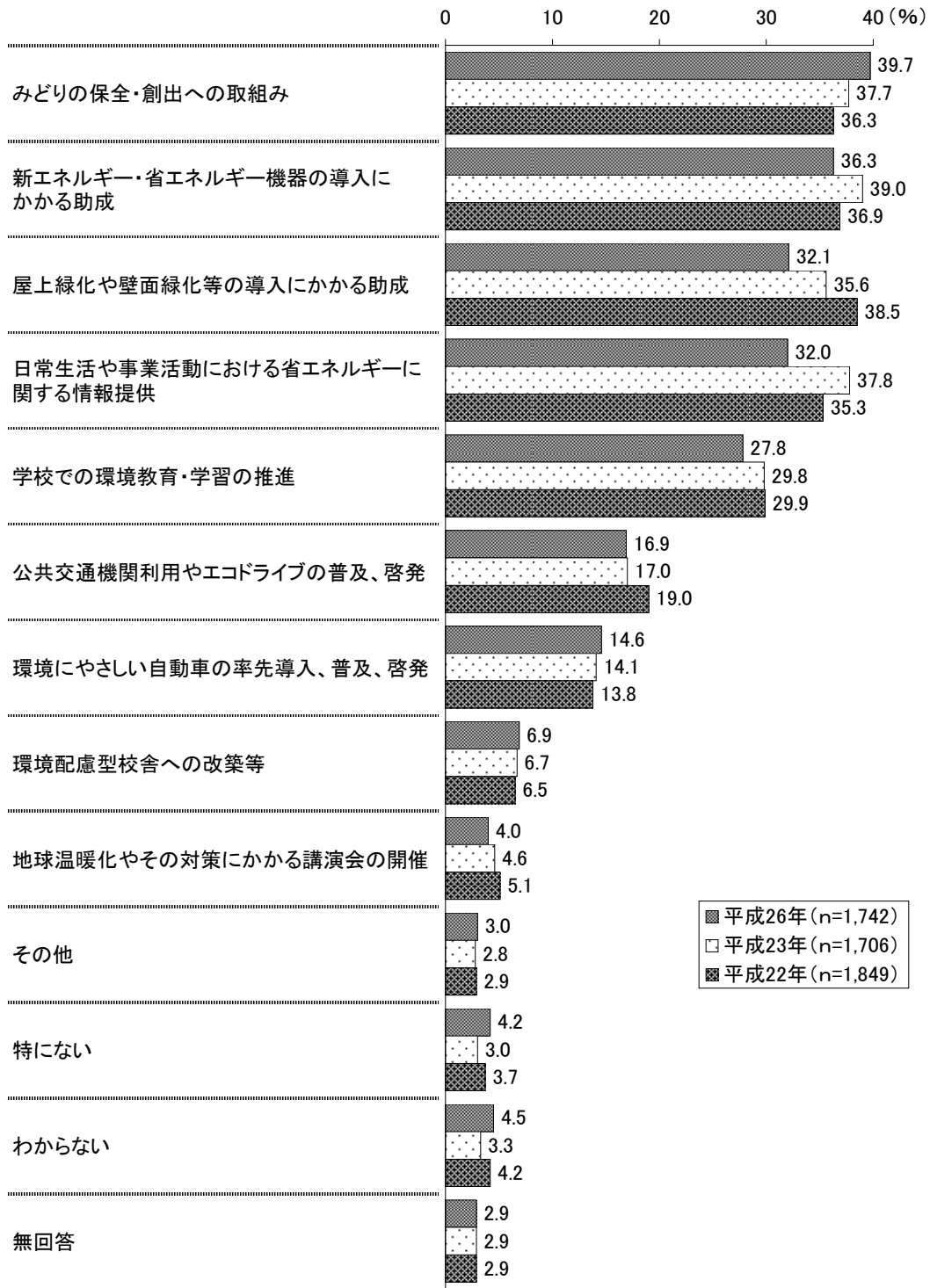


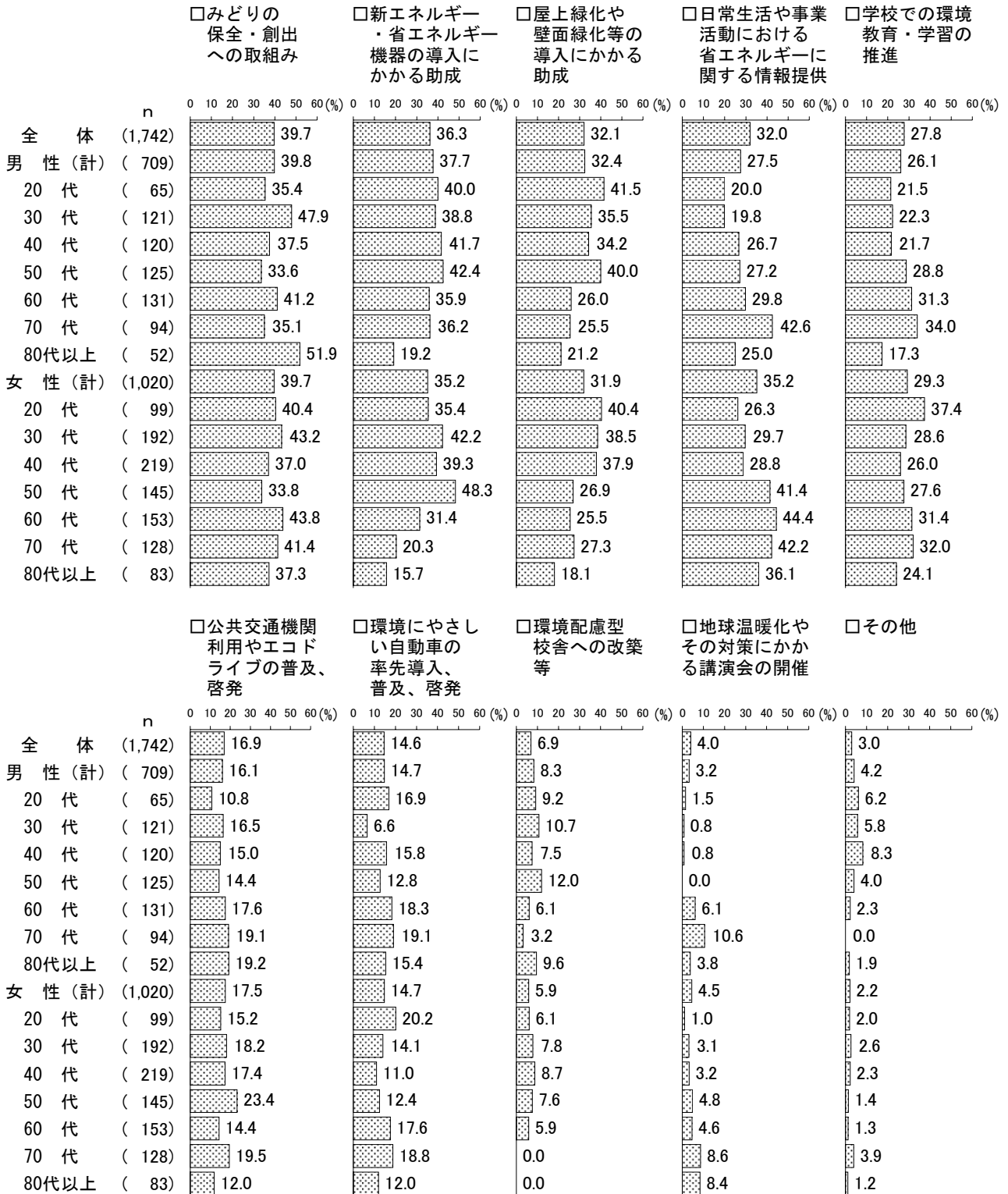
図8-3-2 地球温暖化防止のために区に取り組んでほしいことの推移（全体）



(2) 性・年代別

- ・「日常生活や事業活動における省エネルギーに関する情報提供」は女性 (35.2%) が男性 (27.5%) より 7.7 ポイント高くなっている。
- ・「みどりの保全・創出への取組み」は男性の 30 代 (47.9%) と 80 代以上 (51.9%) で高くなっている。
- ・「新エネルギー・省エネルギー機器の導入にかかる助成」は女性 50 代 (48.3%) で高くなっている。

図 8-3-3 地球温暖化防止のために区に取り組んでほしいこと (性・年代別)



9. みどりの役割と公園利用

9-1 みどりに求める役割

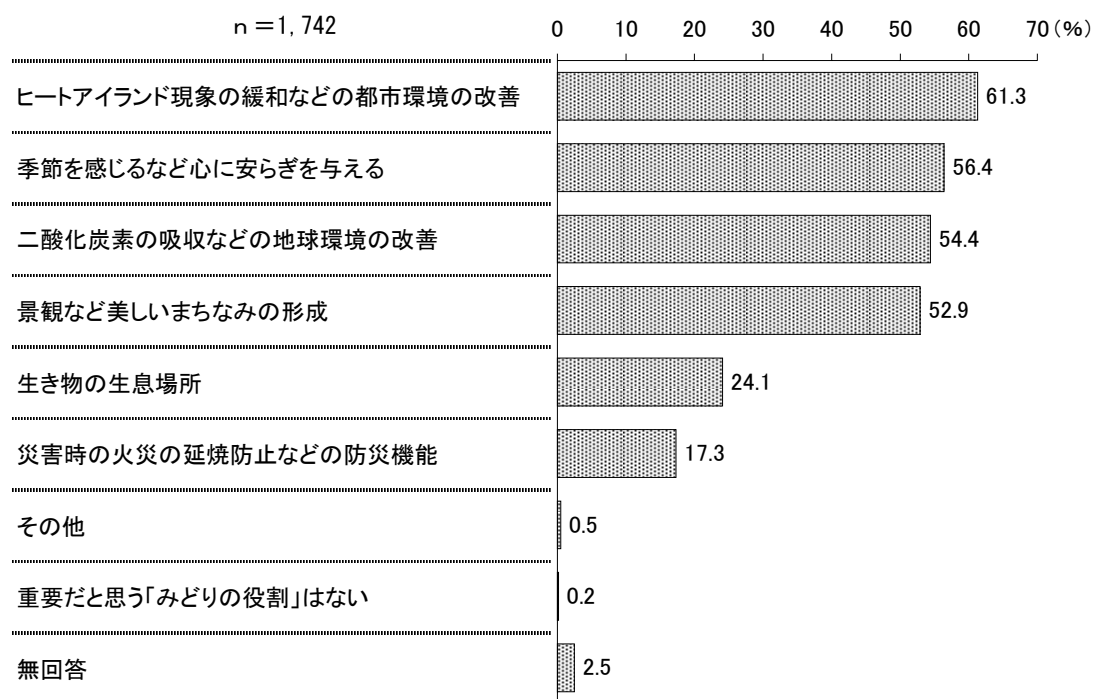
問22 「みどり」が果たす役割として何が重要だと思いますか。(〇は3つまで)

- ・「ヒートアイランド現象の緩和などの都市環境の改善」が6割を超えて最も高く、次いで「季節を感じるなど心に安らぎを与える」と「二酸化炭素の吸収などの地球環境の改善」、「景観など美しいまちなみの形成」がいずれも5割を超えている。
- ・「ヒートアイランド現象の緩和などの都市環境の改善」は男性、女性ともに40代で高くなっている。また、北部地区と中央地区で高くなっている。
- ・「季節を感じるなど心に安らぎを与える」は女性が男性より高く、北部地区で高くなっている。
- ・「景観など美しいまちなみの形成」は男性、女性ともに20代で高くなっている。また、西部地区で高くなっている。

(1) 全体

- ・「ヒートアイランド現象の緩和などの都市環境の改善」が61.3%で最も高く、次いで「季節を感じるなど心に安らぎを与える」56.4%、「二酸化炭素の吸収などの地球環境の改善」54.4%、「景観など美しいまちなみの形成」52.9%の順となっている。

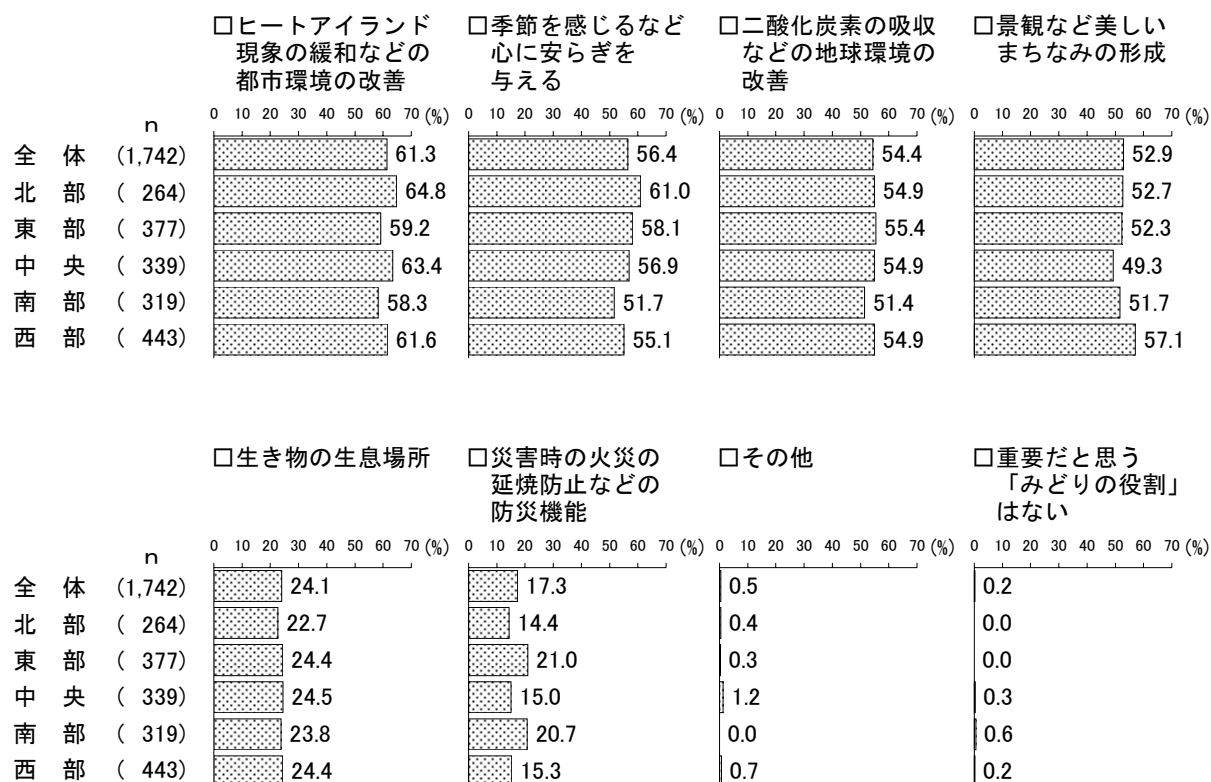
図9-1-1 みどりに求める役割（全体）



(2) 地区別

- ・「ヒートアイランド現象の緩和などの都市環境の改善」は北部地区（64.8%）と中央地区（63.4%）で高くなっている。
- ・「季節を感じるなど心に安らぎを与える」は北部地区（61.0%）で高くなっている。
- ・「景観など美しいまちなみの形成」は西部地区（57.1%）で高くなっている。
- ・「災害時の火災の延焼防止などの防災機能」は東部地区（21.0%）と南部地区（20.7%）で高くなっている。

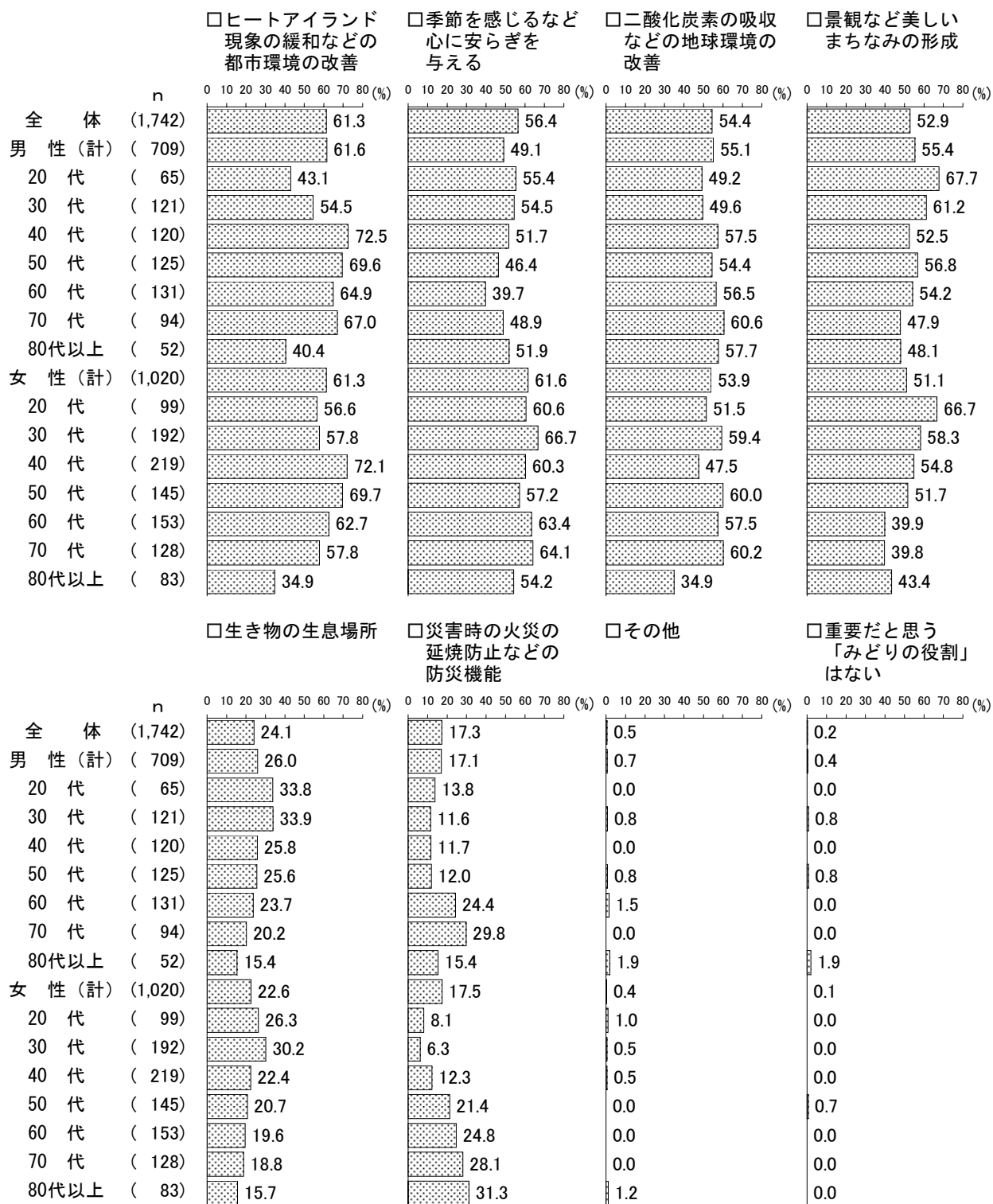
図9-1-2 みどりに求める役割（地区別）



(3) 性・年代別

- ・「季節を感じるなど心に安らぎを与える」は女性（61.6%）が男性（49.1%）より 12.5 ポイント高くなっている。
- ・「ヒートアイランド現象の緩和などの都市環境の改善」は男性、女性ともに 40 代（男性 72.5%、女性 72.1%）で高くなっている。
- ・「景観など美しいまちなみの形成」は男性、女性ともに 20 代（男性 67.7%、女性 66.7%）で高くなっている。

図 9-1-3 みどりに求める役割（性・年代別）



9-2 どのように公園を利用したいかの意向

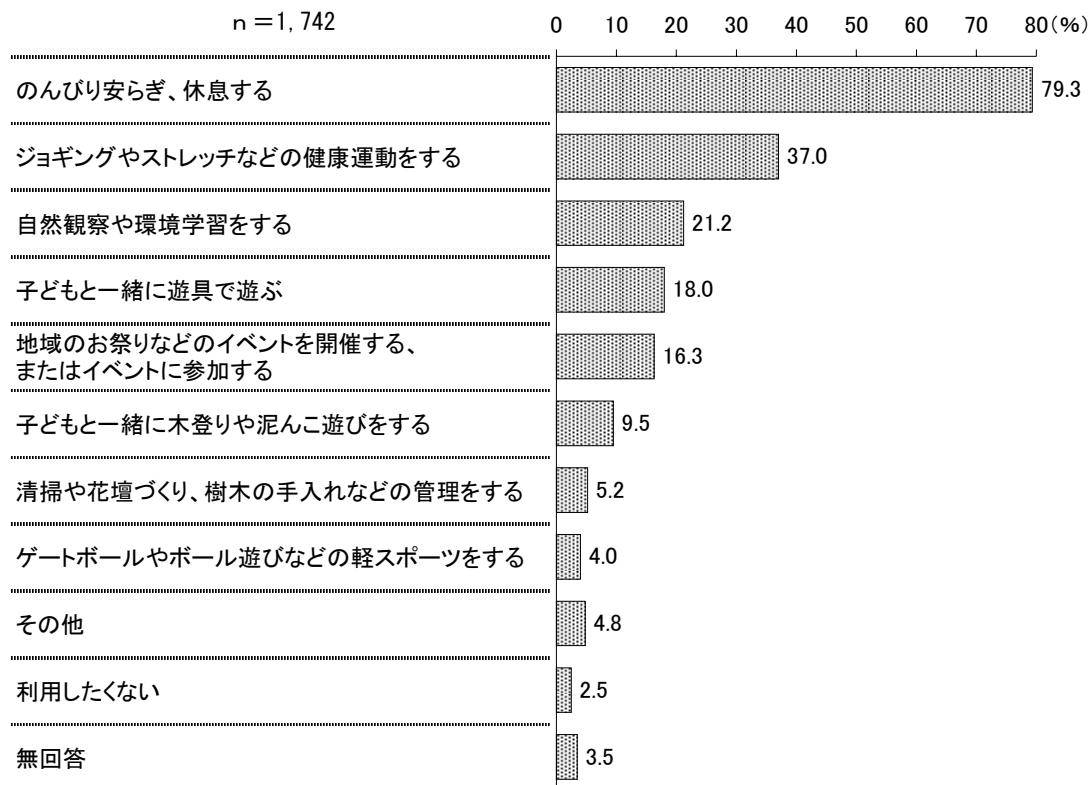
問23 あなたは、住まいの近くにある公園をどのように利用したいですか。(〇は3つまで)

- ・「のんびり安らぎ、休息する」がほぼ8割で最も高く、次いで「ジョギングやストレッチなどの健康運動をする」が4割近く、「自然観察や環境学習をする」が2割を超えている。
- ・「のんびり安らぎ、休息する」は男性70代、女性の20代と50代で高くなっている。また、中央地区、北部地区、東部地区、就学前の乳幼児がいない人、小・中学生がいない人、65歳以上の方がいない人で高くなっている。
- ・「ジョギングやストレッチなどの健康運動をする」は男性が女性より高く、男性20代で高くなっている。また、北部地区、就学前の乳幼児がいない人、65歳以上の方がいない人、小・中学生がいない人で高くなっている。

(1) 全体

- ・「のんびり安らぎ、休息する」が79.3%で最も高く、次いで「ジョギングやストレッチなどの健康運動をする」37.0%、「自然観察や環境学習をする」21.2%、「子どもと一緒に遊具で遊ぶ」18.0%の順となっている。

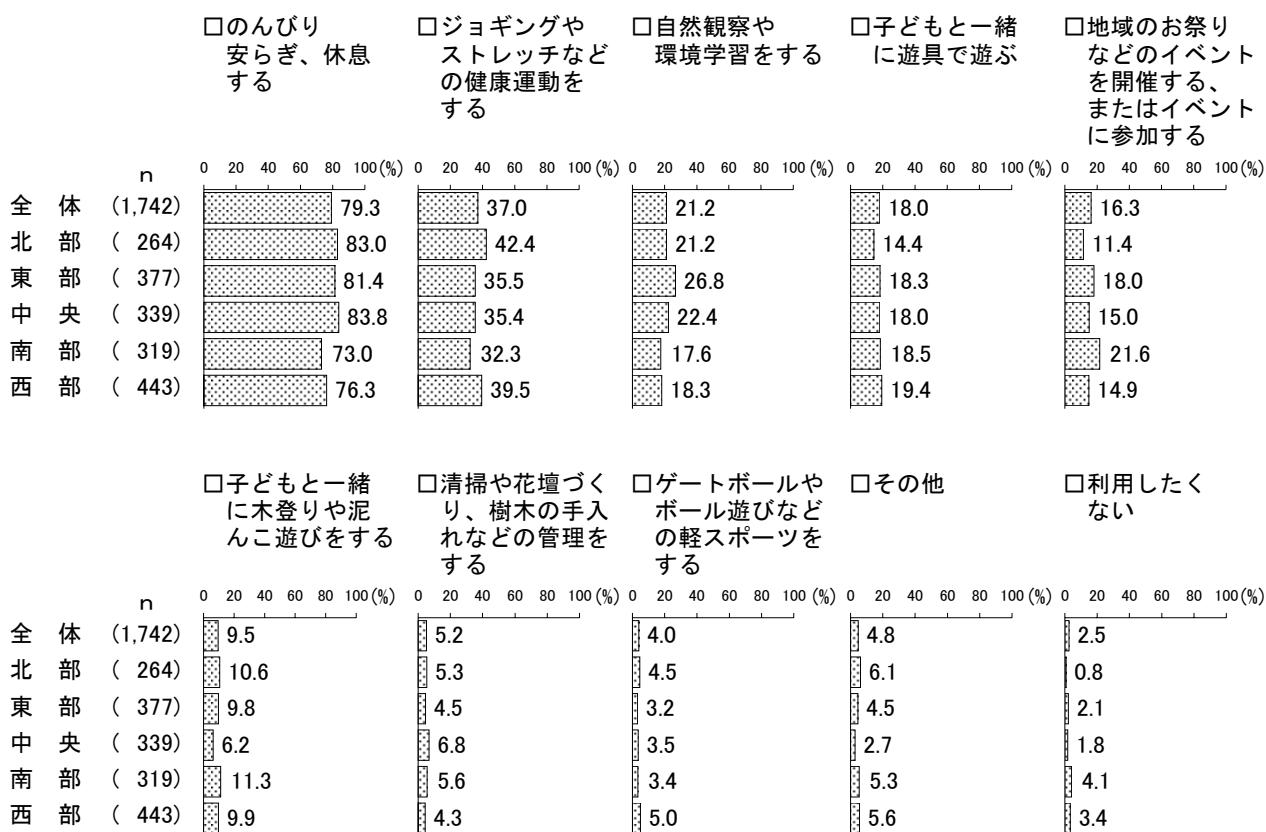
図9-2-1 どのように公園を利用したいかの意向（全体）



(2) 地区別

- ・「のんびり安らぎ、休息する」は中央地区（83.8%）、北部地区（83.0%）、東部地区（81.4%）で高くなっている。
- ・「ジョギングやストレッチなどの健康運動をする」は北部地区（42.4%）で高くなっている。
- ・「自然観察や環境学習をする」は東部地区（26.8%）で高く、「地域のお祭りなどのイベントを開催する、またはイベントに参加する」は南部地区（21.6%）で高くなっている。

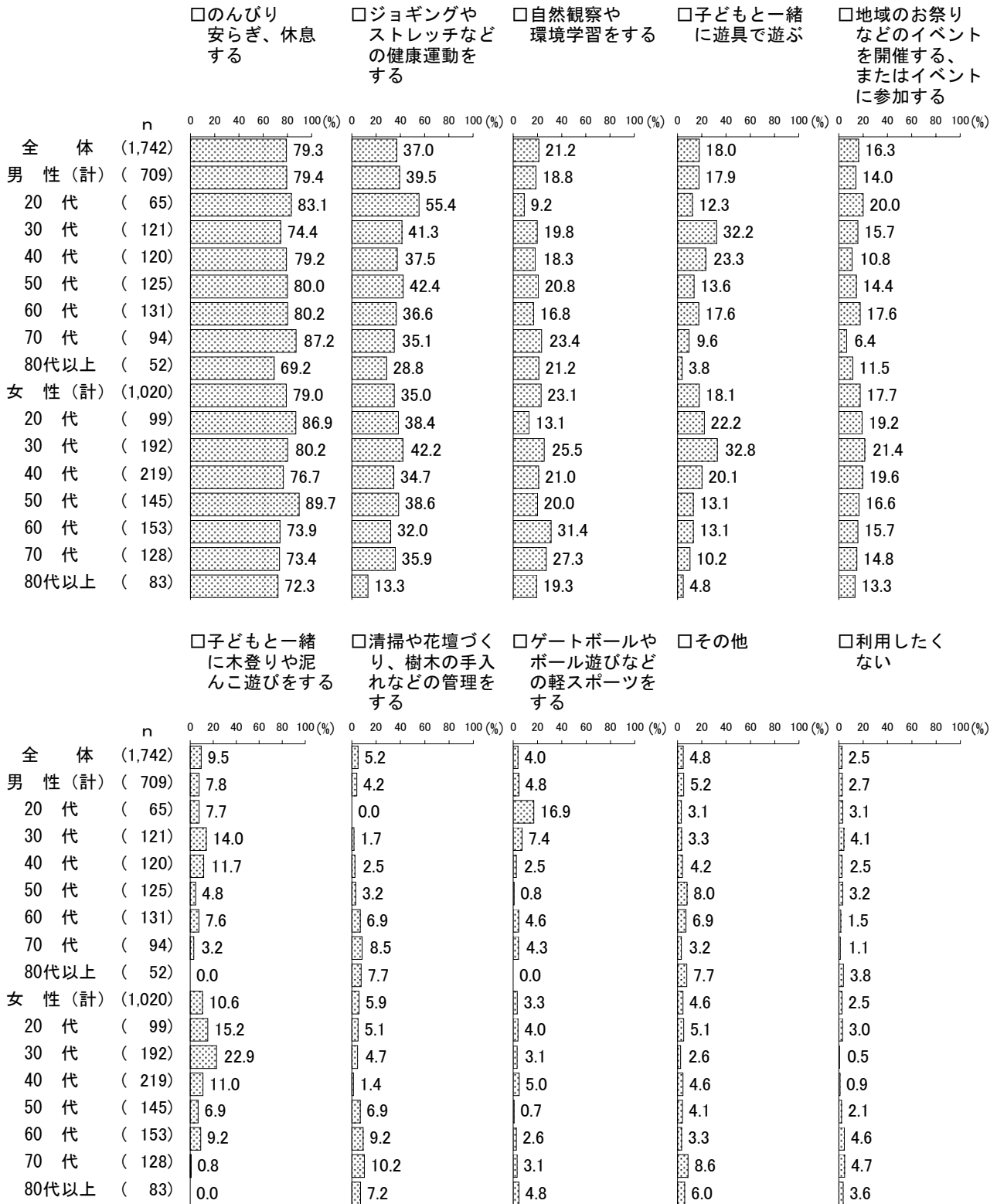
図9-2-2 どのように公園を利用したいかの意向（地区別）



(3) 性・年代別

- ・「ジョギングやストレッチなどの健康運動をする」は男性 (39.5%) が女性 (35.0%) より 4.5 ポイント高くなっている。一方、「自然観察や環境学習をする」は女性 (23.1%) が男性 (18.8%) より 4.3 ポイント高くなっている。
- ・「のんびり安らぎ、休息する」は男性 70 代 (87.2%)、女性の 20 代 (86.9%) と 50 代 (89.7%) で高くなっている。
- ・「ジョギングやストレッチなどの健康運動をする」は男性 20 代 (55.4%) で高くなっている。

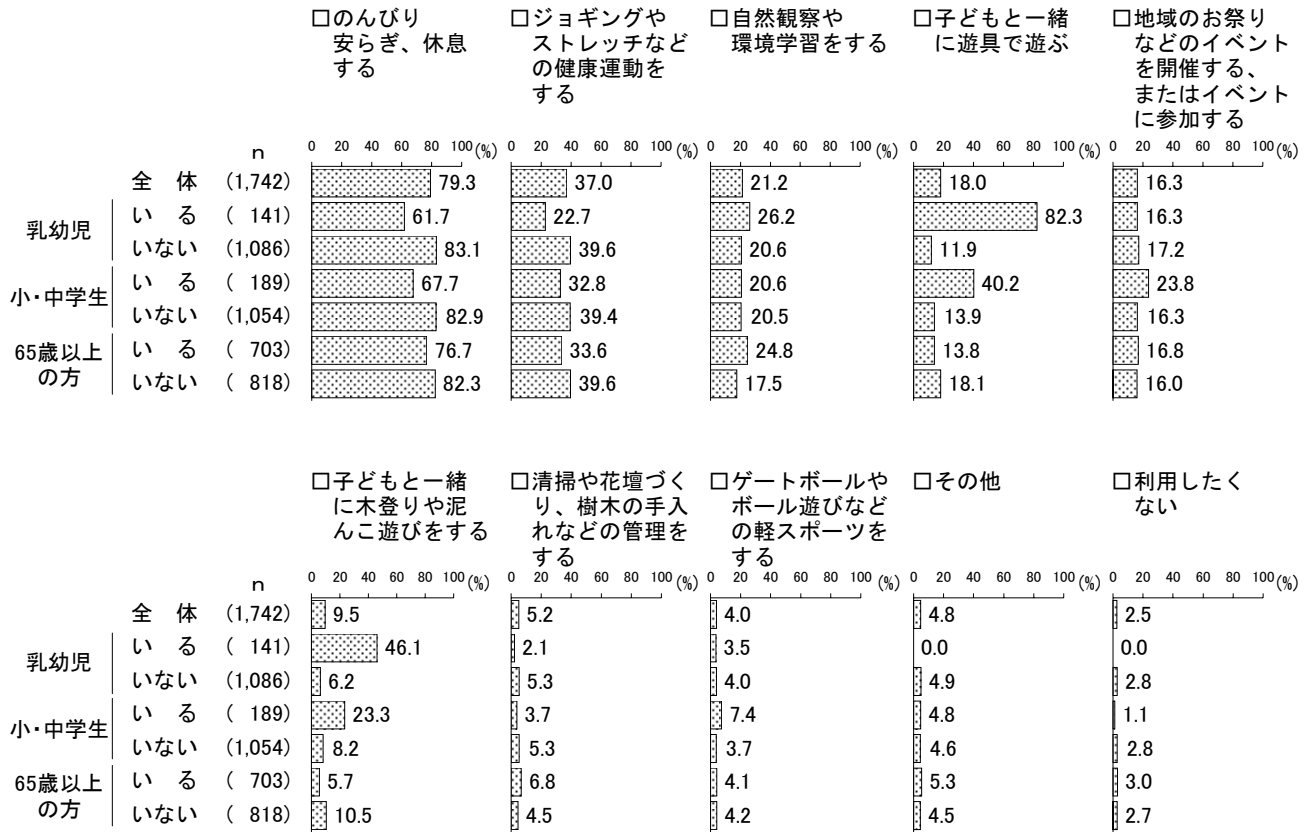
図 9-2-3 どのように公園を利用したいかの意向 (性・年代別)



(4) 家族構成別

- ・「のんびり安らぎ、休息する」は就学前の乳幼児がいない人 (83.1%)、小・中学生がいない人 (82.9%)、65歳以上の方がいない人 (82.3%) で高くなっている。
- ・「ジョギングやストレッチなどの健康運動をする」は就学前の乳幼児がいない人と 65歳以上の方がいない人 (ともに 39.6%)、小・中学生がいない人 (39.4%) で高くなっている。
- ・「子どもと一緒に遊具で遊ぶ」は就学前の乳幼児がいる人 (82.3%) と小・中学生がいる人 (40.2%) で高くなっている。
- ・「子どもと一緒に木登りや泥んこ遊びをする」は就学前の乳幼児がいる人 (46.1%) と小・中学生がいる人 (23.3%) で高くなっている。

図9-2-4 どのように公園を利用したいかの意向 (家族構成別)



10. 生物多様性

10-1 生物多様性の認知度

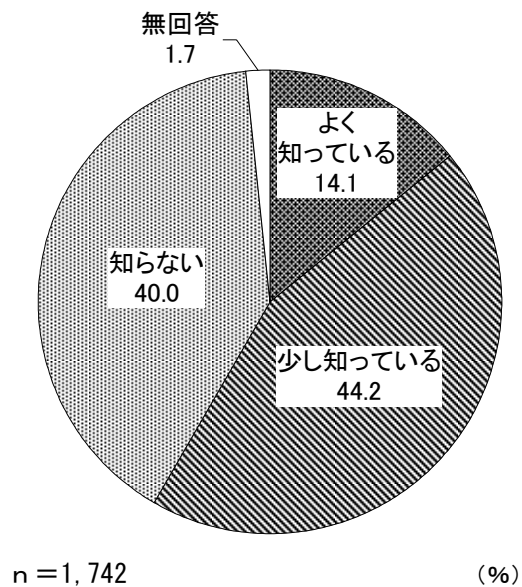
問24 「生物多様性」について知っていますか。(○は1つ)

- ・「よく知っている」と「少し知っている」を合わせた『知っている』は6割近くを占めている。
- ・『知っている』は男性が女性より高く、男性の20代と30代で高くなっている。また、東部地区と中央地区、居住年数が5年未満と10～19年で高くなっている。
- ・「知らない」は女性の50代と60代、居住年数が5～9年で高くなっている。

(1) 全体

- ・「よく知っている」14.1%と「少し知っている」44.2%を合わせた『知っている』は58.3%となっている。一方、「知らない」は40.0%となっている。

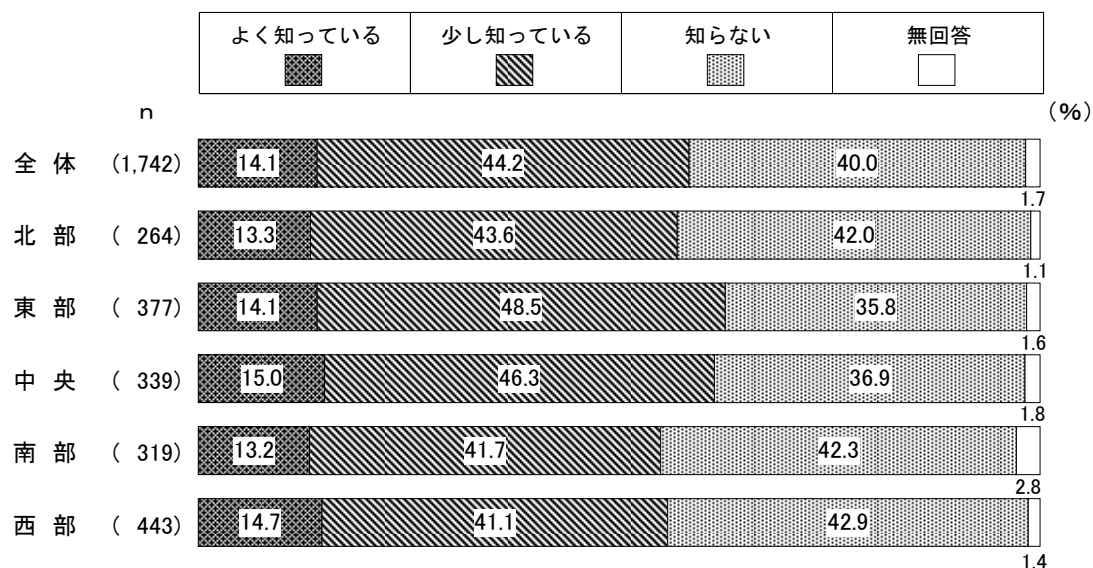
図 10-1-1 生物多様性の認知度 (全体)



(2) 地区別

- ・『知っている』は東部地区（62.6%）と中央地区（61.3%）で高くなっている。

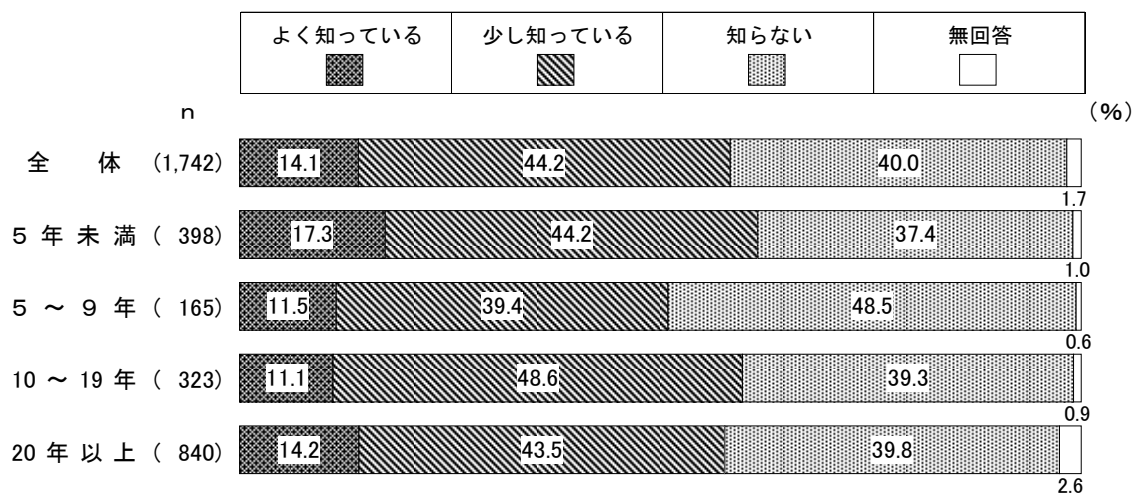
図 10-1-2 生物多様性の認知度（地区別）



(3) 居住年数別

- ・『知っている』は5年未満（61.5%）と10～19年（59.7%）で高くなっている。
- ・「知らない」は5～9年（48.5%）で高くなっている。

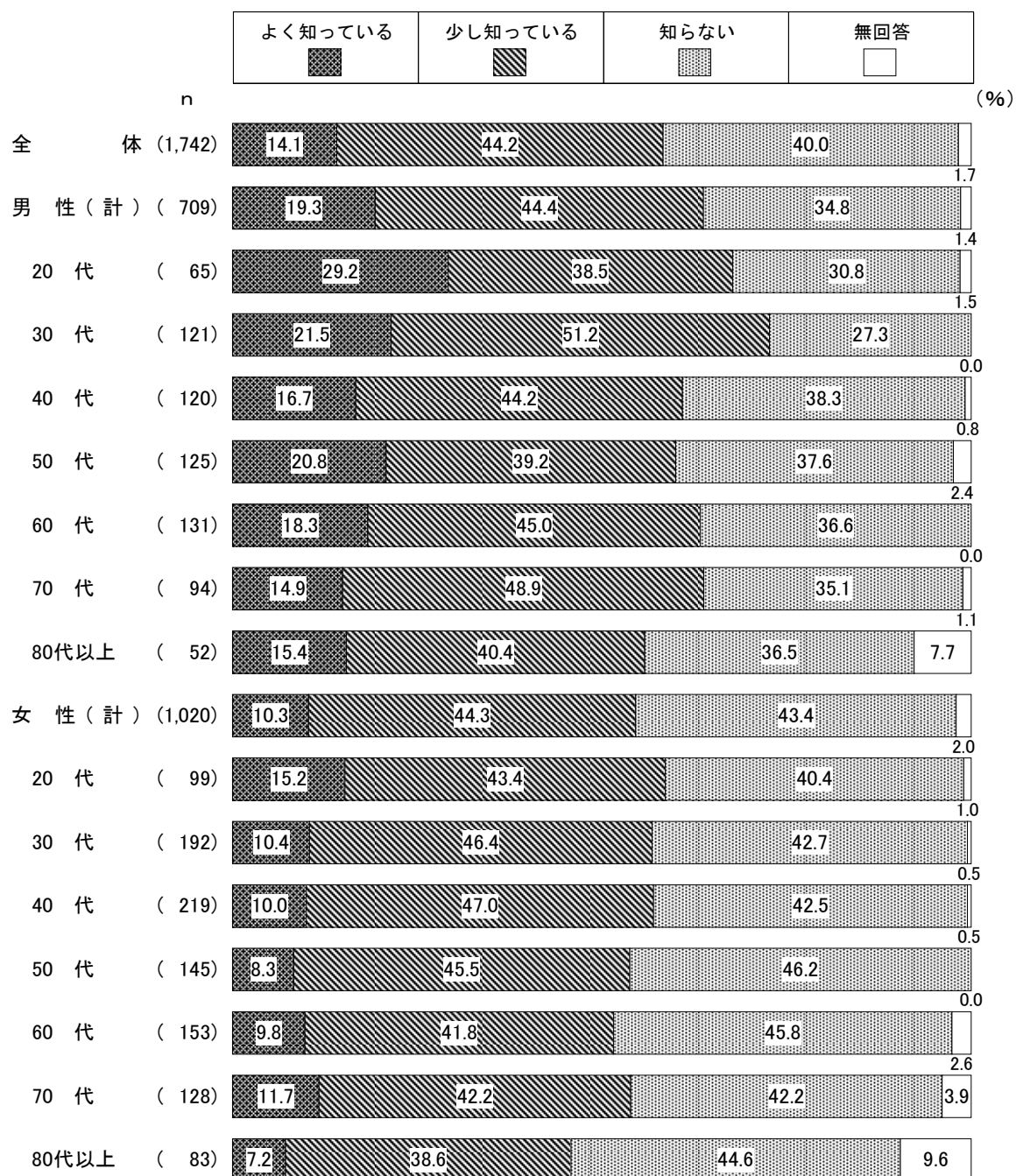
図 10-1-3 生物多様性の認知度（居住年数別）



(4) 性・年代別

- ・『知っている』は男性（63.7%）が女性（54.6%）より9.1ポイント高くなっている。
- ・『知っている』は男性の20代（67.7%）と30代（72.7%）で高くなっている。
- ・「知らない」は女性の50代（46.2%）と60代（45.8%）で高くなっている。

図 10-1-4 生物多様性の認知度（性・年代別）



10-2 「ささえあう生命(いのち)の輪(わ) 野鳥のすめるまちづくり計画」の認知度

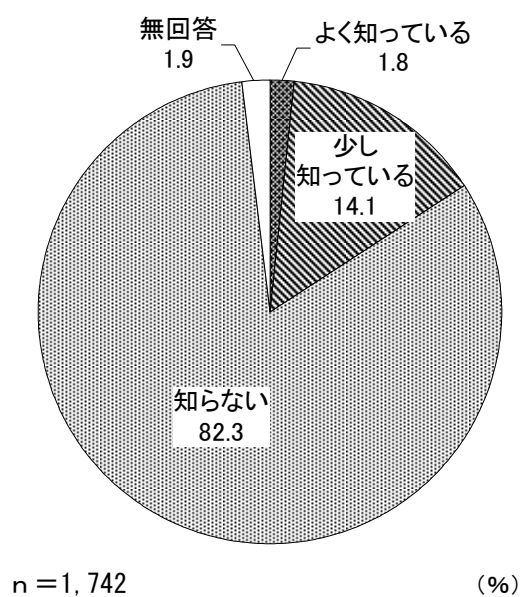
問25 区の生物多様性に関する計画「ささえあう生命(いのち)の輪(わ) 野鳥のすめるまちづくり計画」について知っていますか。(○は1つ)

- ・「よく知っている」と「少し知っている」を合わせた『知っている』は1割半ばとなっている。一方、「知らない」は8割を超えている。
- ・『知っている』は男性、女性ともにおおむね高い年代ほど割合が高い傾向にあり、70代と80代以上で高くなっている。また、居住年数が長いほど割合が高い傾向にあり、特に20年以上で高くなっている。
- ・「知らない」は男性、女性ともに20代と30代で高くなっている。また、すべての地区で8割以上を占め、居住年数が5年未満で高くなっている。

(1) 全体

- ・「よく知っている」1.8%と「少し知っている」14.1%を合わせた『知っている』は15.9%となっている。一方、「知らない」は82.3%となっている。

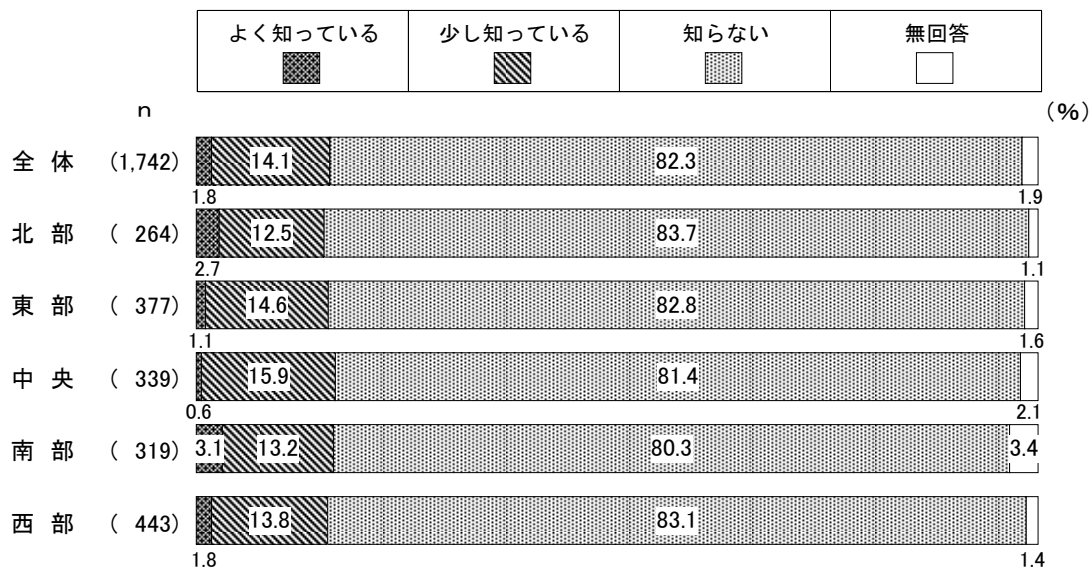
図10-2-1 「ささえあう生命(いのち)の輪(わ) 野鳥のすめるまちづくり計画」の認知度(全体)



(2) 地区別

- ・「知らない」はすべての地区で8割以上を占めている。

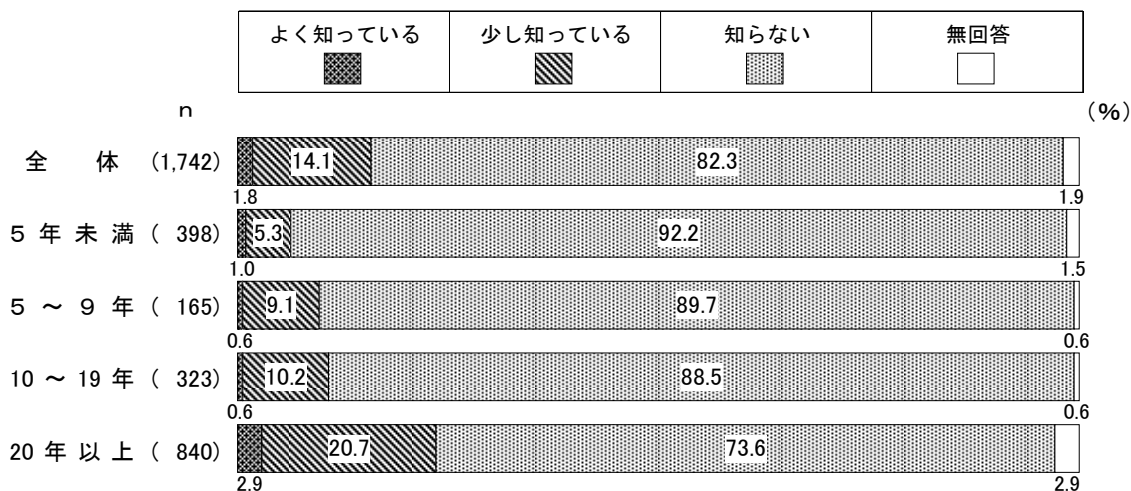
図 10-2-2 「ささえあう生命(いのち)の輪(わ) 野鳥のすめるまちづくり計画」の認知度(地区別)



(3) 居住年数別

- ・『知っている』は居住年数が長いほど割合が高い傾向にあり、特に20年以上(23.6%)で高くなっている。
- ・「知らない」は5年未満(92.2%)で高くなっている。

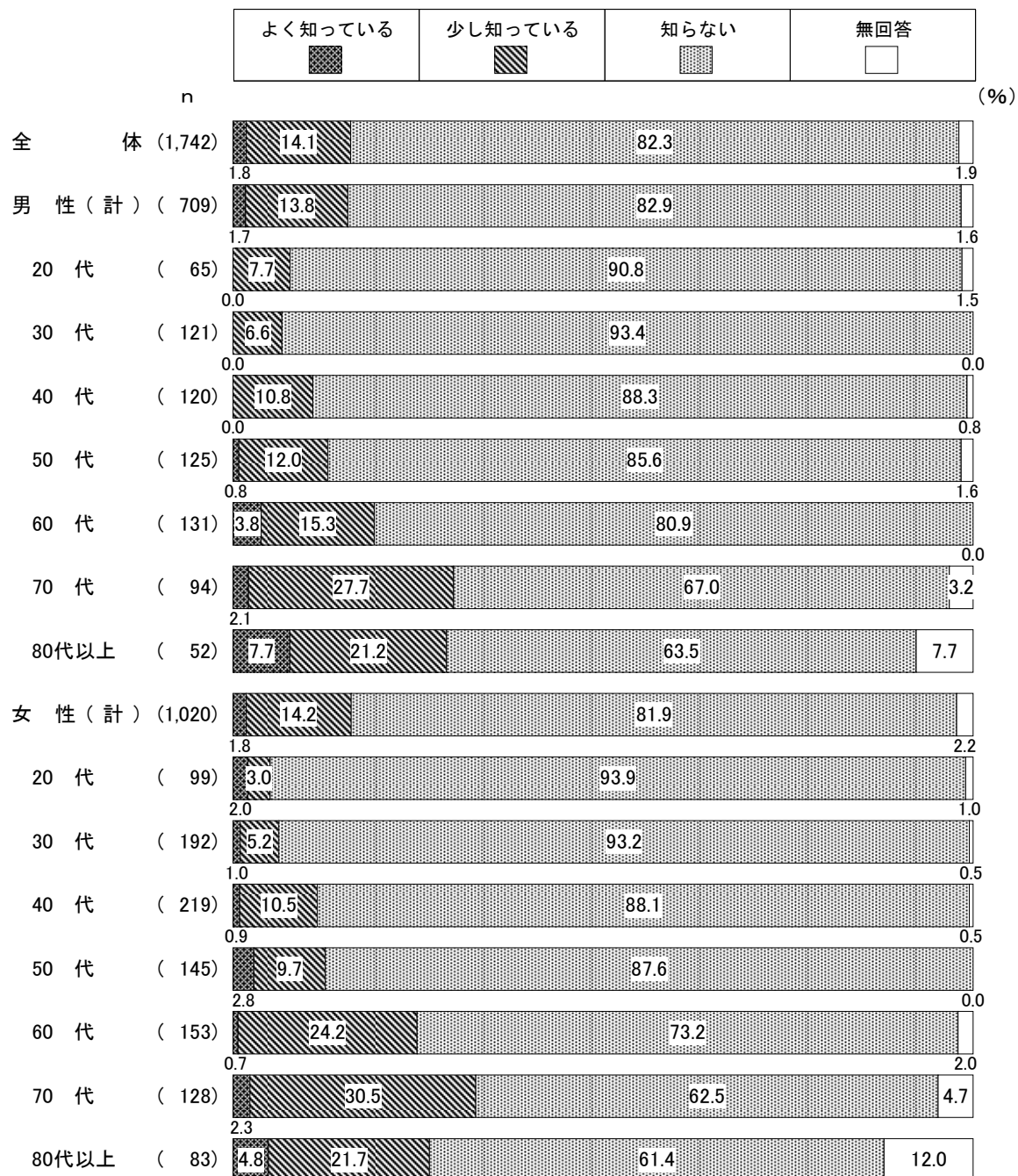
図 10-2-3 「ささえあう生命(いのち)の輪(わ) 野鳥のすめるまちづくり計画」の認知度(居住年数別)



(4) 性・年代別

- ・『知っている』は男性、女性ともにおおむね高い年代ほど割合が高い傾向にあり、70代(男性29.8%、女性32.8%)と80代以上(男性28.9%、女性26.5%)で高くなっている。
- ・「知らない」は男性、女性ともに20代(男性90.8%、女性93.9%)と30代(男性93.4%、女性93.2%)で高くなっている。

図 10-2-4 「ささえあう生命(いのち)の輪(わ) 野鳥のすめるまちづくり計画」の認知度(性・年代別)



10-3 生物多様性関連事業で重要なこと

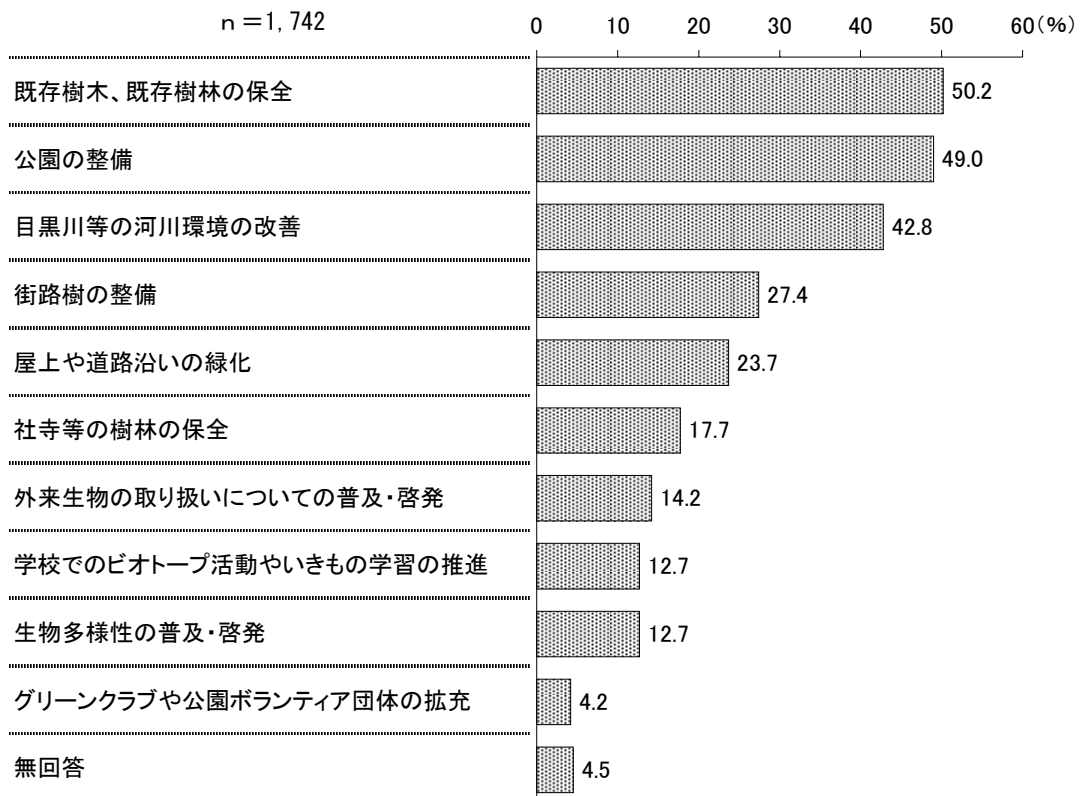
問26 目黒区の生物多様性を守り回復させていくために、区に特に力を入れて取り組んで欲しいと思うものは何ですか。（〇は3つまで）

- ・「既存樹木、既存樹林の保全」が5割で最も高く、次いで「公園の整備」ほぼ5割、「目黒川等の河川環境の改善」が4割を超えている。
- ・「既存樹木、既存樹林の保全」は西部地区で高く、居住年数が20年以上で高くなっている。
- ・「公園の整備」は北部地区で高く、居住年数が短いほど割合が高い傾向にある。
- ・「目黒川等の河川環境の改善」は東部地区で高く、居住年数が短いほど割合が高い傾向にある。

(1) 全体

- ・「既存樹木、既存樹林の保全」が50.2%で最も高く、次いで「公園の整備」49.0%、「目黒川等の河川環境の改善」42.8%、「街路樹の整備」27.4%の順となっている。

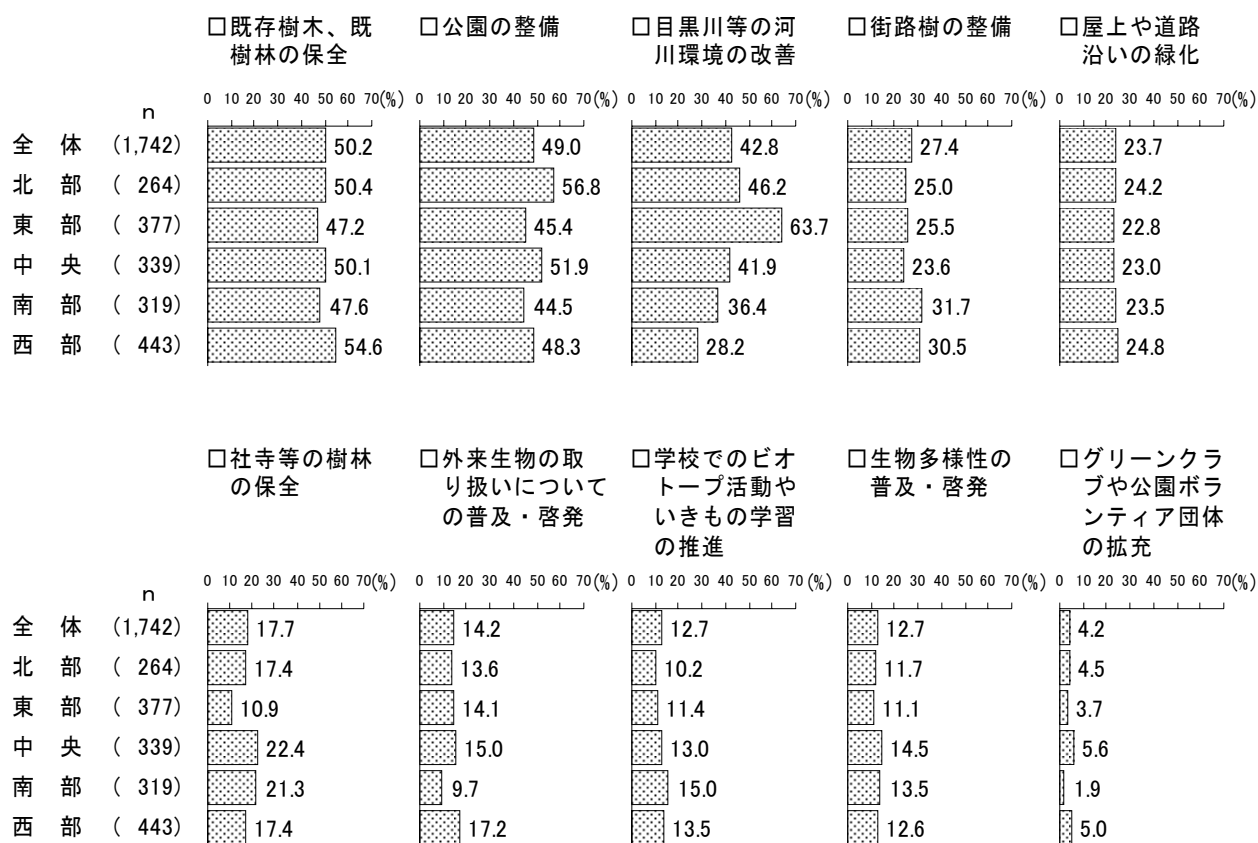
図 10-3-1 生物多様性関連事業で重要なこと（全体）



(2) 地区別

- ・「既存樹木、既存樹林の保全」は西部地区（54.6%）で高く、「公園の整備」は北部地区（56.8%）で高くなっている。
- ・「目黒川等の河川環境の改善」は東部地区（63.7%）で高くなっている。
- ・「街路樹の整備」は南部地区（31.7%）と西部地区（30.5%）で高くなっている。

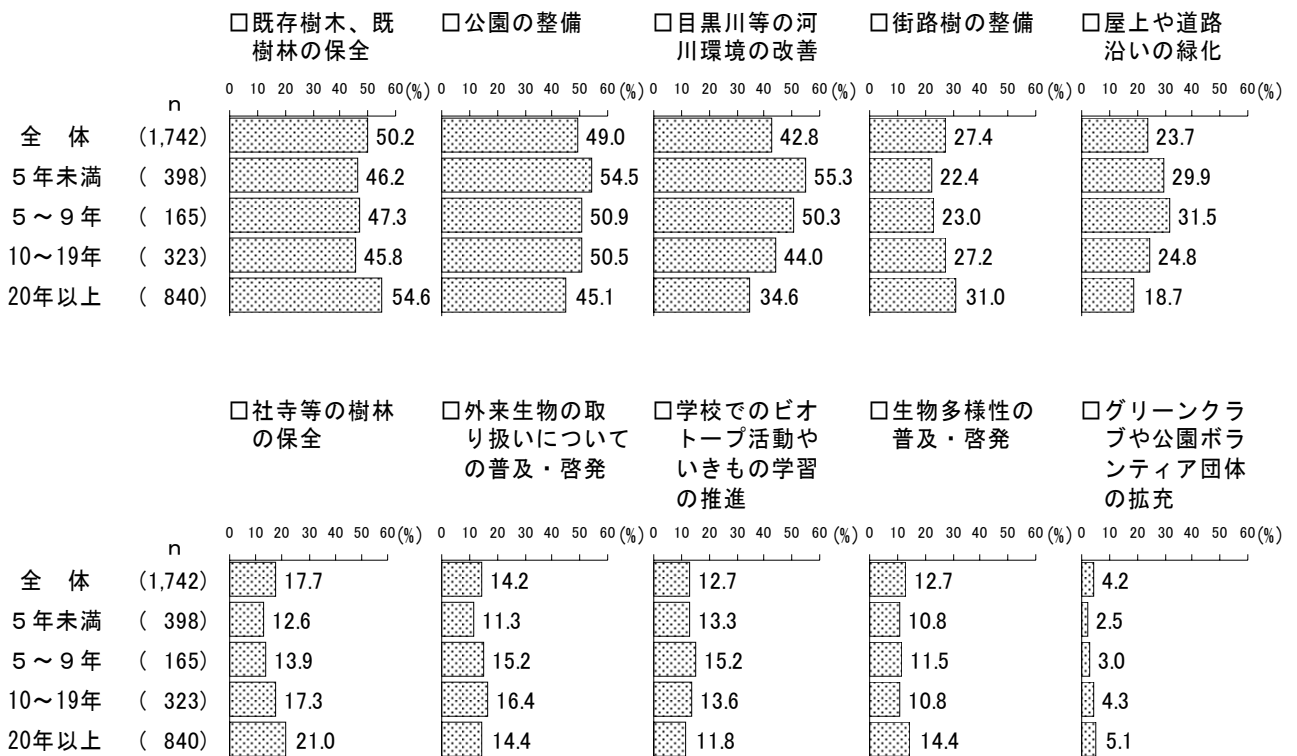
図 10-3-2 生物多様性関連事業で重要なこと（地区別）



(3) 居住年数別

- ・「既存樹木、既存樹林の保全」は20年以上（54.6%）で高くなっている。
- ・「公園の整備」と「目黒川等の河川環境の改善」はともに居住年数が短いほど割合が高い傾向にある。
- ・「街路樹の整備」は20年以上（31.0%）で高く、「屋上や道路沿いの緑化」は5～9年（31.5%）で高くなっている。

図 10-3-3 生物多様性関連事業で重要なこと（居住年数別）



11. 運動・スポーツ

11-1 運動やスポーツの実施状況

問27 あなたは、この1年間に1回30分以上の運動やスポーツをどのくらい行っていますか。
(〇は1つ)

- ・「週に2～3回程度行っている」が2割近く、「週に1回程度行っている」が1割半ばとなっている。また、「1年間、ほとんど行わなかった」が3割となっている。
- ・「ほぼ毎日行っている」は男性が女性より高く、男性80代以上で高くなっている。また、中央地区と北部地区、学生と無職で高くなっている。
- ・「1年間、ほとんど行わなかった」は女性が男性より高く、女性の40代、60代、80代以上で高くなっている。また、南部地区と西部地区、パート・アルバイトで高くなっている。

(1) 全体

- ・「週に2～3回程度行っている」が18.2%、「週に1回程度行っている」が16.2%、「月に2～3回程度行っている」が11.7%、「ほぼ毎日行っている」と「年に数回程度行っている」はともに10.2%となっている。また、「1年間、ほとんど行わなかった」が29.9%となっている。
- ・運動やスポーツの実施状況の推移をみると、前回（平成21年）より「年に数回程度行っている」が5.3ポイント減少し、「1年間、ほとんど行わなかった」が4.3ポイント増加している。

図11-1-1 運動やスポーツの実施状況（全体）

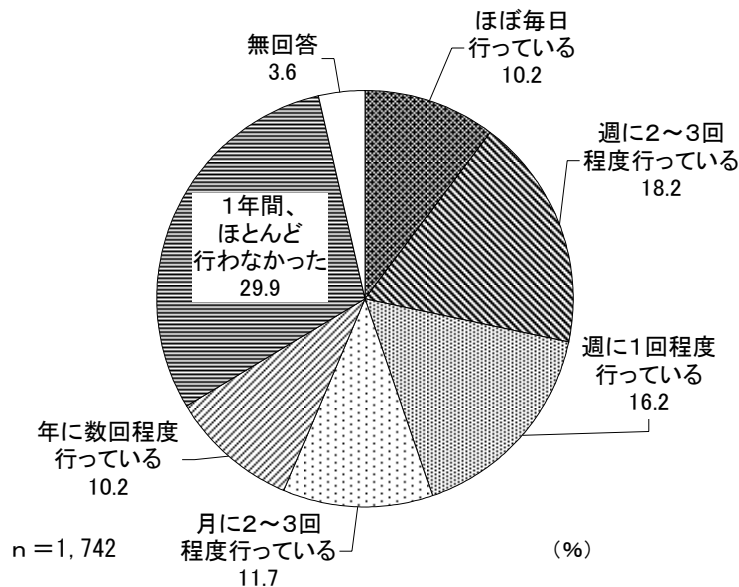
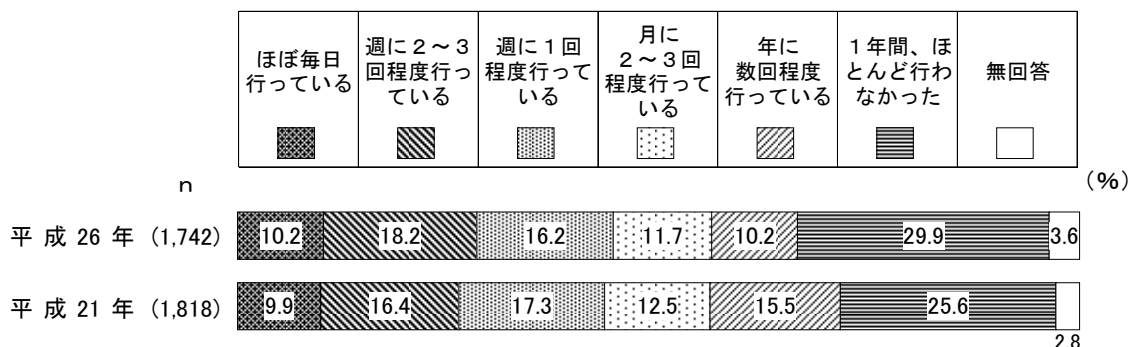


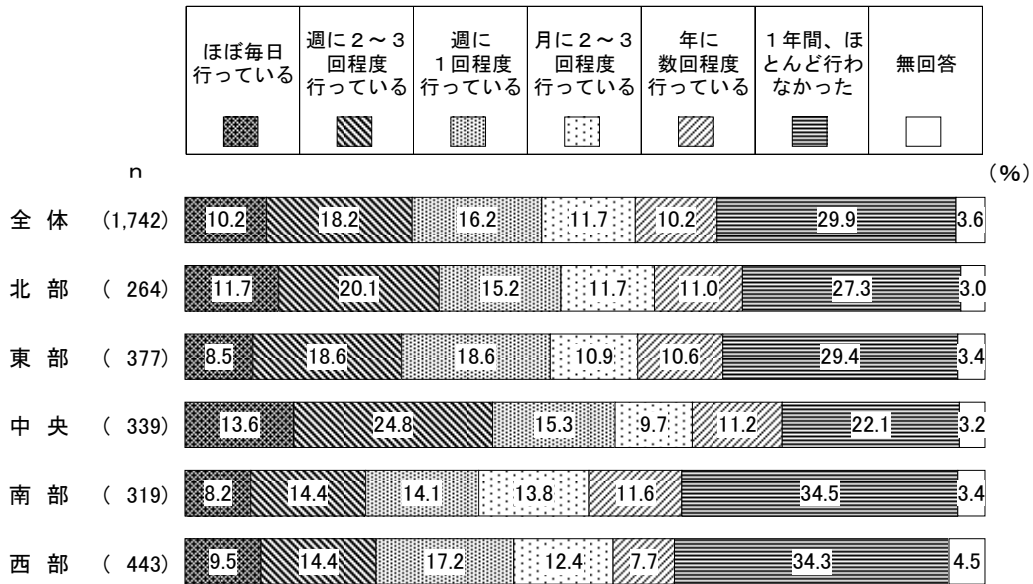
図11-1-2 運動やスポーツの実施状況の推移（全体）



(2) 地区別

- ・「ほぼ毎日行っている」は中央地区（13.6%）と北部地区（11.7%）で高くなっている。
- ・「1年間、ほとんど行わなかった」は南部地区（34.5%）と西部地区（34.3%）で高くなっている。

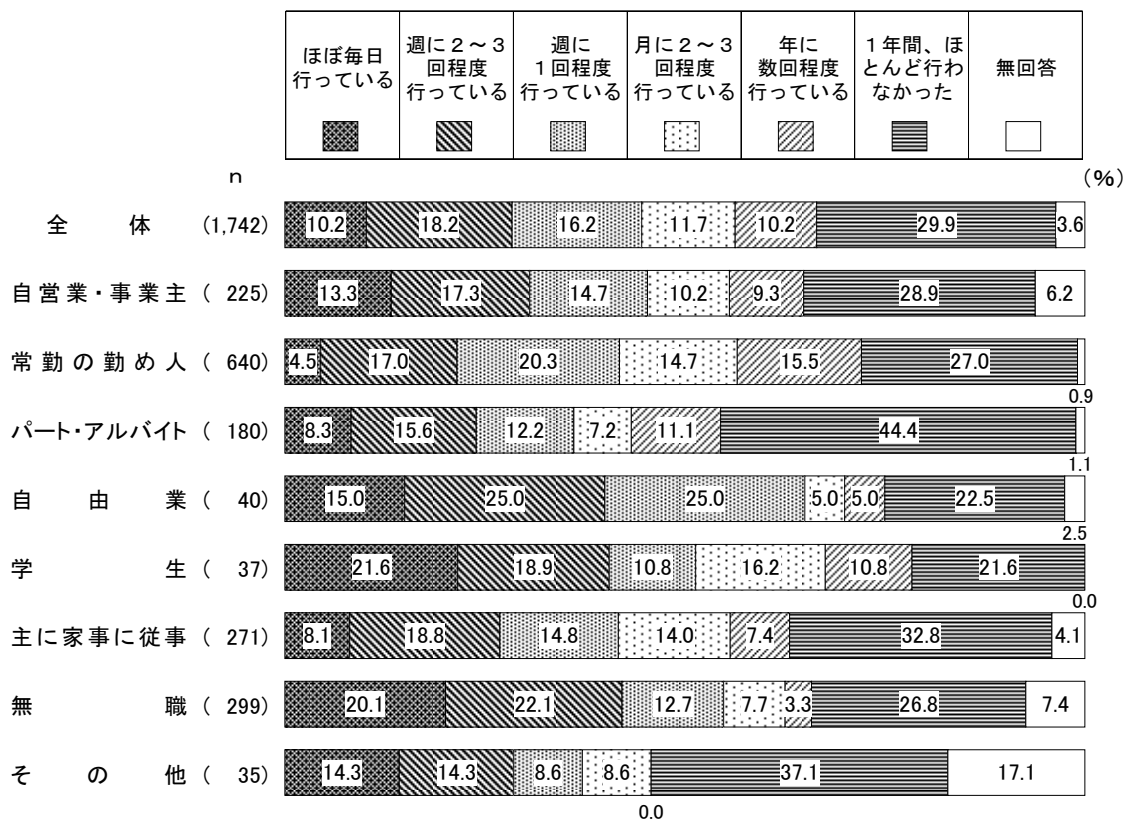
図 11-1-3 運動やスポーツの実施状況（地区別）



(3) 職業別

- ・「ほぼ毎日行っている」は学生（21.6%）と無職（20.1%）で高くなっている。
- ・「1年間、ほとんど行わなかった」はパート・アルバイト（44.4%）で高くなっている。

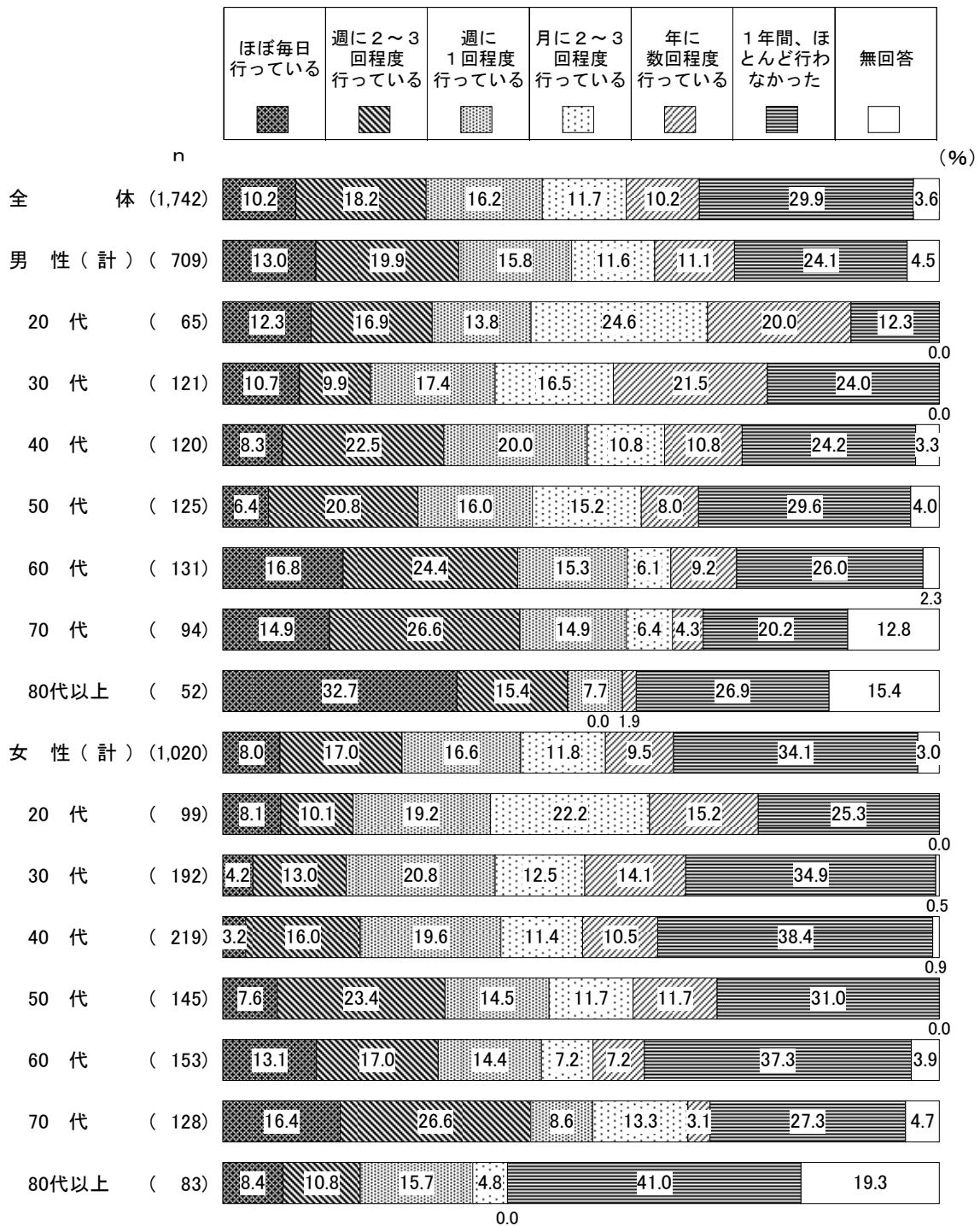
図 11-1-4 運動やスポーツの実施状況（職業別）



(4) 性・年代別

- ・「1年間、ほとんど行わなかった」は女性(34.1%)が男性(24.1%)より10.0ポイント高くなっている。一方、「ほぼ毎日行っている」は男性(13.0%)が女性(8.0%)より5.0ポイント高くなっている。
- ・「ほぼ毎日行っている」は男性80代以上(32.7%)で高くなっている。
- ・「1年間、ほとんど行わなかった」は女性の40代(38.4%)、60代(37.3%)、80代以上(41.0%)で高くなっている。

図 11-1-5 運動やスポーツの実施状況(性・年代別)



11-2 現在行っている運動・スポーツ

(問27で、この1年間に1回30分以上の運動やスポーツを「ほぼ毎日行っている」～「年に数回程度行っている」のいずれかに回答した方にお尋ねします)

問27-1 どんな運動をしていますか。(〇はいくつでも)

- ・「野外活動」が6割を超えて最も高く、次いで「健康体操」が3割を超えている。
- ・「野外活動」は男性60代で高く、西部地区と北部地区で高くなっている。
- ・「健康体操」は女性が男性より高く、女性ではおおむね高い年代ほど割合が高い傾向にあり、特に女性80代以上で高くなっている。また、西部地区、中央地区、東部地区で高くなっている。

(1) 全体

- ・「野外活動」が62.2%で最も高く、次いで「健康体操」32.3%、「水泳」12.1%、「屋外球技」11.5%の順となっている。
- ・現在行っている運動・スポーツの推移をみると、前回(平成21年)より「野外活動」が15.3ポイント、「健康体操」が11.9ポイント、それぞれ増加している。一方、「雪と氷のスポーツ」が4.2ポイント減少している。

図11-2-1 現在行っている運動・スポーツ(全体)

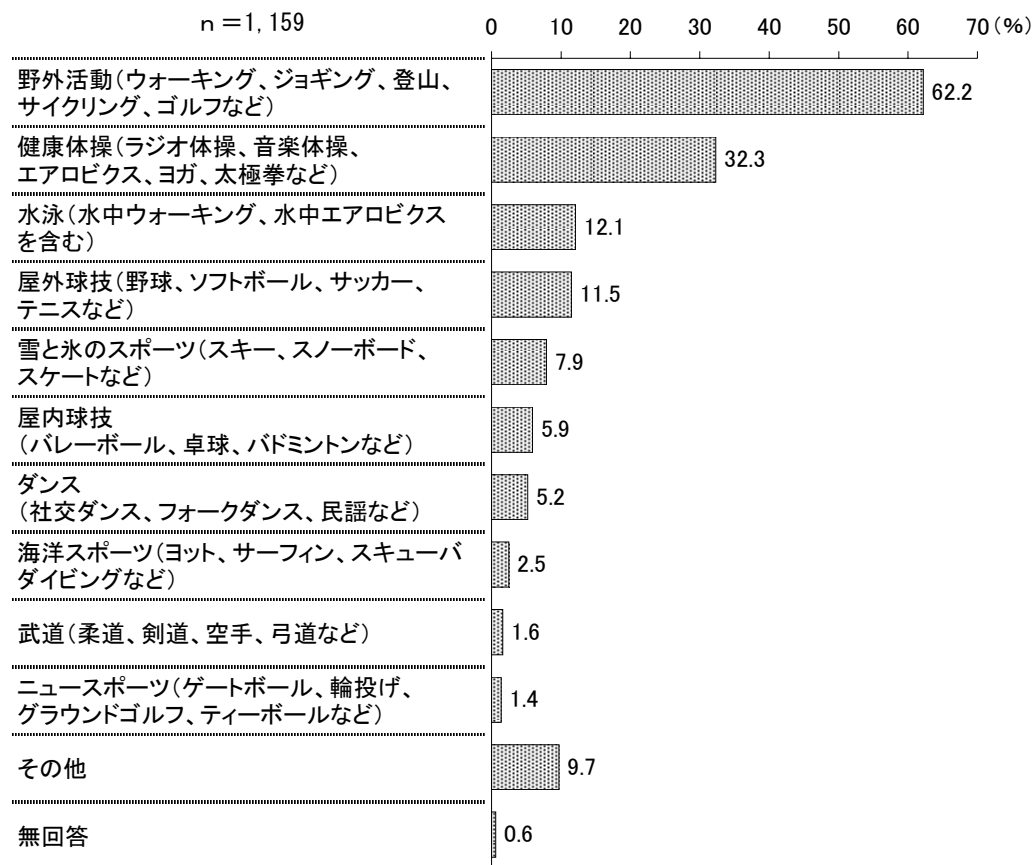
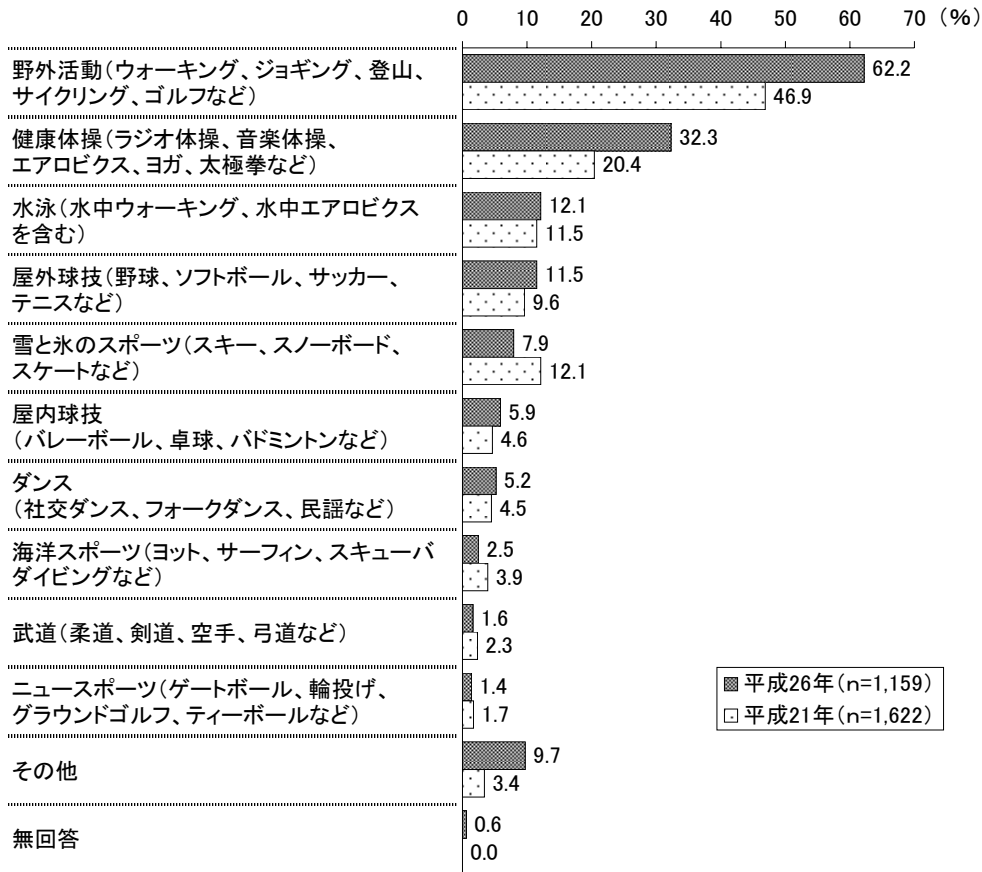


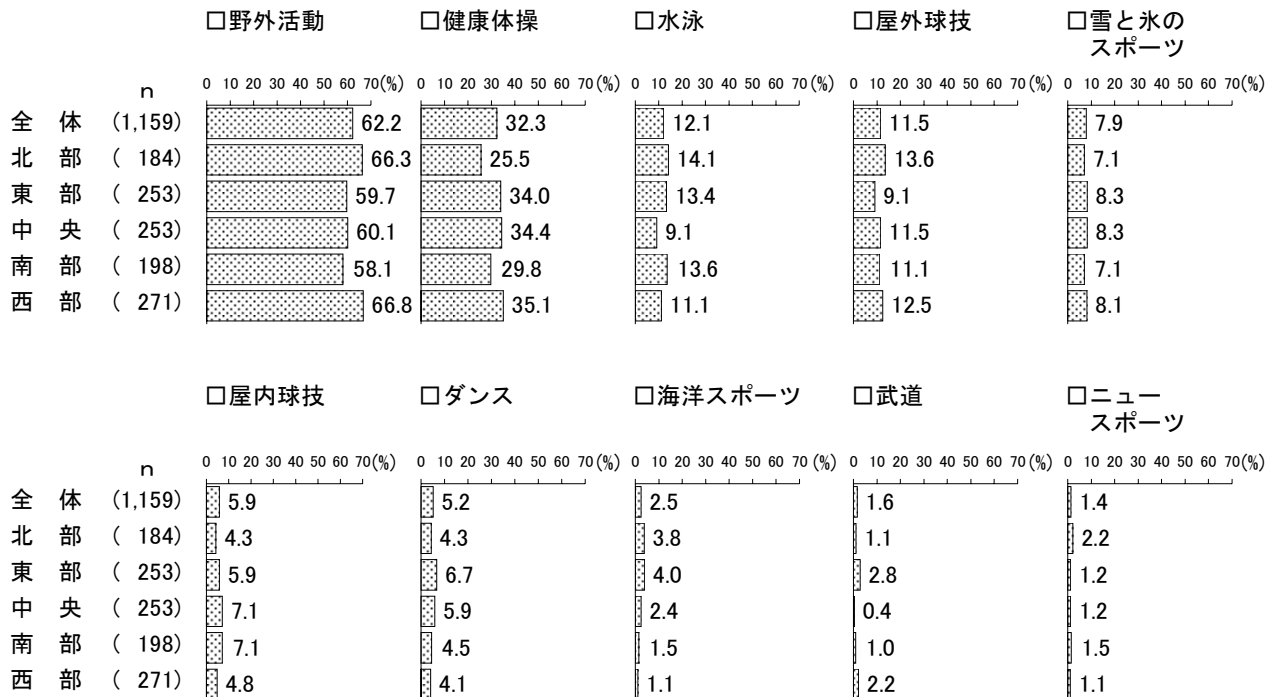
図 11-2-2 現在行っている運動・スポーツの推移（全体）



(2) 地区別

- ・「野外活動」は西部地区（66.8%）と北部地区（66.3%）で高くなっている。
- ・「健康体操」は西部地区（35.1%）、中央地区（34.4%）、東部地区（34.0%）で高くなっている。

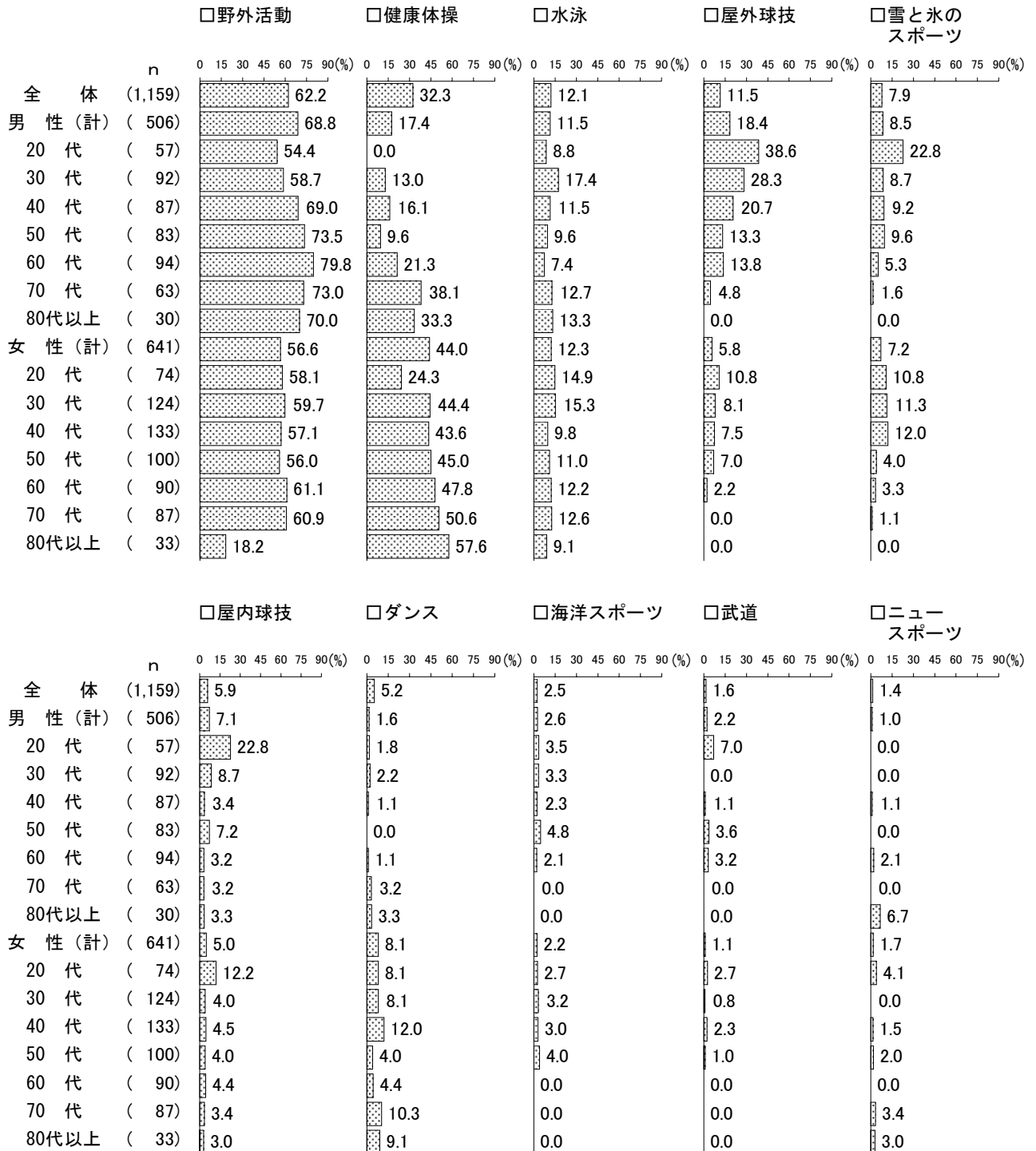
図 11-2-3 現在行っている運動・スポーツ【上位 10 項目】（地区別）



(3) 性・年代別

- ・「健康体操」は女性（44.0%）が男性（17.4%）より 26.6 ポイント高くなっている。一方、「屋外球技」は男性（18.4%）が女性（5.8%）より 12.6 ポイント高くなっている。
- ・「野外活動」は男性 60 代（79.8%）で高くなっている。
- ・「健康体操」は女性ではおおむね高い年代ほど割合が高い傾向にあり、特に女性 80 代以上（57.6%）で高くなっている。

図 11-2-4 現在行っている運動・スポーツ【上位 10 項目】（性・年代別）



11-3 今後行いたい運動・スポーツ

問28 あなたは、今後どのような運動やスポーツをしたいですか。（〇は3つまで）

- ・「野外活動」が4割半ばで最も高く、次いで「健康体操」が4割近く、「水泳」が2割半ばとなっている。
- ・「野外活動」は男性の40代と60代、女性50代で高くなっている。また、中央地区で高くなっている。
- ・「健康体操」は女性が男性より高く、女性の50代、60代、70代で高くなっている。また、西部地区で高くなっている。

(1) 全体

- ・「野外活動」が44.0%で最も高く、次いで「健康体操」36.9%、「水泳」26.0%、「屋外球技」13.7%の順となっている。
- ・今後行いたい運動・スポーツの推移をみると、前回（平成21年）より「野外活動」が19.8ポイント、「健康体操」が11.3ポイント、それぞれ増加している。一方、「海洋スポーツ」が6.4ポイント減少している。

図 11-3-1 今後行いたい運動・スポーツ（全体）

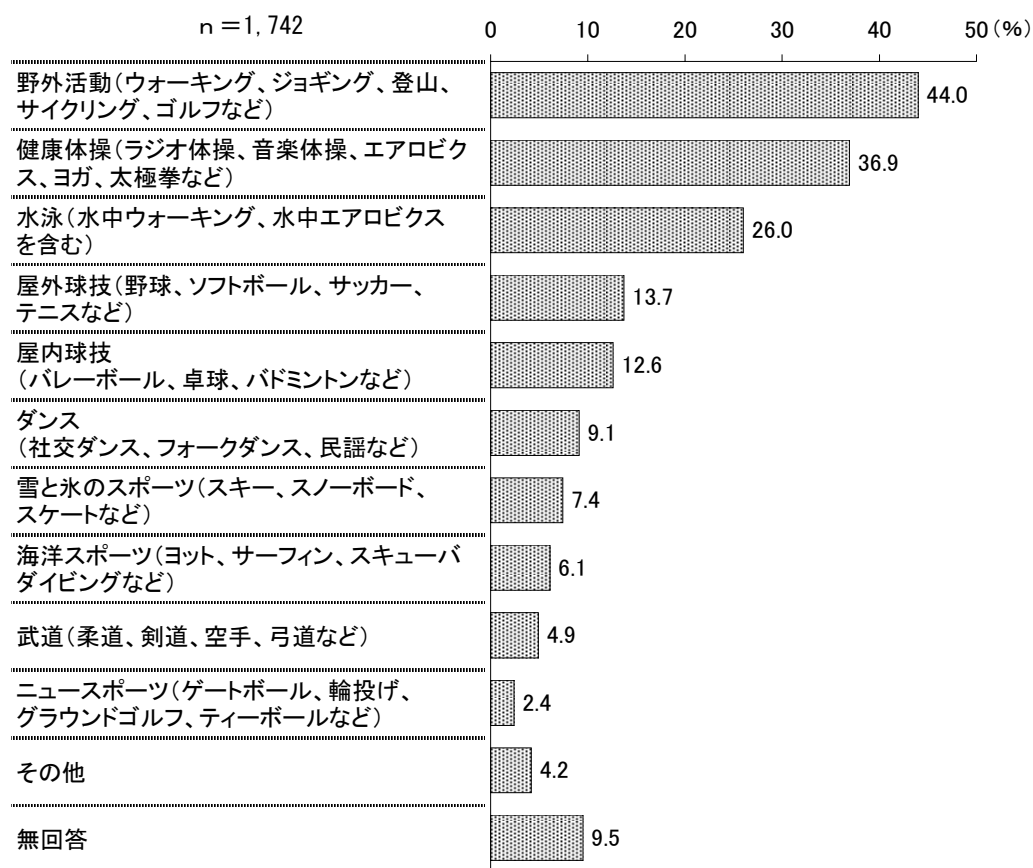
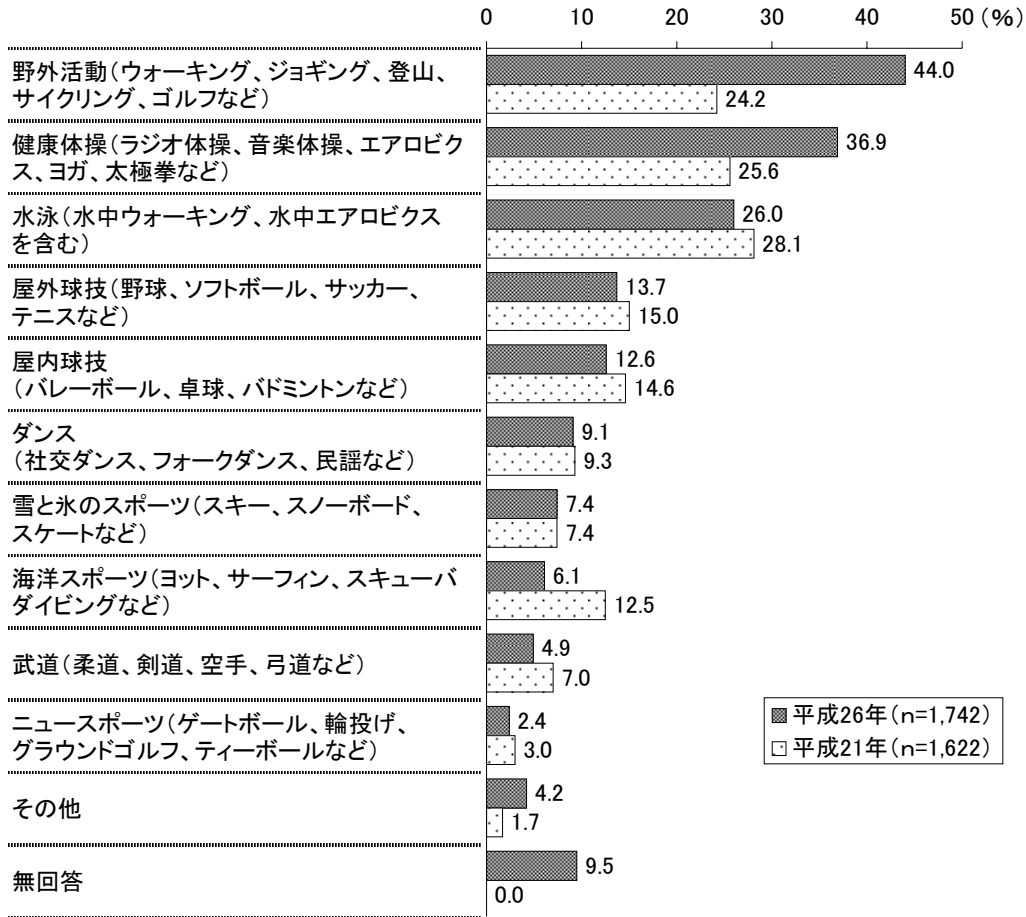


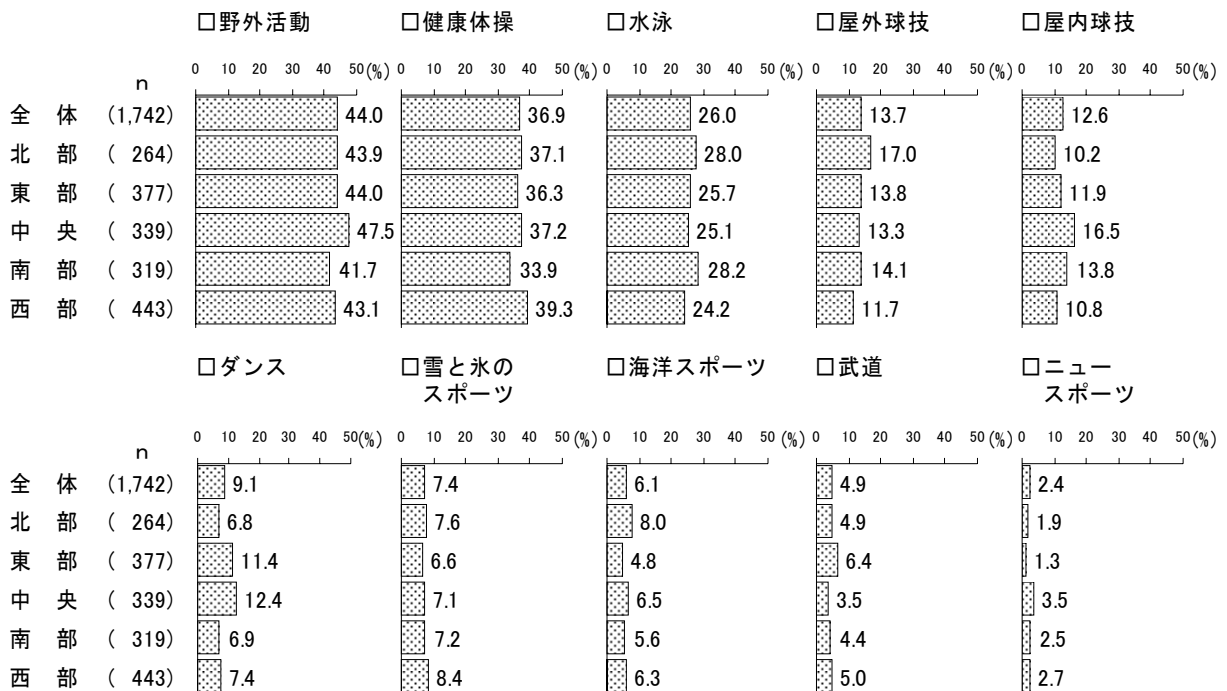
図 11-3-2 今後行いたい運動・スポーツの推移（全体）



(2) 地区別

・「野外活動」は中央地区（47.5％）で高く、「健康体操」は西部地区（39.3％）で高くなっている。

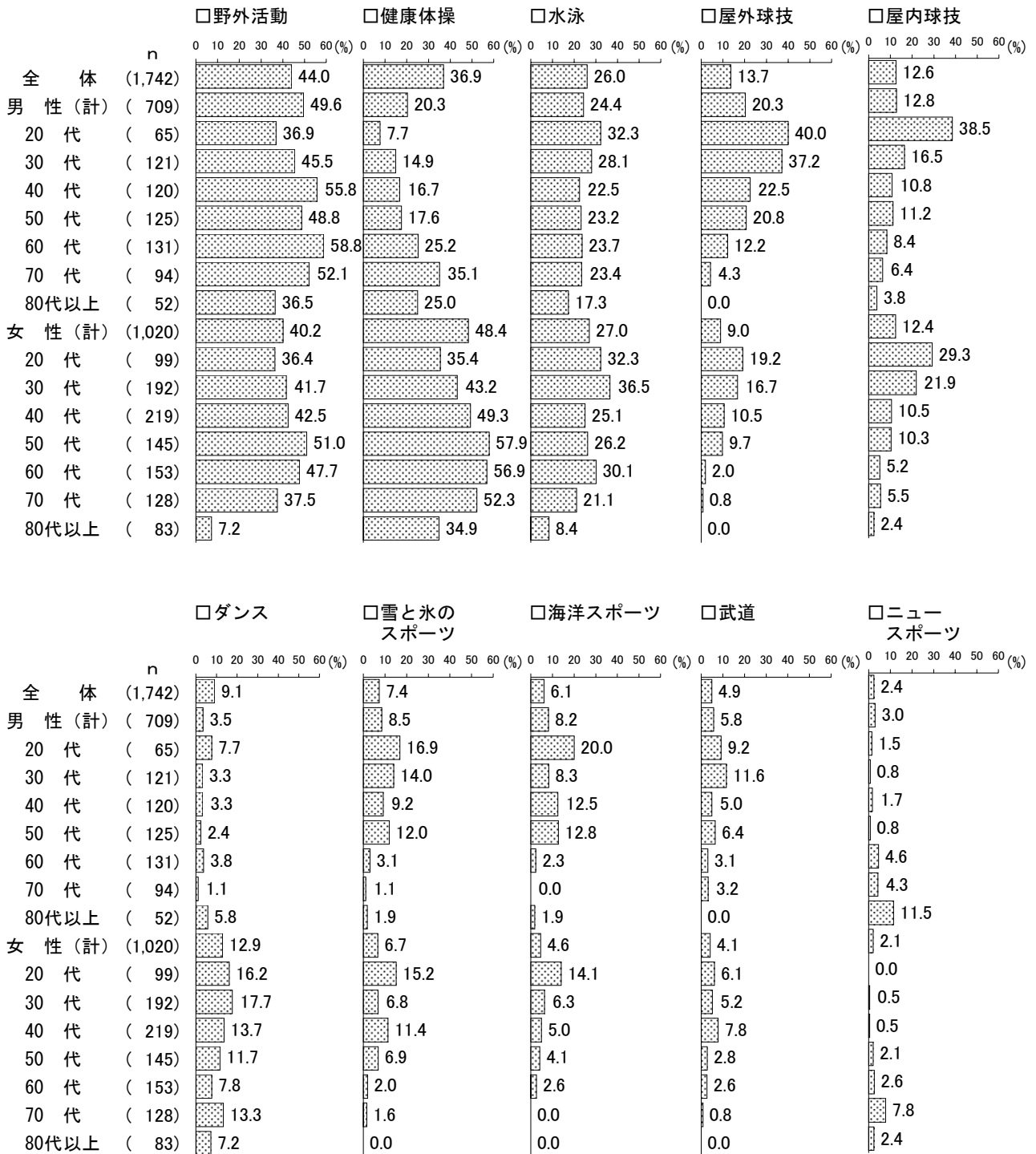
図 11-3-3 今後行いたい運動・スポーツ【上位10項目】（地区別）



(3) 性・年代別

- ・「健康体操」は女性（48.4%）が男性（20.3%）より 28.1 ポイント高くなっている。一方、「屋外球技」は男性（20.3%）が女性（9.0%）より 11.3 ポイント高くなっている。
- ・「野外活動」は男性の 40 代（55.8%）と 60 代（58.8%）、女性 50 代（51.0%）で高くなっている。
- ・「健康体操」は女性の 50 代（57.9%）、60 代（56.9%）、70 代（52.3%）で高くなっている。

図 11-3-4 今後行いたい運動・スポーツ【上位 10 項目】（性・年代別）



11-4 「総合型地域スポーツクラブ スポルテ目黒」の認知度

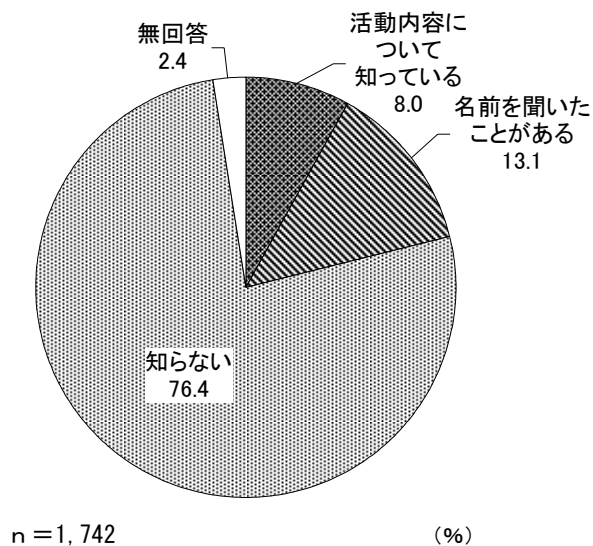
問29 あなたは、目黒区に「総合型地域スポーツクラブ スポルテ目黒」が設立されていることを知っていますか。(○は1つ)

- ・「活動内容について知っている」と「名前を聞いたことがある」を合わせた『知っている』は2割を超えている。一方、「知らない」は7割半ばとなっている。
- ・『知っている』は女性が男性より高く、女性の40代と70代で高くなっている。また、中央地区と南部地区で高くなっている。
- ・「知らない」は男性、女性ともに20代と30代で高くなっている。また、北部地区と東部地区で高くなっている。

(1) 全体

- ・「活動内容について知っている」8.0%と「名前を聞いたことがある」13.1%を合わせた『知っている』は21.1%となっている。一方、「知らない」は76.4%となっている。

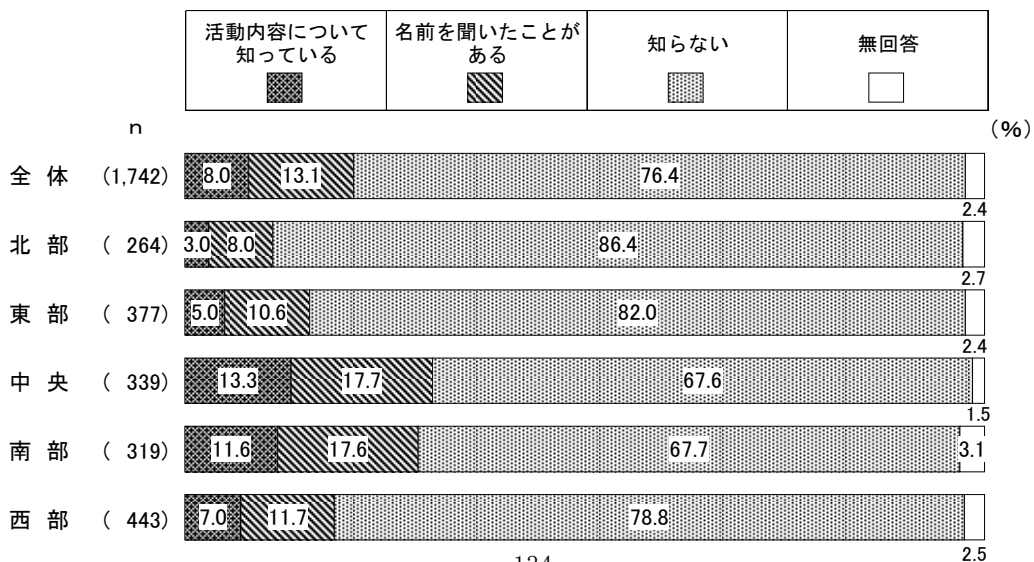
図11-4-1 「総合型地域スポーツクラブ スポルテ目黒」の認知度(全体)



(2) 地区別

- ・『知っている』は中央地区(31.0%)と南部地区(29.2%)で高くなっている。
- ・「知らない」は北部地区(86.4%)と東部地区(82.0%)で高くなっている。

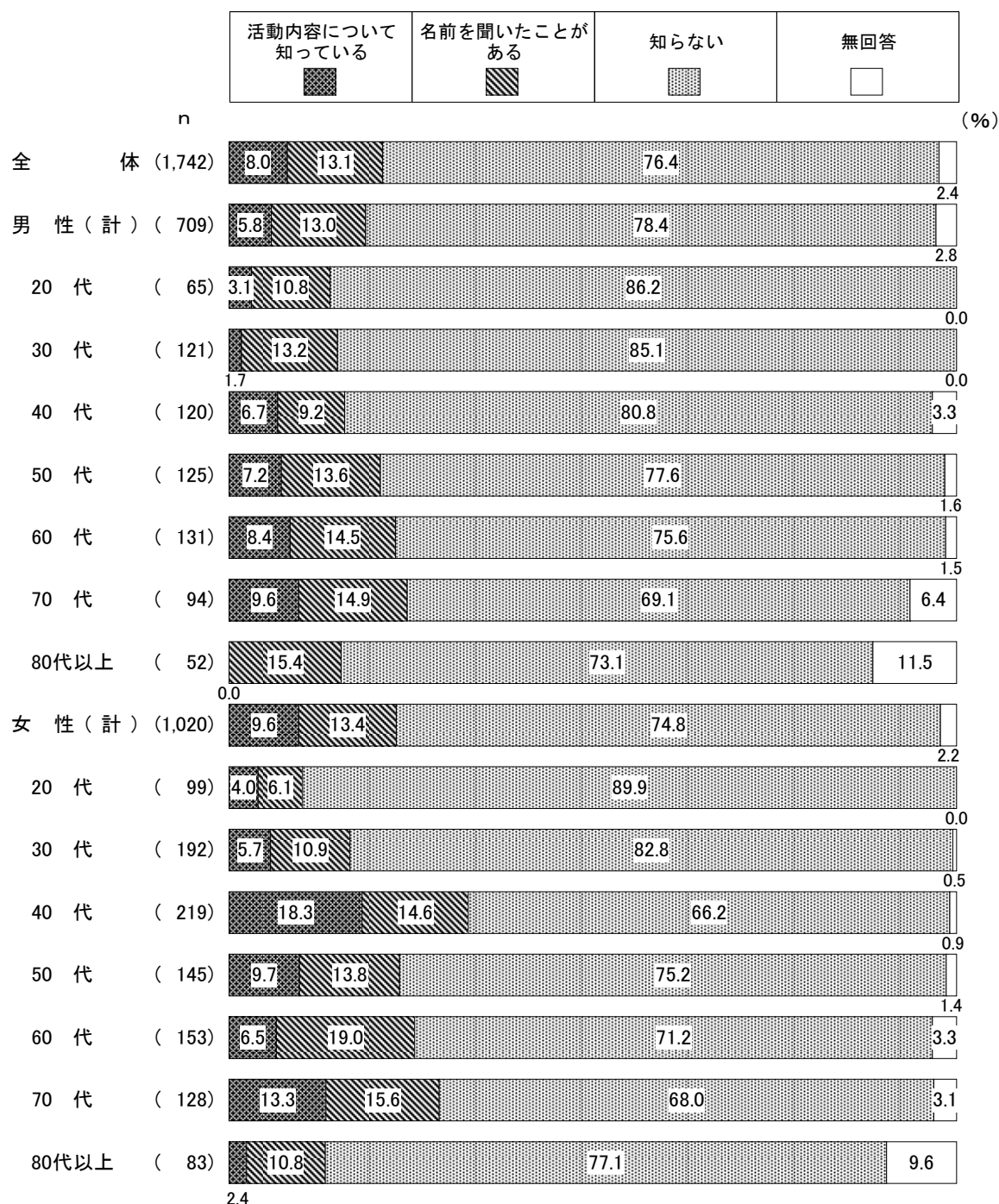
図11-4-2 「総合型地域スポーツクラブ スポルテ目黒」の認知度(地区別)



(3) 性・年代別

- ・『知っている』は女性（23.0%）が男性（18.8%）より4.2ポイント高くなっている。
- ・『知っている』は女性の40代（32.9%）と70代（28.9%）で高くなっている。また、男性ではおむね高い年代ほど割合が高い傾向にある。
- ・「知らない」は男性、女性ともに20代（男性86.2%、女性89.9%）と30代（男性85.1%、女性82.8%）で高くなっている。

図 11-4-3 「総合型地域スポーツクラブ スポルテ目黒」の認知度（性・年代別）



12. 生涯学習

12-1 生涯学習活動への参加の有無

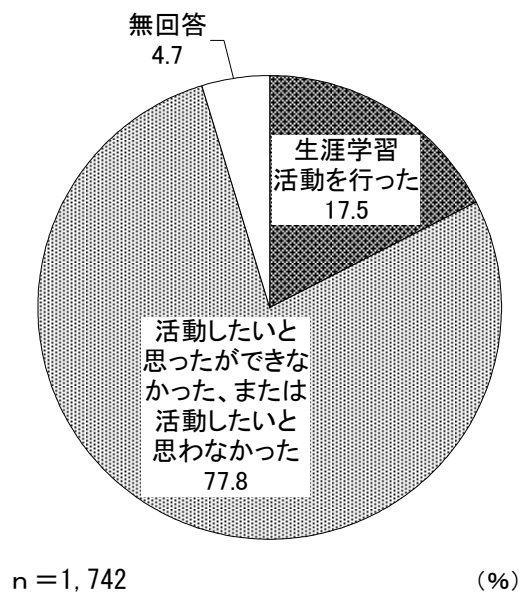
問30 あなたは、この1年間に、生涯学習活動を行ったことがありますか。(○は1つ)

- ・「生涯学習活動を行った」が2割近く、「活動したいと思ったができなかった、または活動したいと思わなかった」が8割近くとなっている。
- ・「生涯学習活動を行った」は女性が男性より高く、男性70代と女性の50代以上の年代で高くなっている。また、主に家事に従事と学生で高くなっている。
- ・「活動したいと思ったができなかった、または活動したいと思わなかった」は男性40代で高くなっている。また、常勤の勤め人と自営業・事業主で高くなっている。

(1) 全体

- ・「生涯学習活動を行った」が17.5%、「活動したいと思ったができなかった、または活動したいと思わなかった」が77.8%となっている。

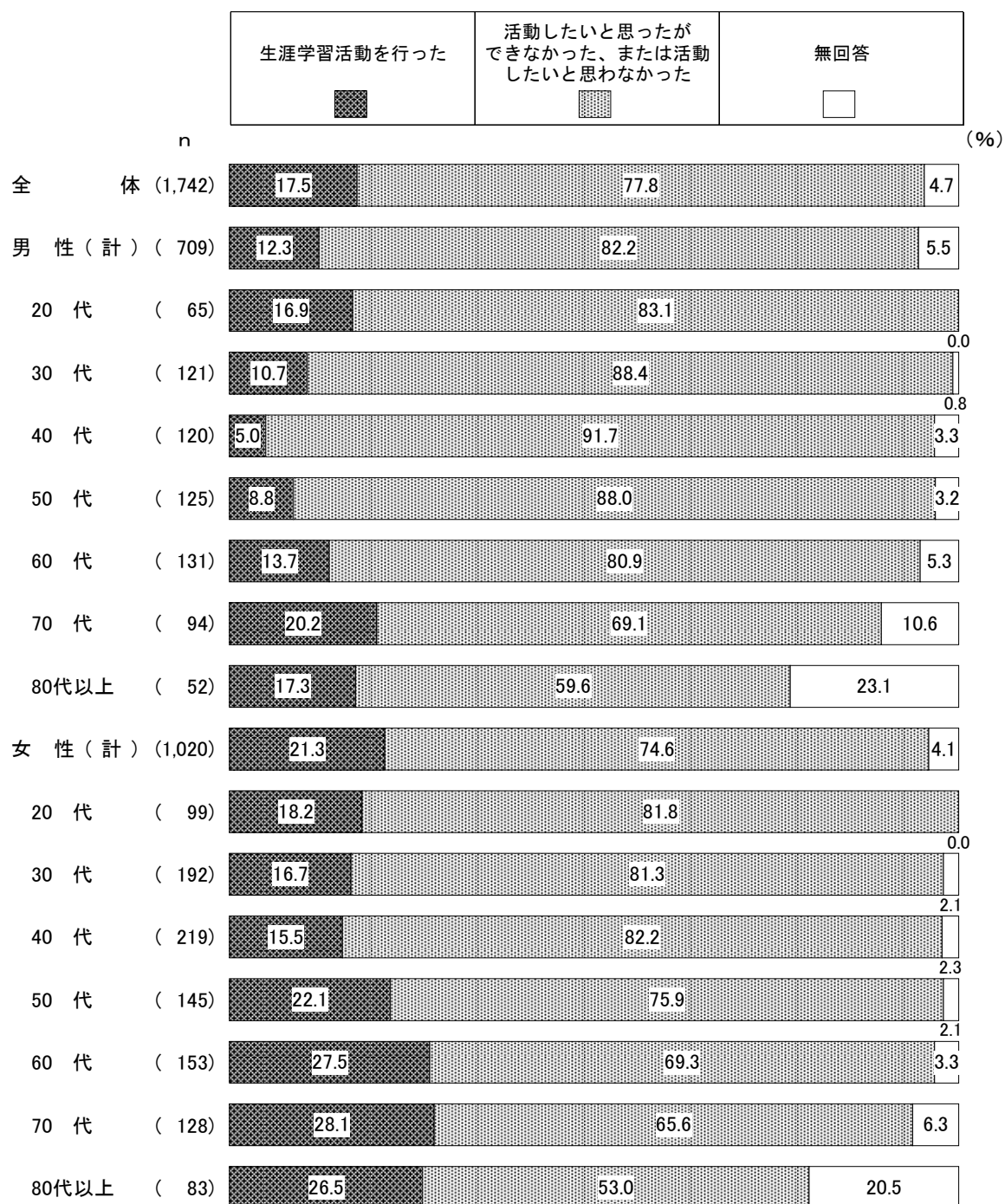
図 12-1-1 生涯学習活動への参加の有無 (全体)



(2) 性・年代別

- ・「生涯学習活動を行った」は女性（21.3%）が男性（12.3%）より9.0ポイント高くなっている。
- ・「生涯学習活動を行った」は男性70代（20.2%）と女性の50代以上の年代（50代22.1%、60代27.5%、70代28.1%、80代以上26.5%）で高くなっている。
- ・「活動したいと思ったができなかった、または活動したいと思わなかった」は男性40代（91.7%）で高くなっている。

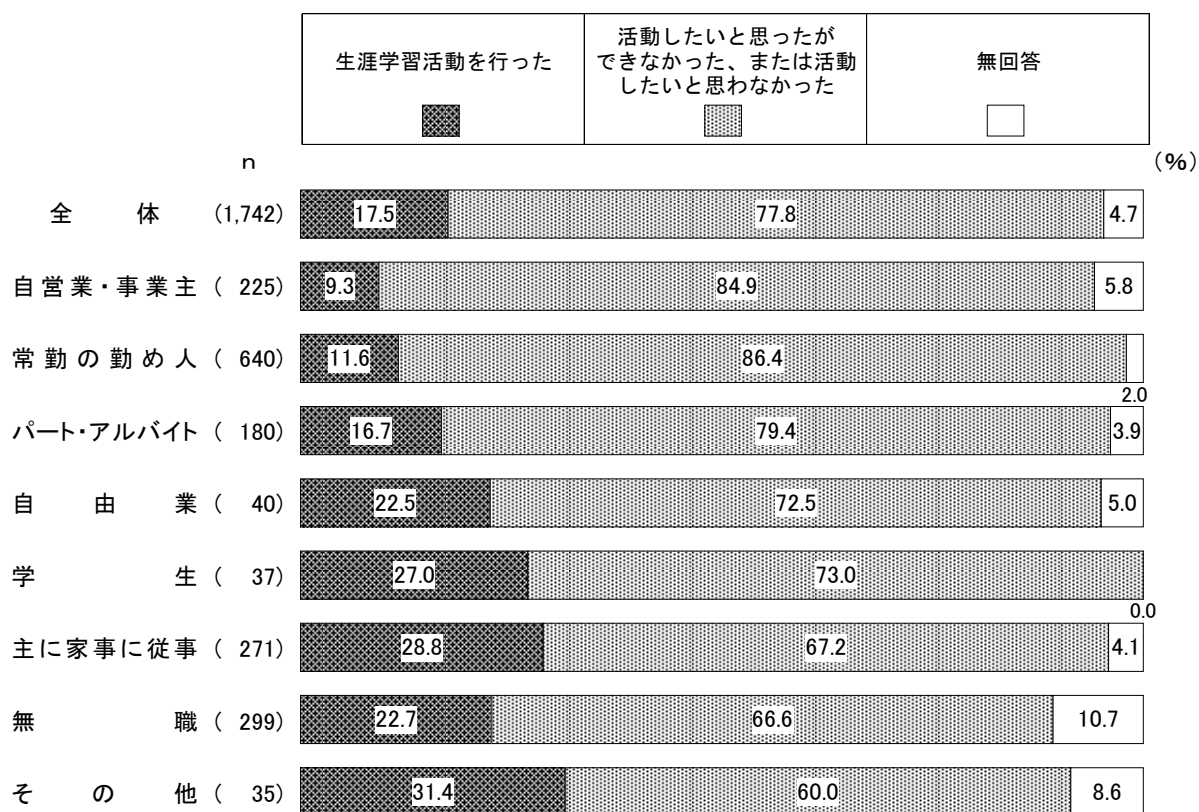
図 12-1-2 生涯学習活動への参加の有無（性・年代別）



(3) 職業別

- ・「生涯学習活動を行った」は主に家事に従事（28.8%）と学生（27.0%）で高くなっている。
- ・「活動したいと思ったができなかった、または活動したいと思わなかった」は常勤の勤め人（86.4%）と自営業・事業主（84.9%）で高くなっている。

図 12-1-3 生涯学習活動への参加の有無（職業別）



12-2 参加した生涯学習活動の種類

(問30で、「生涯学習活動を行った」と回答した方にお尋ねします)

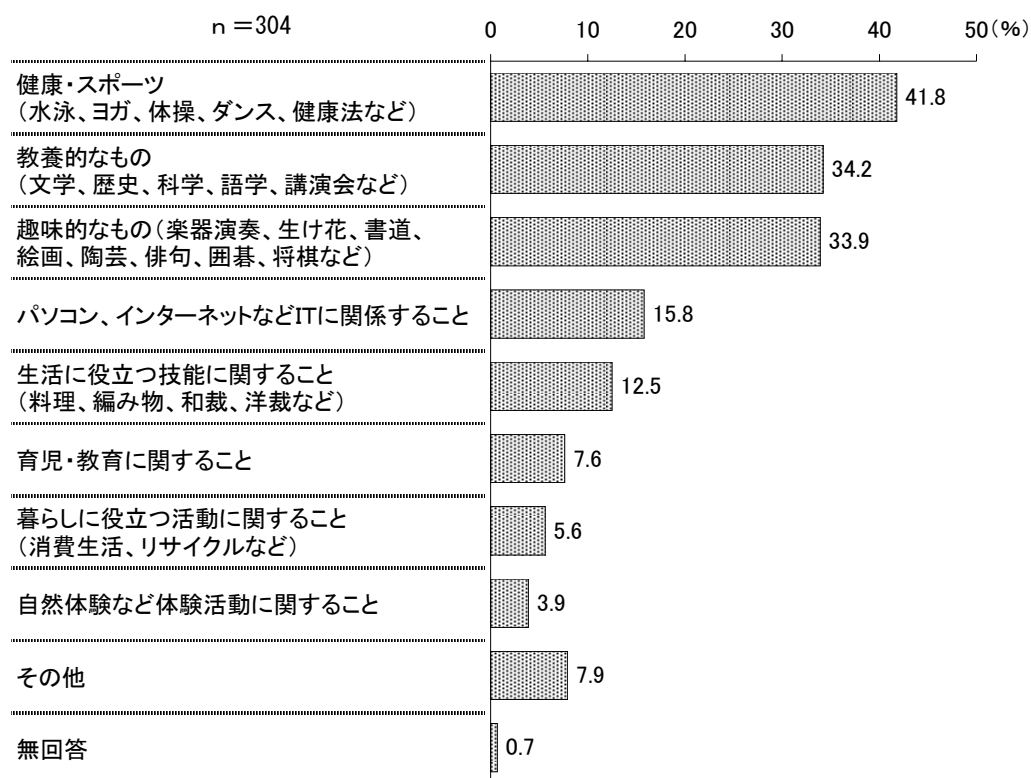
問30-1 どのような生涯学習活動に参加しましたか。(〇はいくつでも)

- ・「健康・スポーツ」が4割を超えて最も高く、次いで「教養的なもの」が3割半ば、「趣味的なもの」が3割を超えている。
- ・「健康・スポーツ」は女性が男性より高く、女性30代で高くなっている。
- ・「パソコン、インターネットなどITに関係すること」は男性が女性より高くなっている。

(1) 全体

- ・「健康・スポーツ」が41.8%で最も高く、次いで「教養的なもの」34.2%、「趣味的なもの」33.9%、「パソコン、インターネットなどITに関係すること」15.8%の順となっている。

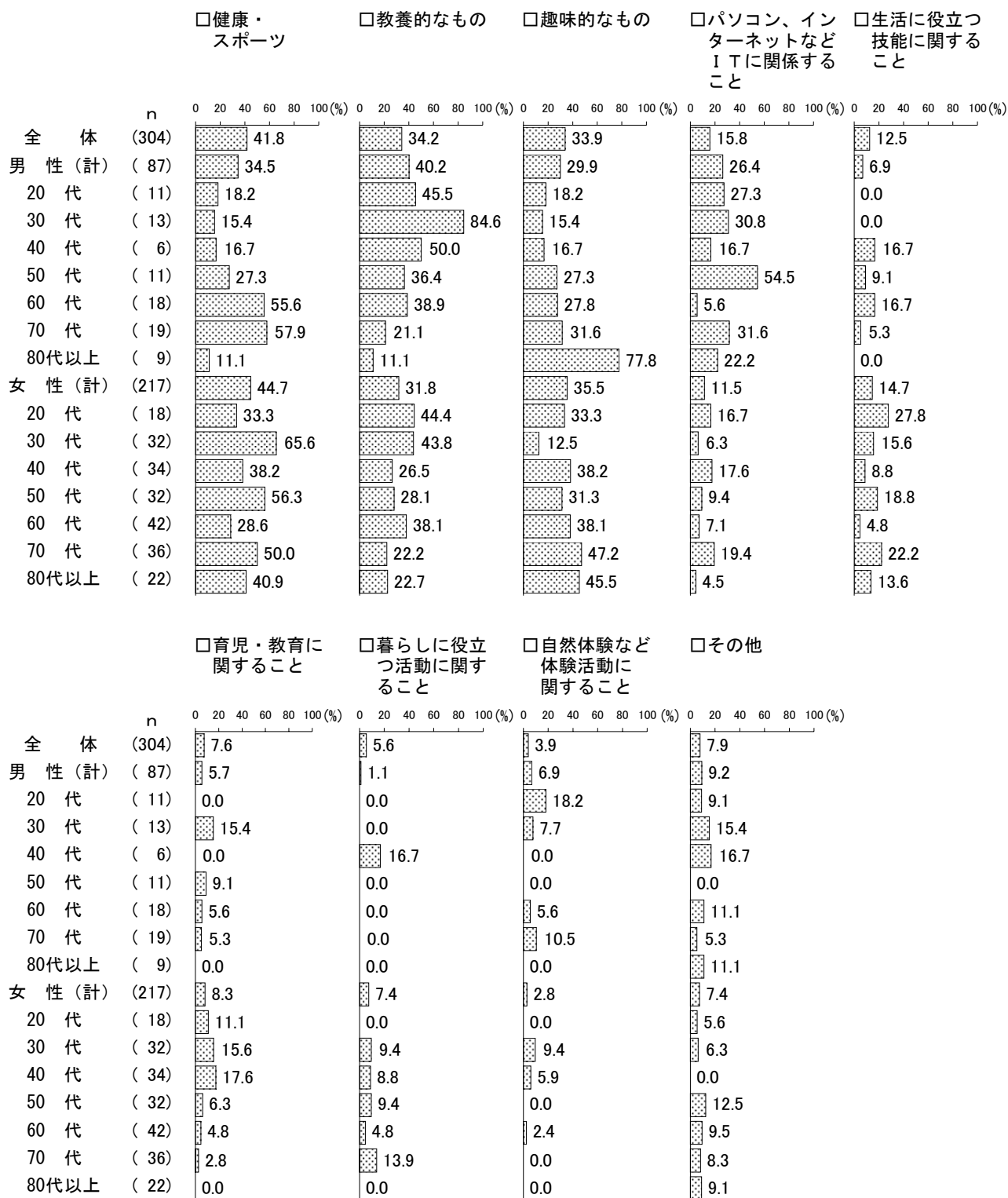
図12-2-1 参加した生涯学習活動の種類(全体)



(2) 性・年代別

- ・「パソコン、インターネットなどITに関係すること」は男性(26.4%)が女性(11.5%)より14.9ポイント高くなっている。一方、「健康・スポーツ」は女性(44.7%)が男性(34.5%)より10.2ポイント高くなっている。
- ・「健康・スポーツ」は女性30代(65.6%)で高くなっている。

図12-2-2 参加した生涯学習活動の種類(性・年代別)



12-3 生涯学習活動をしない理由

(問30で、「活動したいと思ったができなかった、または活動したいと思わなかった」と回答した方にお尋ねします)

問30-2 あなたが生涯学習活動をできなかった、またはしなかった理由を教えてください。

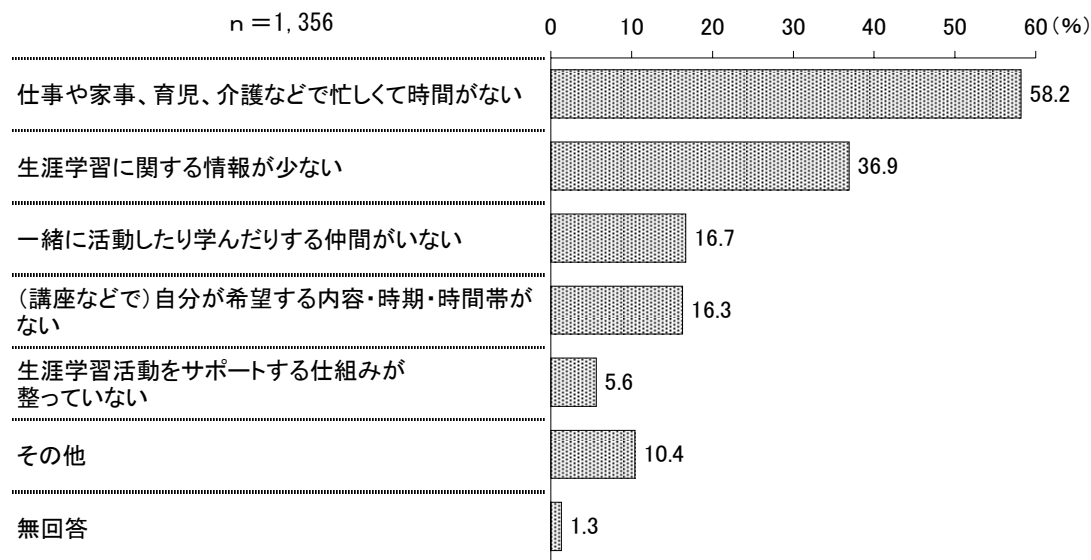
(〇はいくつでも)

- ・「仕事や家事、育児、介護などで忙しくて時間がない」が6割近くで最も高く、次いで「生涯学習に関する情報が少ない」が4割近くとなっている。
- ・「仕事や家事、育児、介護などで忙しくて時間がない」は女性が男性より高く、男性50代と女性40代で高くなっている。
- ・「生涯学習に関する情報が少ない」は女性30代で高くなっている。

(1) 全体

- ・「仕事や家事、育児、介護などで忙しくて時間がない」が58.2%で最も高く、次いで「生涯学習に関する情報が少ない」36.9%、「一緒に活動したり学んだりする仲間がいない」16.7%、「(講座などで)自分が希望する内容・時期・時間帯がない」16.3%の順となっている。

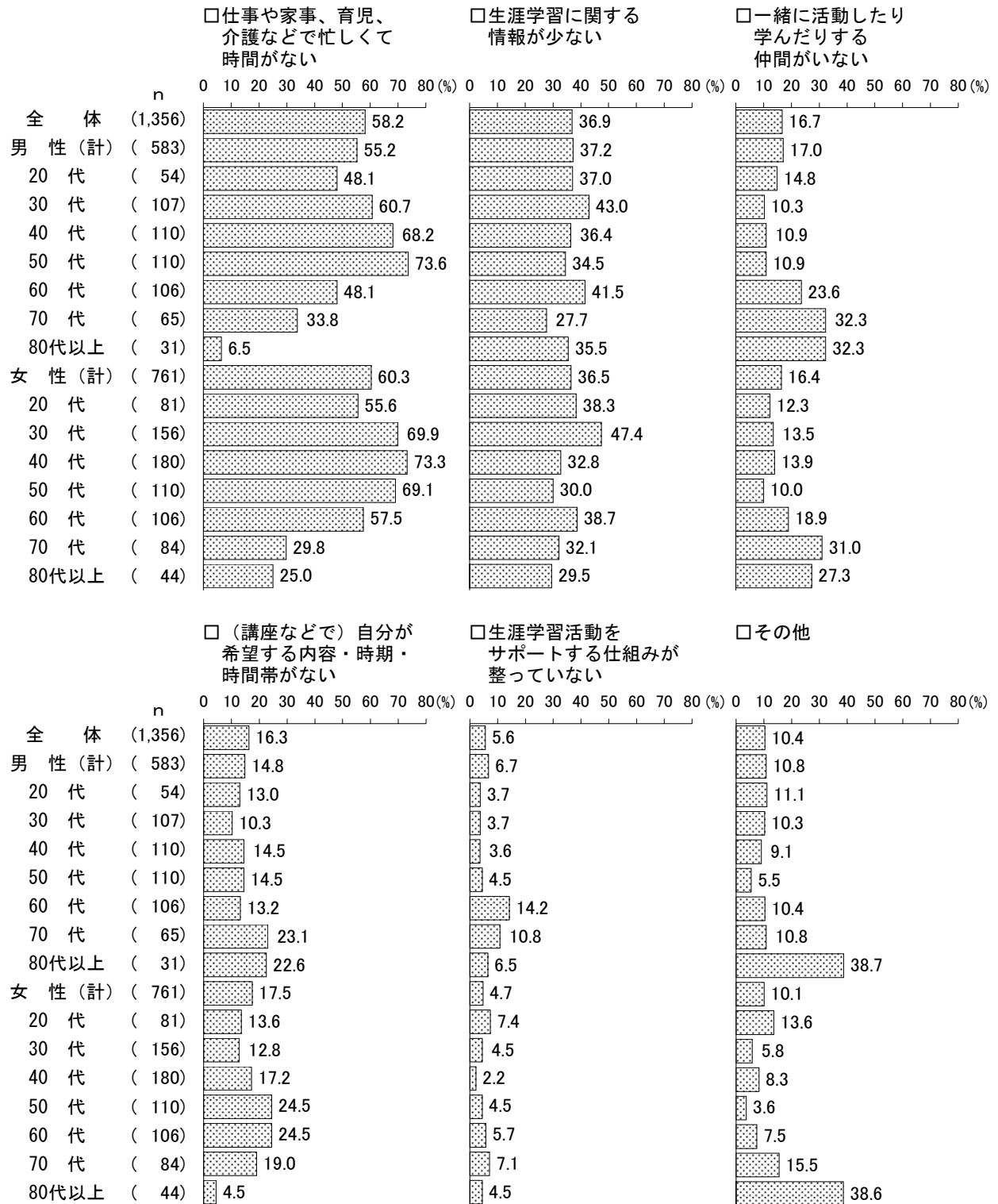
図12-3-1 生涯学習活動をしない理由(全体)



(2) 性・年代別

- ・「仕事や家事、育児、介護などで忙しくて時間がない」は女性(60.3%)が男性(55.2%)より5.1ポイント高くなっている。
- ・「仕事や家事、育児、介護などで忙しくて時間がない」は男性50代(73.6%)と女性40代(73.3%)で高くなっている。
- ・「生涯学習に関する情報が少ない」は女性30代(47.4%)で高くなっている。

図12-3-2 生涯学習活動をしらない理由(性・年代別)



12-4 生涯学習の推進のために必要なこと

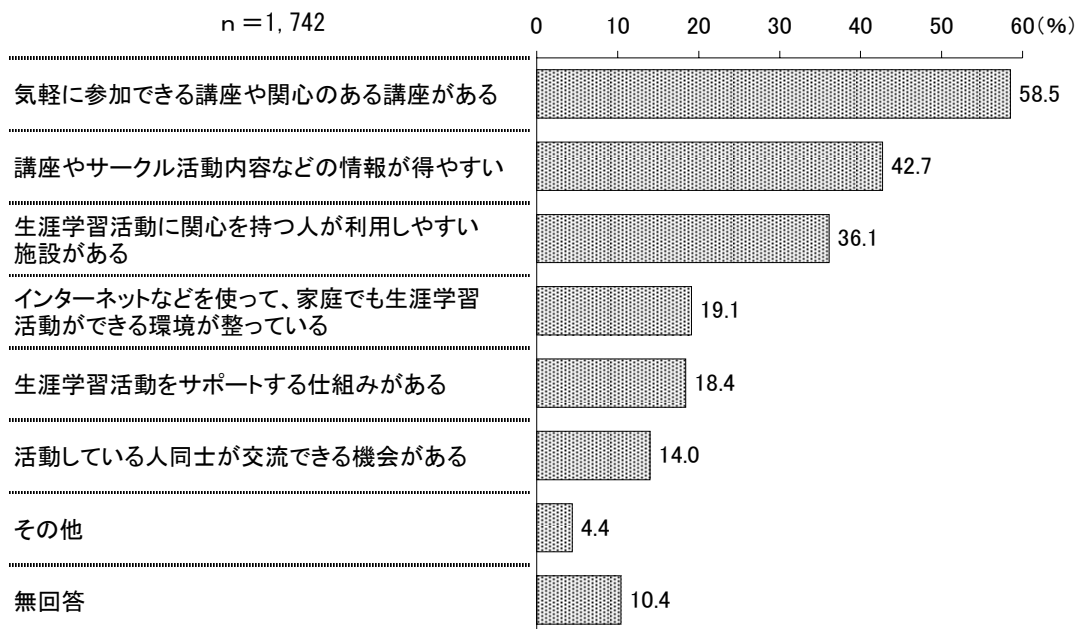
問31 生涯学習の推進のために、どんなことが必要だと思いますか。あなたが必要だと思うことに○をつけてください。（○は3つまで）

- ・「気軽に参加できる講座や関心のある講座がある」が6割近くで最も高く、次いで「講座やサークル活動内容などの情報が得やすい」が4割を超え、「生涯学習活動に関心を持つ人が利用しやすい施設がある」が3割半ばとなっている。
- ・「気軽に参加できる講座や関心のある講座がある」は女性が男性より高くなっている。
- ・「講座やサークル活動内容などの情報が得やすい」は女性が男性より高く、女性20代で高くなっている。
- ・「生涯学習活動に関心を持つ人が利用しやすい施設がある」は女性60代で高くなっている。

(1) 全体

- ・「気軽に参加できる講座や関心のある講座がある」が58.5%で最も高く、次いで「講座やサークル活動内容などの情報が得やすい」42.7%、「生涯学習活動に関心を持つ人が利用しやすい施設がある」36.1%、「インターネットなどを使って、家庭でも生涯学習活動ができる環境が整っている」19.1%の順となっている。

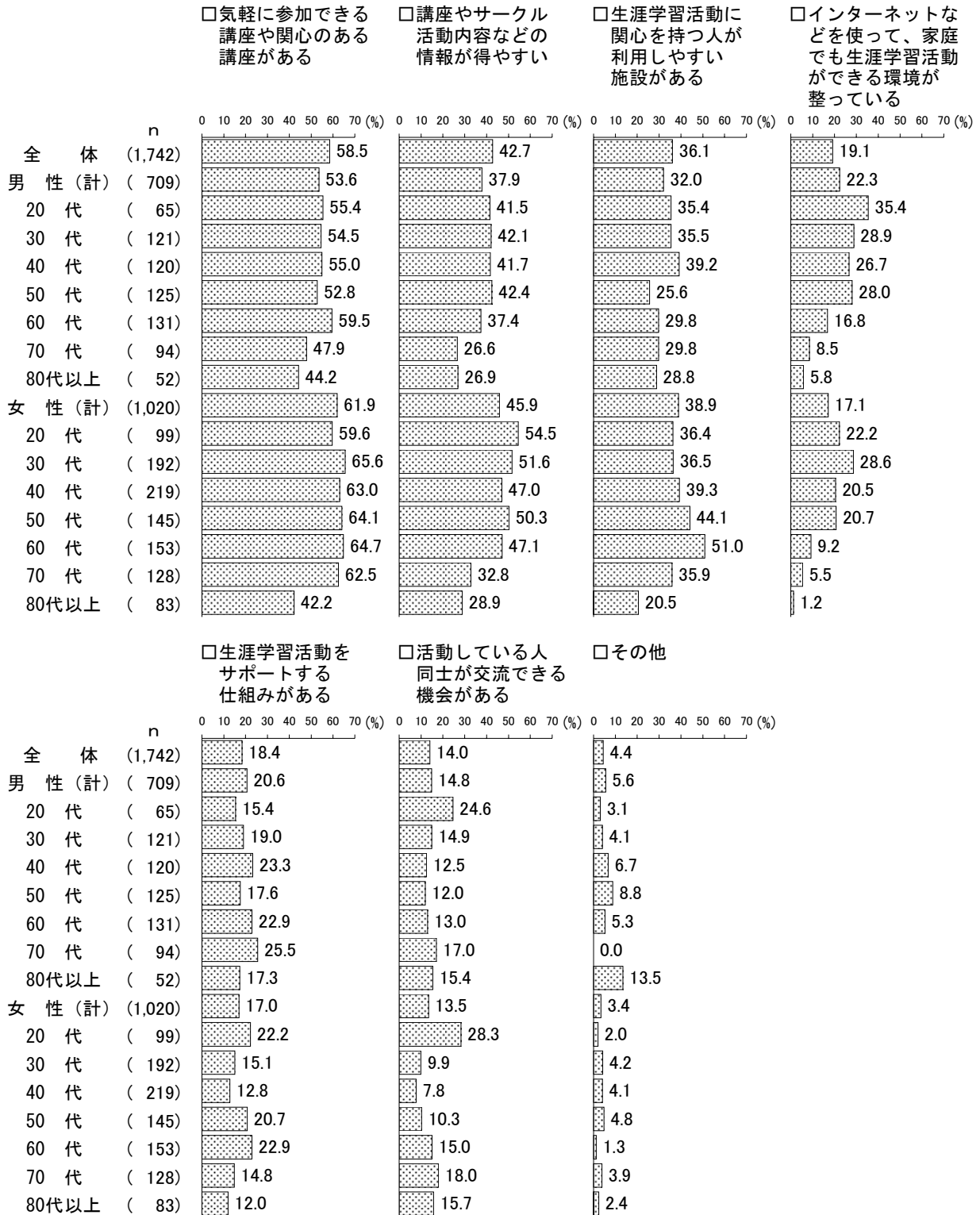
図 12-4-1 生涯学習の推進のために必要なこと（全体）



(2) 性・年代別

- ・「気軽に参加できる講座や関心のある講座がある」は女性 (61.9%) が男性 (53.6%) より 8.3 ポイント高く、「講座やサークル活動内容などの情報が得やすい」は女性 (45.9%) が男性 (37.9%) より 8.0 ポイント高くなっている。一方、「インターネットなどを使って、家庭でも生涯学習活動ができる環境が整っている」は男性 (22.3%) が女性 (17.1%) より 5.2 ポイント高くなっている。
- ・「講座やサークル活動内容などの情報が得やすい」は女性 20 代 (54.5%) で高く、「生涯学習活動に関心を持つ人が利用しやすい施設がある」は女性 60 代 (51.0%) で高くなっている。

図 12-4-2 生涯学習の推進のために必要なこと (性・年代別)



12-5 知識・経験の地域還元

問32 これまで学校や社会で得た知識や経験を生かして地域の活動等を行っていますか。

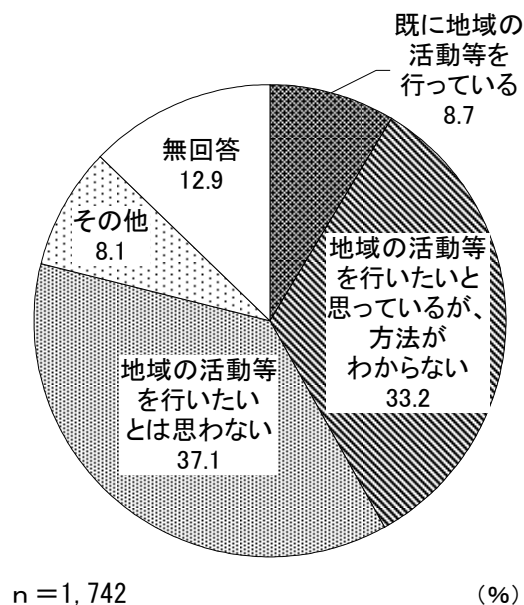
(○は1つ)

- ・「既に地域の活動等を行っている」が1割近く、「地域の活動等を行いたいと思っているが、方法がわからない」が3割を超えている。一方、「地域の活動等を行いたいとは思わない」が4割近くとなっている。
- ・「地域の活動等を行いたいと思っているが、方法がわからない」は男性が女性より高く、男性40代、女性の20代と30代で高くなっている。また、自由業で高くなっている。
- ・「地域の活動等を行いたいとは思わない」は男性が女性より高く、男性ではおおむね低い年代ほど割合が高い傾向にあり、男性の20代と30代で高くなっている。また、常勤の勤め人と学生で高くなっている。

(1) 全体

- ・「既に地域の活動等を行っている」が8.2%、「地域の活動等を行いたいと思っているが、方法がわからない」が33.2%となっている。一方、「地域の活動等を行いたいとは思わない」が37.1%となっている。

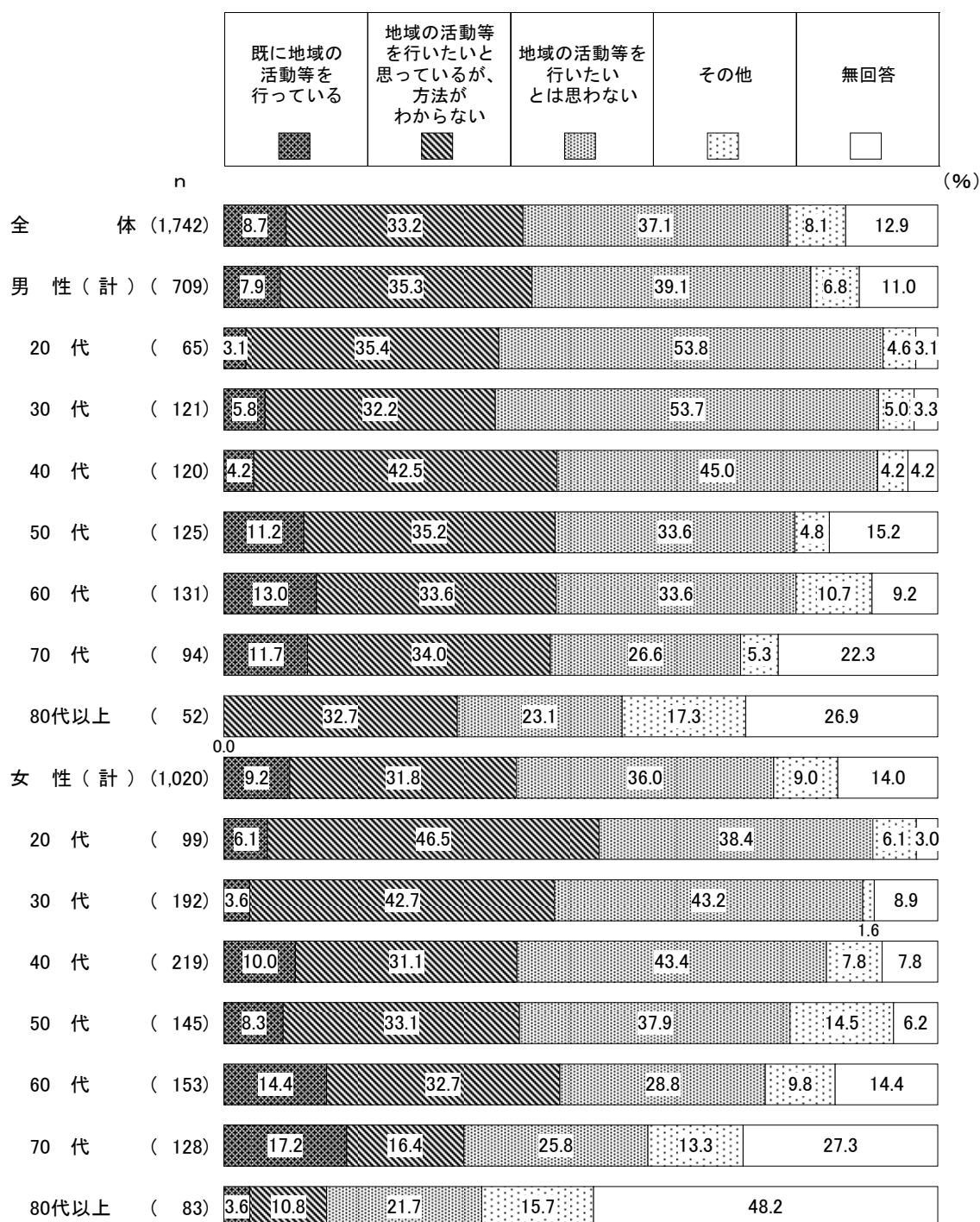
図 12-5-1 知識・経験の地域還元（全体）



(2) 性・年代別

- ・「地域の活動等を行いたいと思っているが、方法がわからない」は男性 (35.3%) が女性 (31.8%) より 3.5 ポイント高く、「地域の活動等を行いたいとは思わない」は男性 (39.1%) が女性 (36.0%) より 3.1 ポイント高くなっている。
- ・「地域の活動等を行いたいとは思わない」は男性ではおおむね低い年代ほど割合が高い傾向にあり、男性の 20 代 (53.8%) と 30 代 (53.7%) で高くなっている。
- ・「地域の活動等を行いたいと思っているが、方法がわからない」は男性 40 代 (42.5%)、女性の 20 代 (46.5%) と 30 代 (42.7%) で高くなっている。

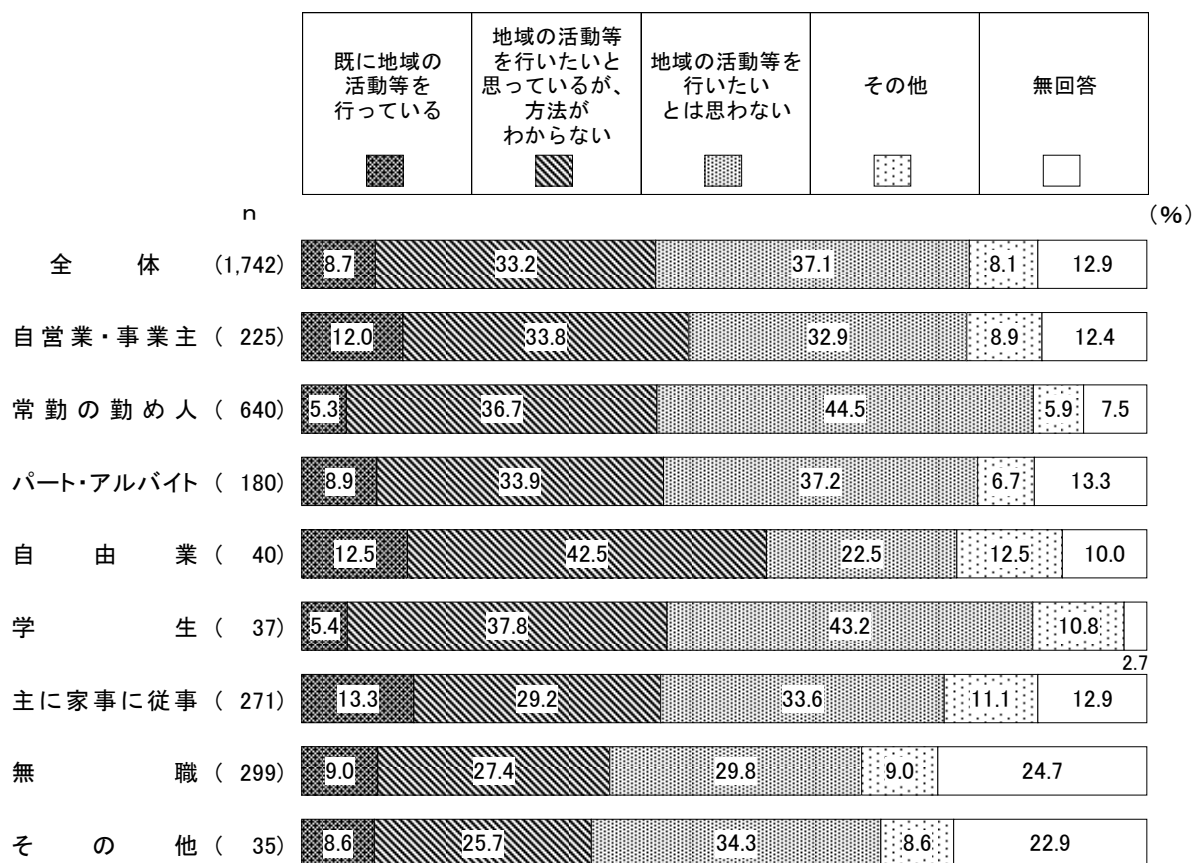
図 12-5-2 知識・経験の地域還元 (性・年代別)



(3) 職業別

- ・「地域の活動等を行いたいとは思わない」は常勤の勤め人（44.5%）と学生（43.2%）で高くなっている。
- ・「地域の活動等を行いたいと思っているが、方法がわからない」は自由業（42.5%）で高くなっている。

図 12-5-3 知識・経験の地域還元（職業別）



13. 図書館

13-1 図書館の利用状況

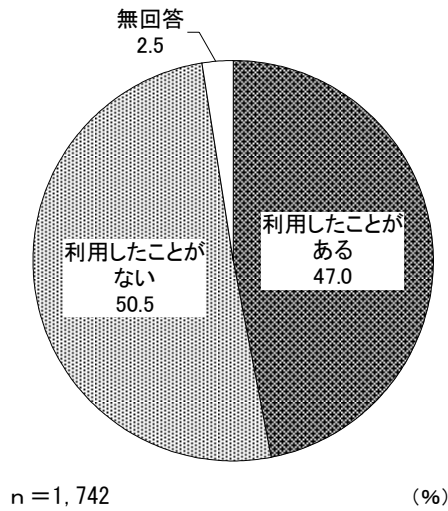
問33 あなたは、この1年間に、目黒区立の図書館を利用したことがありますか。（○は1つ）

- ・「利用したことがある」が5割近く、「利用したことがない」がほぼ5割となっている。
- ・「利用したことがある」は女性が男性より高く、男性80代以上、女性の20代と40代で高くなっている。また、西部地区と北部地区で高くなっている。
- ・「利用したことがない」は男性60代、女性の70代と80代以上で高くなっている。また、南部地区と東部地区で高くなっている。

(1) 全体

- ・「利用したことがある」が47.0%、「利用したことがない」が50.5%となっている。

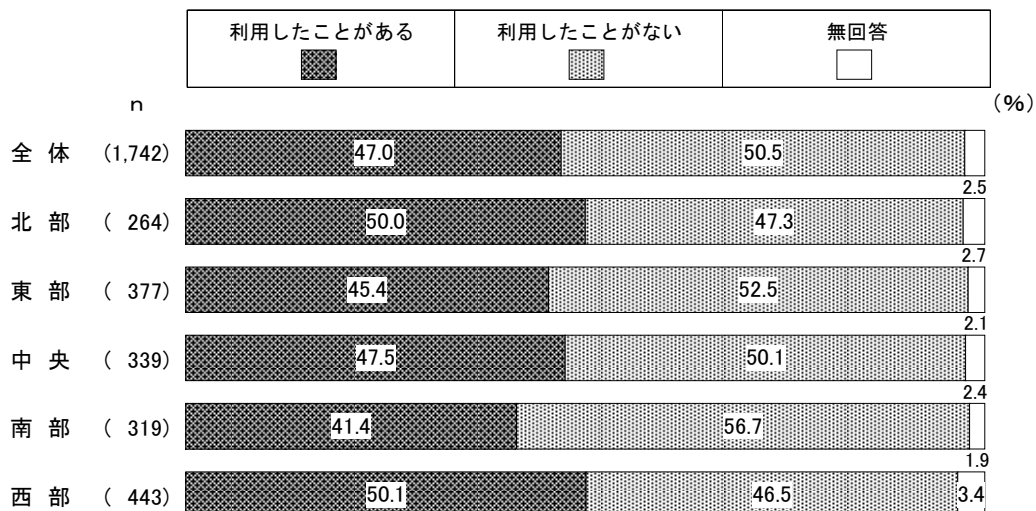
図 13-1-1 図書館の利用状況（全体）



(2) 地区別

- ・「利用したことがある」は西部地区（50.1%）と北部地区（50.0%）で高くなっている。
- ・「利用したことがない」は南部地区（56.7%）と東部地区（52.5%）で高くなっている。

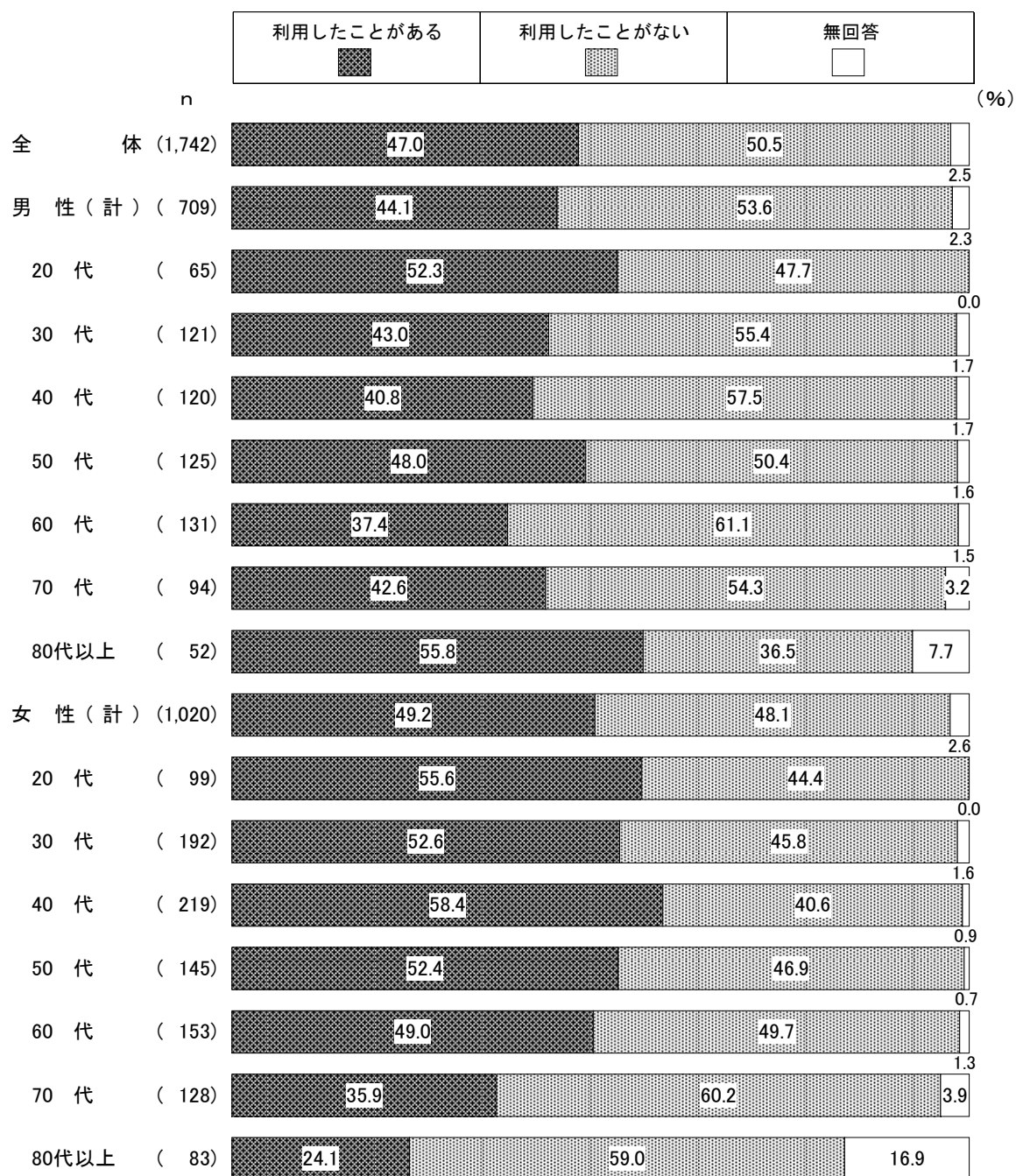
図 13-1-2 図書館の利用状況（地区別）



(3) 性・年代別

- ・「利用したことがある」は女性（49.2%）が男性（44.1%）より 5.1 ポイント高くなっている。
- ・「利用したことがある」は男性 80 代以上（55.8%）、女性の 20 代（55.6%）と 40 代（58.4%）で高くなっている。
- ・「利用したことがない」は男性 60 代（61.1%）、女性の 70 代（60.2%）と 80 代以上（59.0%）で高くなっている。

図 13-1-3 図書館の利用状況（性・年代別）



13-2 利用図書館

(問33で、目黒区立の図書館を「利用したことがある」と回答した方にお尋ねします)

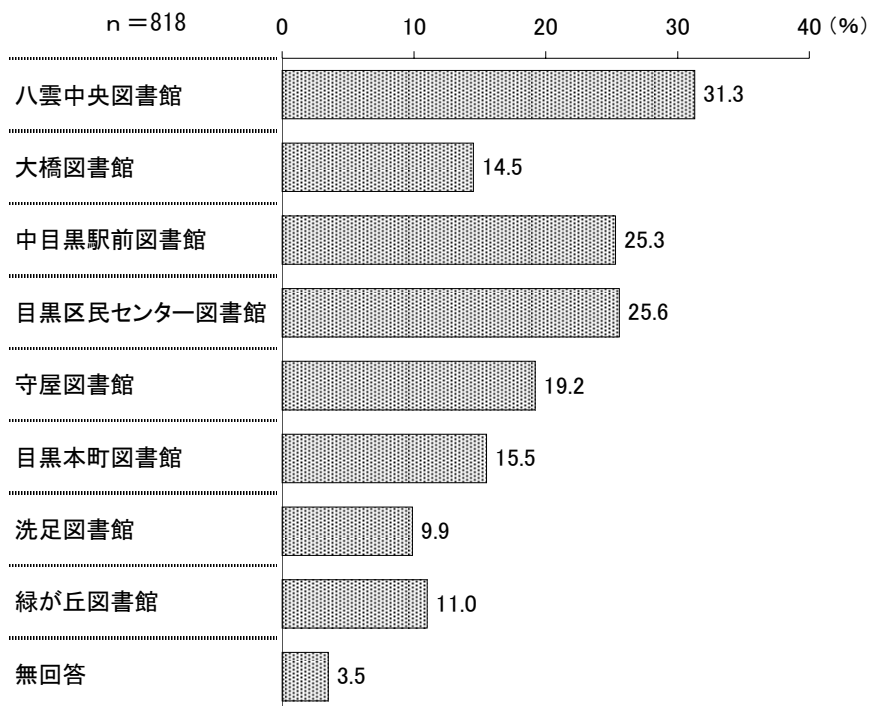
問33-1 利用した図書館はどこですか。(〇はいくつでも)

- ・「八雲中央図書館」が3割を超えて最も高く、次いで「目黒区民センター図書館」と「中目黒駅前図書館」が2割半ばとなっている。
- ・「八雲中央図書館」は女性20代で高く、西部地区で高くなっている。
- ・「目黒区民センター図書館」は女性が男性より高く、男性40代と女性80代以上で高くなっている。また、東部地区で高くなっている。
- ・「中目黒駅前図書館」は男性20代と女性30代で高く、北部地区で高くなっている。

(1) 全体

- ・「八雲中央図書館」が31.3%で最も高く、次いで「目黒区民センター図書館」25.6%、「中目黒駅前図書館」25.3%、「守屋図書館」19.2%の順となっている。

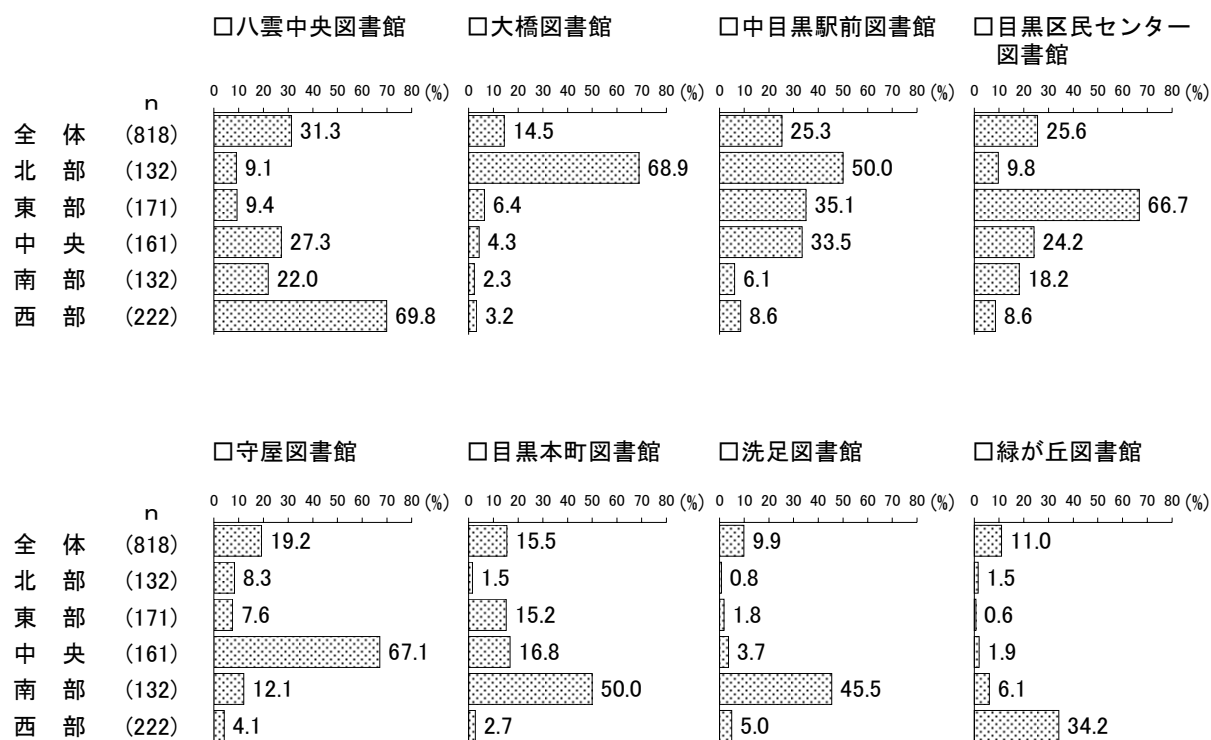
図13-2-1 利用図書館(全体)



(2) 地区別

- ・北部地区では「大橋図書館」(68.9%)と「中目黒駅前図書館」(50.0%)が高くなっている。
- ・東部地区では「目黒区民センター図書館」(66.7%)が高くなっている。
- ・中央地区では「守屋図書館」(67.1%)が高くなっている。
- ・南部地区では「目黒本町図書館」(50.0%)と「洗足図書館」(45.5%)が高くなっている。
- ・西部地区では「八雲中央図書館」(69.8%)と「緑が丘図書館」(34.2%)が高くなっている。

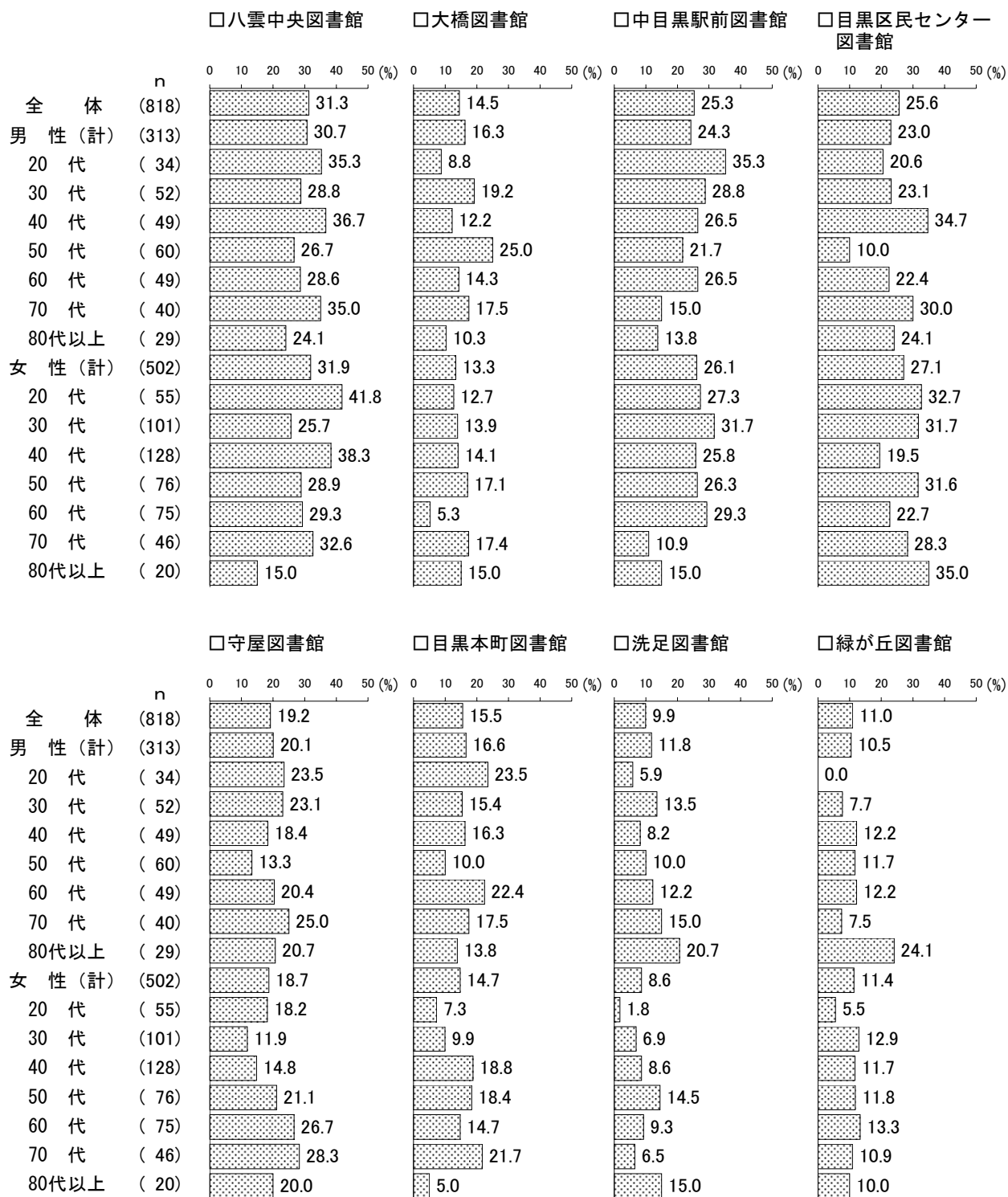
図 13-2-2 利用図書館 (地区別)



(3) 性・年代別

- ・「目黒区民センター図書館」は女性 (27.1%) が男性 (23.0%) より 4.1 ポイント高くなっている。
- 一方、「大橋図書館」は男性 (16.3%) が女性 (13.3%) より 3.0 ポイント高くなっている。
- ・「八雲中央図書館」は女性 20 代 (41.8%) で高くなっている。
- ・「目黒区民センター図書館」は男性 40 代 (34.7%) と女性 80 代以上 (35.0%) で高くなっている。
- ・「中目黒駅前図書館」は男性 20 代 (35.3%) と女性 30 代 (31.7%) で高くなっている。

図 13-2-3 利用図書館 (性・年代別)



13-3 図書館の利用頻度

(問 33 で、目黒区立の図書館を「利用したことがある」と回答した方にお尋ねします)

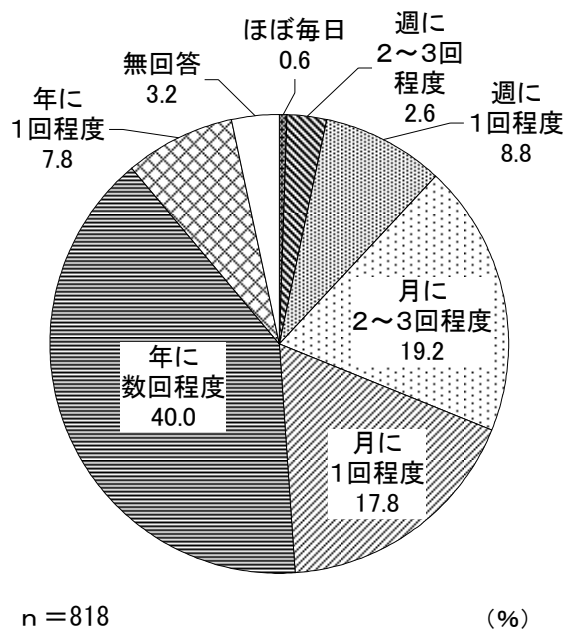
問33-2 この1年間にどれくらいの頻度で利用しましたか。(○は1つ)

- ・「年に数回程度」が4割、「月に2～3回程度」がほぼ2割、「月に1回程度」が2割近くとなっている。
- ・「年に数回程度」は男性20代で高くなっている。
- ・「月に2～3回程度」は男性80代以上と女性70代で高くなっている。
- ・「月に1回程度」は男性30代、女性の40代と80代以上で高くなっている。

(1) 全体

- ・「年に数回程度」が40.0%、「月に2～3回程度」が19.2%、「月に1回程度」が17.8%、「週に1回程度」が8.8%となっている。

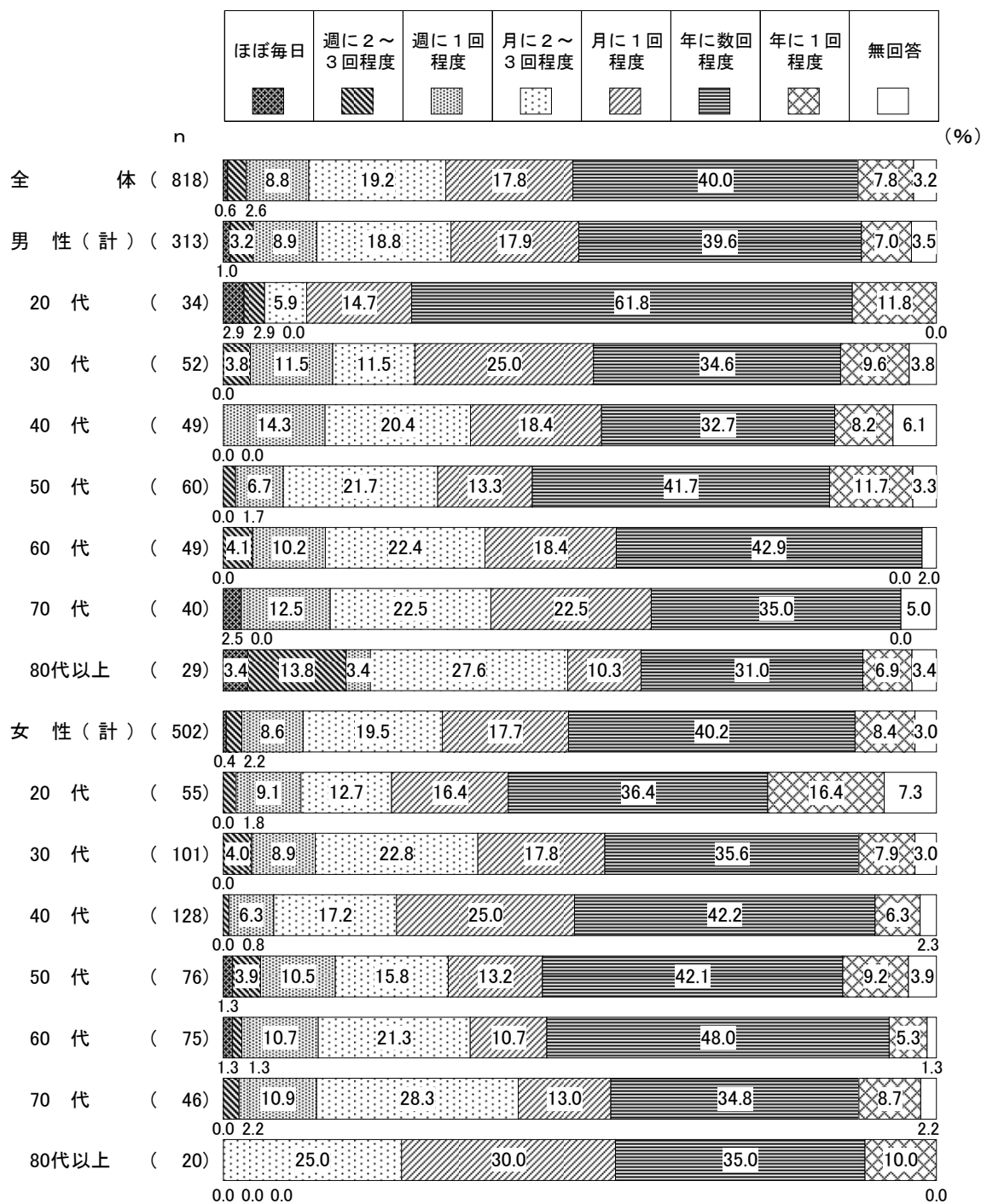
図 13-3-1 図書館の利用頻度 (全体)



(2) 性・年代別

- ・「年に数回程度」は男性 20 代 (61.8%) で高くなっている。
- ・「月に2～3回程度」は男性 80 代以上 (27.6%) と女性 70 代 (28.3%) で高くなっている。
- ・「月に1回程度」は男性 30 代 (25.0%)、女性の 40 代 (25.0%) と 80 代以上 (30.0%) で高くなっている。

図 13-3-2 図書館の利用頻度 (性・年代別)



13-4 今後に期待する図書館サービス

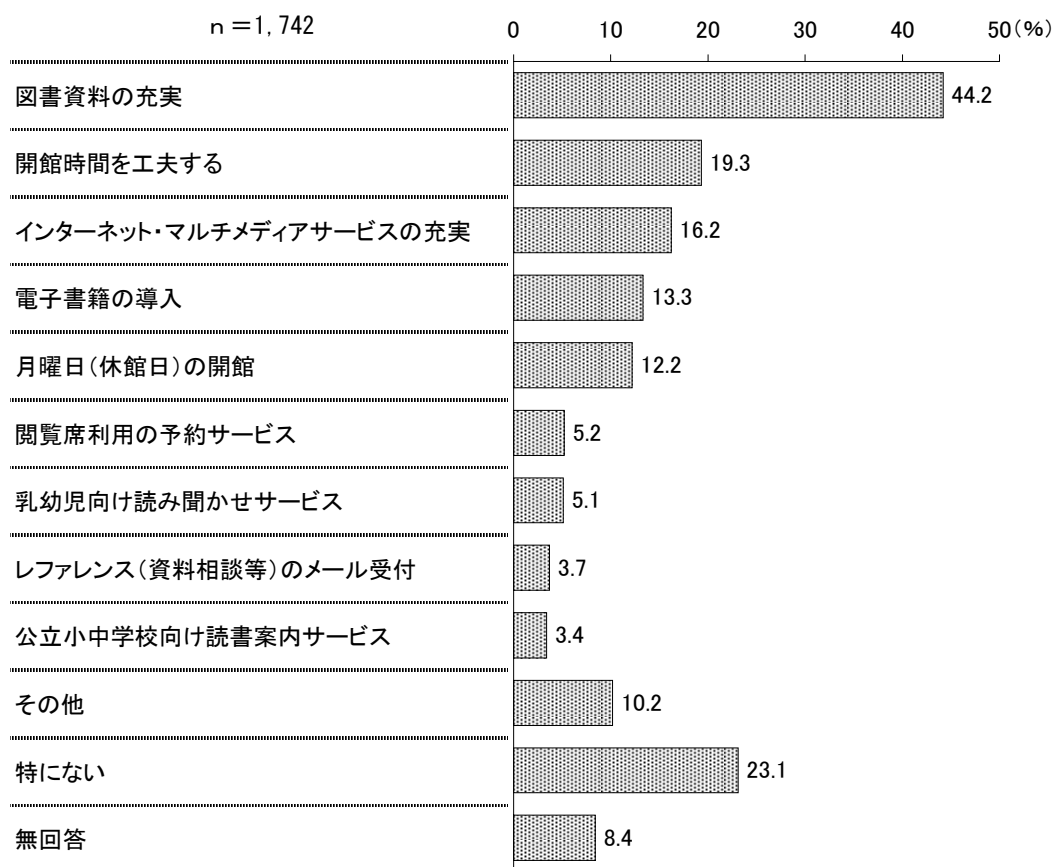
問34 今後の区立図書館に期待するサービスは何ですか。(〇はいくつでも)

- ・「図書資料の充実」が4割半ばで最も高く、次いで「開館時間を工夫する」がほぼ2割、「インターネット・マルチメディアサービスの充実」が1割半ばとなっている。
- ・「図書資料の充実」は男性30代で高く、女性では低い年代ほど割合が高い傾向にあり、特に女性20代で高くなっている。
- ・「開館時間を工夫する」は男性20代で高くなっている。
- ・「電子書籍の導入」は男性が女性より高く、男性20代で高くなっている。

(1) 全体

- ・「図書資料の充実」が44.2%で最も高く、次いで「開館時間を工夫する」19.3%、「インターネット・マルチメディアサービスの充実」16.2%、「電子書籍の導入」13.3%の順となっている。

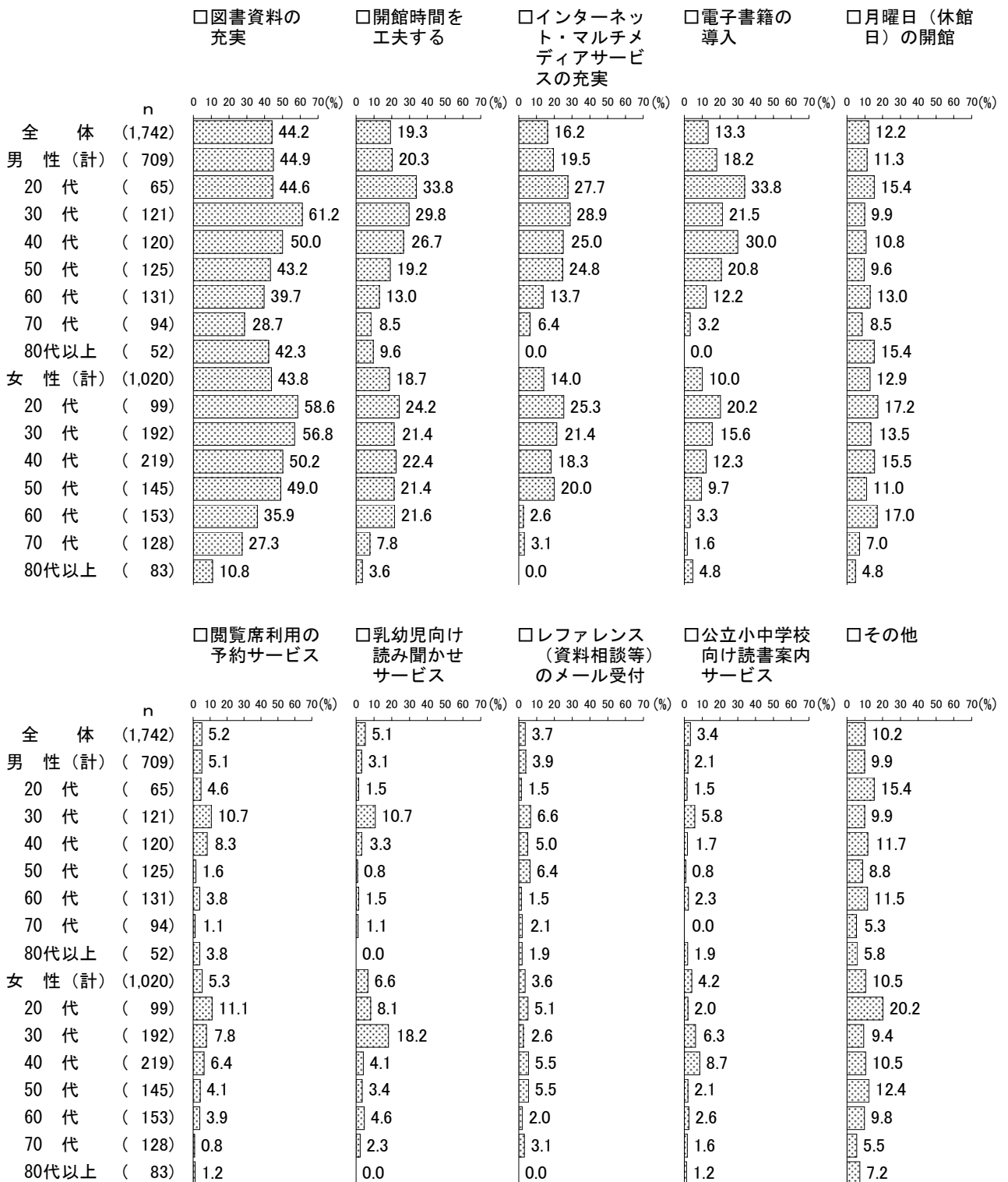
図 13-4-1 今後に期待する図書館サービス (全体)



(2) 性・年代別

- ・「電子書籍の導入」は男性（18.2%）が女性（10.0%）より 8.2 ポイント高く、「インターネット・マルチメディアサービスの充実」は男性（19.5%）が女性（14.0%）より 5.5 ポイント高くなっている。
- ・「図書資料の充実」は男性 30 代（61.2%）で高く、女性では低い年代ほど割合が高い傾向にあり、特に女性 20 代（58.6%）で高くなっている。
- ・「開館時間を工夫する」は男性 20 代（33.8%）で高く、「電子書籍の導入」は男性 20 代（33.8%）で高くなっている。

図 13-4-2 今後に期待する図書館サービス（性・年代別）



14. 窓口サービス

14-1 窓口サービスの印象

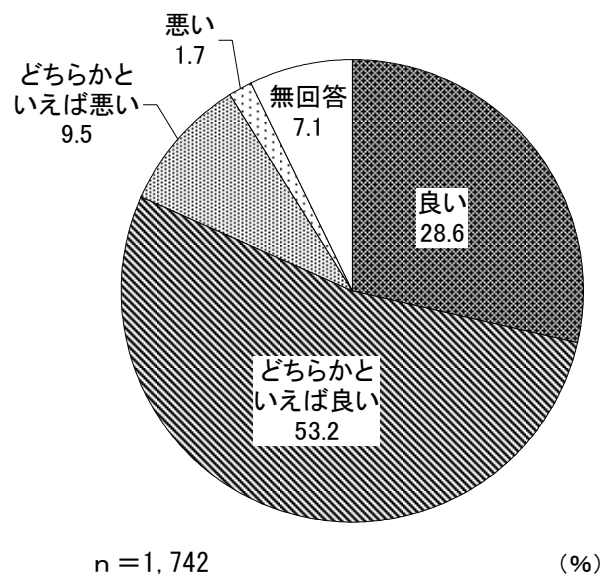
問35 区の窓口や職員の対応についてどのような印象をお持ちですか。(○は1つ)

- ・「良い」と「どちらかといえば良い」を合わせた『良い』は8割を占めている。
- ・「良い」は男性、女性ともに80代以上で高くなっている。
- ・「良い」と「どちらかといえば良い」を合わせた『良い』は女性30代で高くなっている。
- ・「どちらかといえば悪い」と「悪い」を合わせた『悪い』は女性20代で高くなっている。

(1) 全体

- ・「良い」28.6%と「どちらかといえば良い」53.2%を合わせた『良い』は81.8%となっている。一方、「どちらかといえば悪い」9.5%と「悪い」1.7%を合わせた『悪い』は11.2%となっている。

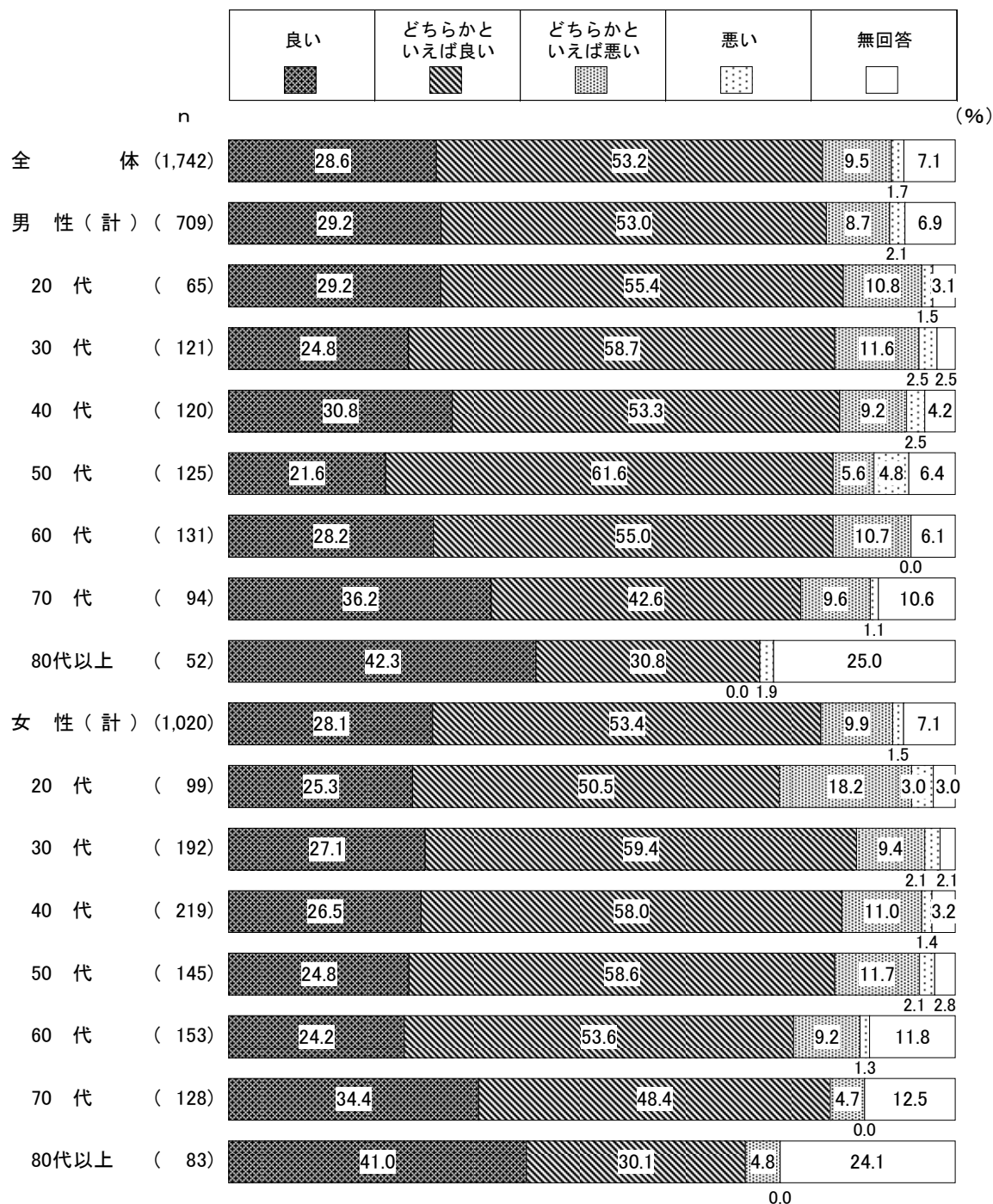
図 14-1-1 窓口サービスの印象(全体)



(2) 性・年代別

- ・「良い」は男性、女性ともに80代以上（男性42.3%、女性41.0%）で高くなっている。
- ・「良い」と「どちらかといえば良い」を合わせた『良い』は女性30代（86.5%）で高くなっている。
- ・「どちらかといえば悪い」と「悪い」を合わせた『悪い』は女性20代（21.2%）で高くなっている。

図 14-1-2 窓口サービスの印象（性・年代別）



14-2 印象が良かったところ

(問 35 で、区の窓口や職員の対応について「良い」「どちらかといえば良い」のいずれかに回答した方にお尋ねします)

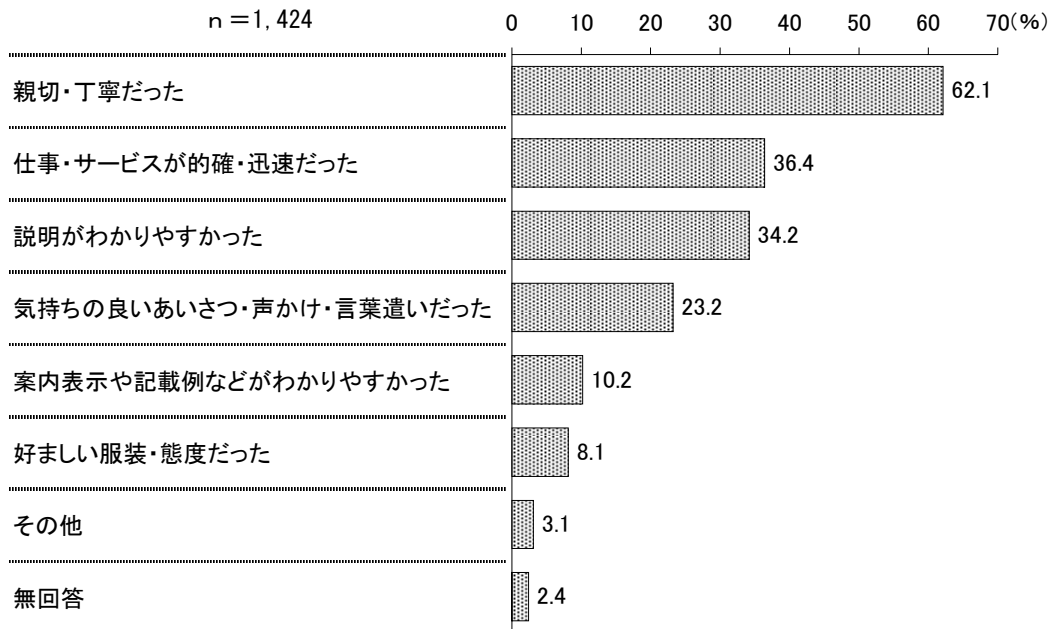
問35-1 印象が良かった点はどれですか。(〇はいくつでも)

- ・「親切・丁寧だった」が6割を超えて最も高く、次いで「仕事・サービスが的確・迅速だった」と「説明がわかりやすかった」が3割半ば、「気持ちの良いあいさつ・声かけ・言葉遣いだった」が2割を超えている。
- ・「親切・丁寧だった」は男性の30代と70代、女性の70代と80代以上で高くなっている。
- ・「説明がわかりやすかった」は男性が女性より高く、男性80代以上と女性70代で高くなっている。

(1) 全体

- ・「親切・丁寧だった」が62.1%で最も高く、次いで「仕事・サービスが的確・迅速だった」36.4%、「説明がわかりやすかった」34.2%、「気持ちの良いあいさつ・声かけ・言葉遣いだった」23.2%の順となっている。

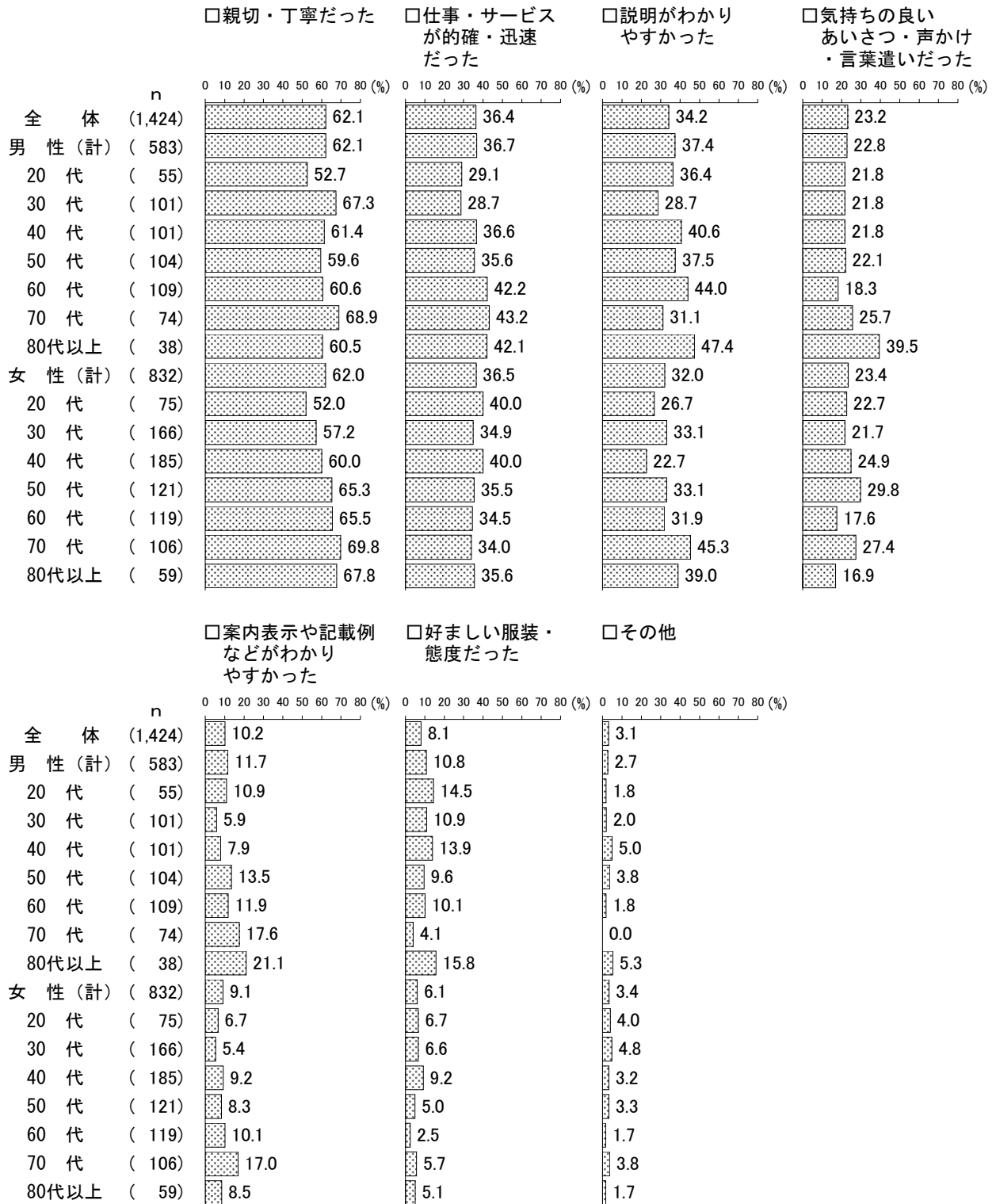
図 14-2-1 印象が良かったところ (全体)



(2) 性・年代別

- ・「説明がわかりやすかった」は男性 (37.4%) が女性 (32.0%) より 5.4 ポイント高く、「好ましい服装・態度だった」は男性 (10.8%) が女性 (6.1%) より 4.7 ポイント高くなっている。
- ・「親切・丁寧だった」は男性の 30 代 (67.3%) と 70 代 (68.9%)、女性の 70 代 (69.8%) と 80 代以上 (67.8%) で高くなっている。
- ・「説明がわかりやすかった」は男性 80 代以上 (47.4%) と女性 70 代 (45.3%) で高くなっている。

図 14-2-2 印象が良かったところ (性・年代別)



14-3 印象が悪かったところ

(問 35 で、区の窓口や職員の対応について「どちらかといえば悪い」「悪い」のいずれかに回答した方にお尋ねします)

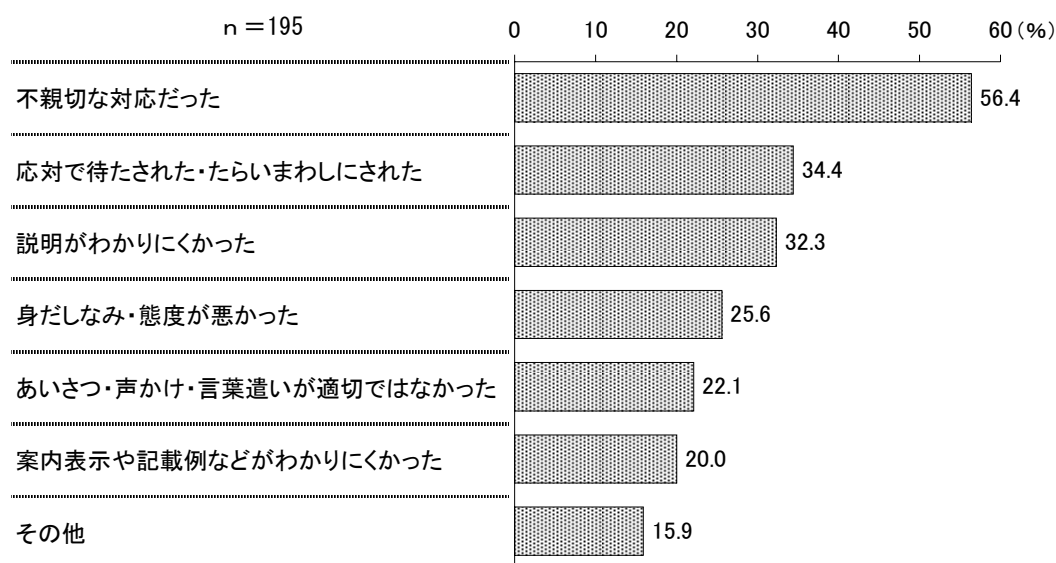
問35-2 印象が悪かった点はどれですか。(〇はいくつでも)

- ・「不親切な対応だった」が5割半ばで最も高く、次いで「対応で待たされた・たらいまわしにされた」が3割半ば、「説明がわかりにくかった」が3割を超え、「身だしなみ・態度が悪かった」が2割半ばとなっている。
- ・「説明がわかりにくかった」は女性が男性より高く、「あいさつ・声かけ・言葉遣いが適切ではなかった」は男性が女性より高くなっている。

(1) 全体

- ・「不親切な対応だった」が56.4%で最も高く、次いで「対応で待たされた・たらいまわしにされた」34.4%、「説明がわかりにくかった」32.3%、「身だしなみ・態度が悪かった」25.6%の順となっている。

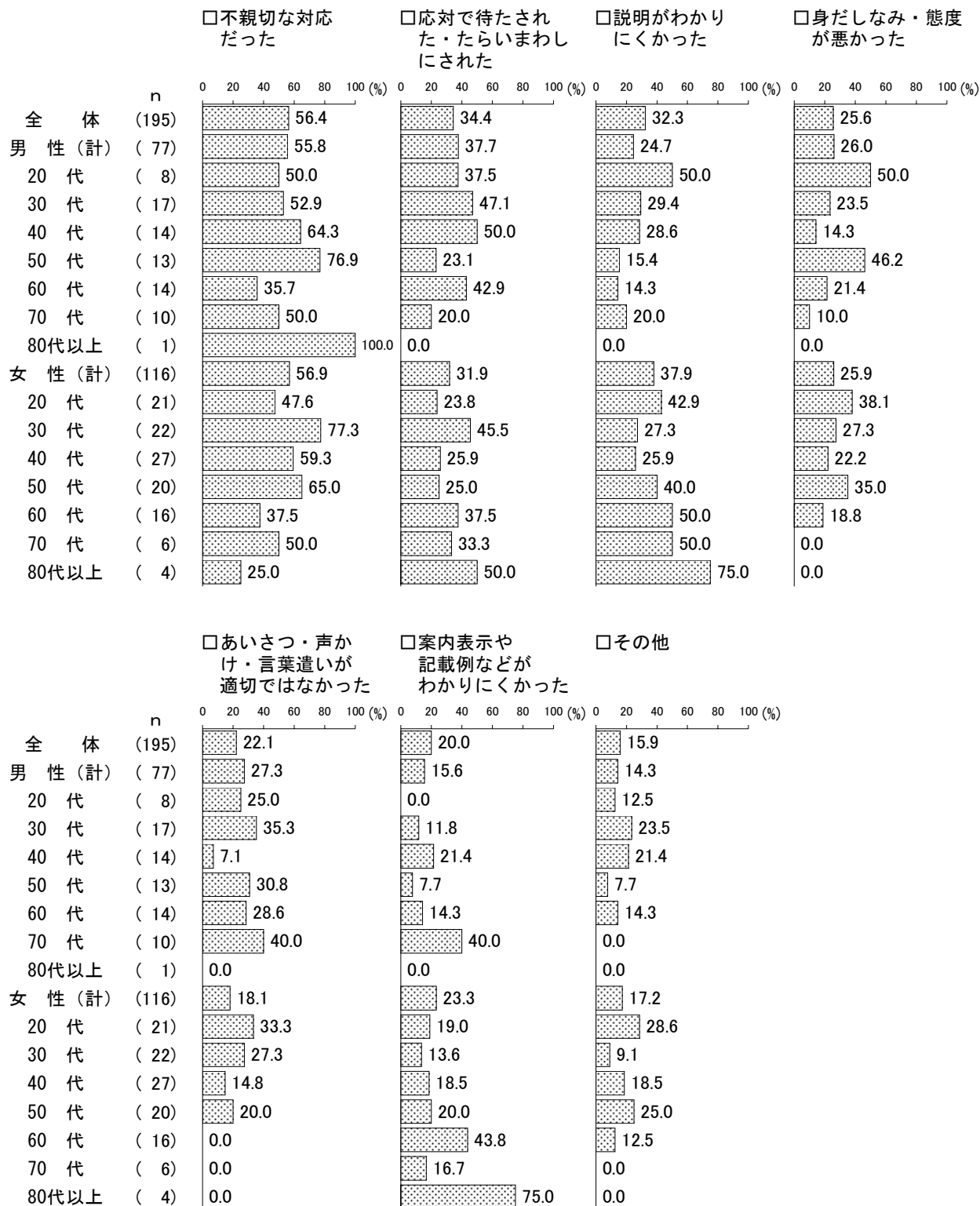
図 14-3-1 印象が悪かったところ (全体)



(2) 性・年代別

- ・「説明がわかりにくかった」は女性 (37.9%) が男性 (24.7%) より 13.2 ポイント高くなっている。一方、「あいさつ・声かけ・言葉遣いが適切ではなかった」は男性 (27.3%) が女性 (18.1%) より 9.2 ポイント高くなっている。

図 14-3-2 印象が悪かったところ (性・年代別)



14-4 今後気をつけるべきところ

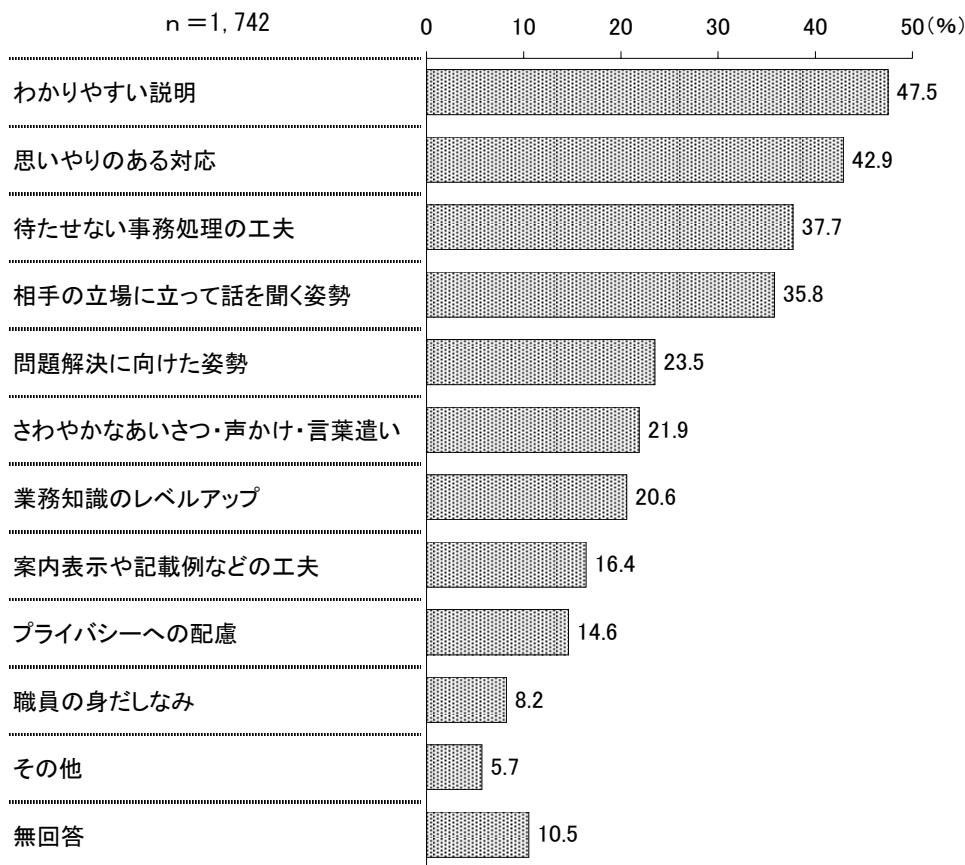
問36 区の窓口や職員の対応について、今後、区はどのような点に注意すべきだと思いますか。
(〇はいくつでも)

- ・「わかりやすい説明」が5割近くで最も高く、次いで「思いやりのある対応」が4割を超え、「待たせない事務処理の工夫」が4割近く、「相手の立場に立って話を聞く姿勢」が3割半ばとなっている。
- ・「わかりやすい説明」は男性30代と女性50代で高くなっている。
- ・「思いやりのある対応」は女性が男性より高く、男性80代以上と女性20代で高くなっている。

(1) 全体

- ・「わかりやすい説明」が47.5%で最も高く、次いで「思いやりのある対応」42.9%、「待たせない事務処理の工夫」37.7%、「相手の立場に立って話を聞く姿勢」35.8%の順となっている。

図 14-4-1 今後気をつけるべきところ (全体)



(2) 性・年代別

- ・「相手の立場に立って話を聞く姿勢」は女性 (37.7%) が男性 (33.1%) より 4.6 ポイント高く、「思いやりのある対応」は女性 (44.6%) が男性 (40.5%) より 4.1 ポイント高くなっている。
- ・「わかりやすい説明」は男性 30 代 (53.7%) と女性 50 代 (60.7%) で高くなっている。
- ・「思いやりのある対応」は男性 80 代以上 (50.0%) と女性 20 代 (54.5%) で高く、「待たせない事務処理の工夫」は男性 30 代 (46.3%) で高くなっている。

図 14-4-2 今後気をつけるべきところ【上位 10 項目】(性・年代別)

